2021年度

シ　ラ　バ　ス

桐生大学　短期大学部

生活科学科

講義コード	30010001
講義名	歴史と文化
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

歴史を理解するにあたっては、過去の事柄を知るだけでなく現代と結びつけて理解することが大切です。授業では、日本の戦国時代末期から近代日本が確立する明治末期までの時期を中心に説明します。授業の形態は、双方向型の遠隔授業で行います。理解を確認するために授業時に「確認問題」を実施するとともに、その問題の解答と解説を行います。あるいは、解答のみをＷｅｂで提出してもらい、次週に解答と解説を行います。本科目は、歴史を学ぶことを通して、人間や社会に対する理解を深めていくことを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、という項目と関連しています。本講義を通じて、日本社会に対する理解を深め、私たちの身近な問題を歴史的に、さらに科学的・多面的に理解することできるようになること目指します。

到達目標

日本の封建社会から近代社会への移行期を学ぶことによって、その後の日本の方向性、さらには今日との関係について考えることができるようになることを目標とします。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	大航海時代の世界と日本 オリエンテーション（授業内容、授業の進め方、成績評価等） 大航海時代の世界状況と日本について学びます。	予習90分：シラバスの内容をよく確認しておくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	16世紀のアジアと日本 16世紀の東インド貿易圏と日本との関係について説明します。	予習90分：プリント資料を読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	織豊時代（１）	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこ

第3回	織田信長の天下統一と経済政策について学びます。	と。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	織豊時代（２） 豊臣秀吉の経済政策について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	江戸幕府の成立 江戸幕府の成立や統治機構の整備について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	近世の村（１） 江戸時代の村の成立について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	近世の村（２） 江戸時代の農民の生活について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	幕藩体制の経済構造 江戸時代の経済構造の形成と特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	商品経済の発展 幕藩体制下で商品経済がどのように発展していったのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	幕藩体制の動揺 商品経済の発展が幕藩体制をどのように変化させていったのかについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	19世紀の東アジア情勢 欧米列強が進出するようになった東アジア情勢について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	開国の影響 開国の経済的影響と幕藩体制の崩壊について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	明治政府の成立 明治維新から大日本帝国憲法制定までの政治過程について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	日本資本主義の形成 明治以降、日本の資本主義体制がどのように形成されていったのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	帝国日本の誕生 日清・日露の「戦後経営」とその後の日本について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

教科書は使用しません。プリント資料を配布します。

参考書

必要に応じて随時紹介していきます。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験60%、平常点（確認問題の提出、授業への取り組み等）40%

課題等に対する

フィードバックの方法
授業内に実施した確認プリント等については、原則次週返却します。次週、改めて解答と解説を行い、質問等に対してはその授業内に答えます。
履修のポイント
まず授業資料（プリント）を繰り返し読んで下さい。次に、授業項目の重要点について文章として簡単にまとめておいて下さい。その作業を繰り返し行うと力がついていきます。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後質問等に応じます。
科目区分
基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C010

講義コード	30020001
講義名	くらしと色彩
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大日向 基子	指定なし

授業の概要と教育目標

カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト（東京商工会議所）に沿って授業を行う。本科目では、普段の生活にごく当たり前に溶け込んでいる色についての認識を新たにすると共に、その重要性や身近な活用例、配色テクニック、色の心理的側面、消費者が好む色等にも幅広く意識を向け、学生の色に対する興味関心を高めることを、教育の目標とする。

※シラバスの内容、実施順番等については状況により変更する場合がある
※本授業は2回の中間テストの合計により成績評価を行い、定期試験は実施しない
※中間テストは授業で扱った範囲内から出題する

卒業認定・学位授与の方針との関連

「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」という短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、色彩への理解を通して「生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について」科学的な理解を深め、色に関する興味・関心を引き出す学修を目指すものとする。

到達目標

学生は、日々の生活をより豊かにするため、色の効果を楽しんで活用することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	大日向基子	前提講義 Chap1 生活と色の効用 1)色の効用 2)色の違いで気分が変わる 3)色の基礎事項	パワーポイントスライドやカラーチャート、色画用紙等を用いて、色の性質についての意識を高める	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
	大			予習90分：

第2回	日向基子	Chap1 生活と色の効用 1)色の効用 2)色の違いで気分が変わる 3)色の基礎事項	パワーポイントスライドやカラーチャート、色画用紙等を用いて、色の性質についての意識を高める	教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第3回	大日向基子	Chap2 色を自在に操る方法 1)色の分類 2)色の表示方法 3)色名と名前のつけ方 4)PCCS—色を操り、記録し、伝える手法(PCCS) 5)マンセル表色系ー色彩のプロが使う正確な色の伝え方		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第4回	大日向基子	Chap2 色を自在に操る方法 1)色の分類 2)色の表示方法 3)色名と名前のつけ方 4)PCCS—色を操り、記録し、伝える手法(PCCS) 5)マンセル表色系ー色彩のプロが使う正確な色の伝え方		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第5回	大日向基子	Chap3 きれいな配色をつくる 1)配色を知る 2)配色を使いこなす		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第6回	大日向基子	Chap3 きれいな配色をつくる 1)配色を知る 2)配色を使いこなす		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第7回	大日向基子	Chap4 色を美しく見せる光のマジック 1)光から色が生まれるしくみ 2)光から生まれる色の世界		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第8回	大日向基子	中間テスト1 Chap4 色を美しく見せる光のマジック 1)光から色が生まれるしくみ 2)光から生まれる色の世界		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第9回	大日向基子	Chap5 背景色を上手に使って色の見えを変えてみよう 1)色の見えを左右する基礎事項と色使いのポイント 2)色の効果を活用するために		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第10回	大日向	Chap5 背景色を上手に使って色の見えを変えてみよう 1)色の見えを左右する基礎事項と		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布

	基子	色使いのポイント 2)色の効果を活用するために		資料、ノート等を見直す
第11回	大日向基子	Chap6 色で売り上げをアップするために 1)消費者が選択する色とは 2)消費者に受け入れられる色を生み出すために		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第12回	大日向基子	Chap6 色で売り上げをアップするために 1)消費者が選択する色とは 2)消費者に受け入れられる色を生み出すために		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第13回	大日向基子	対策問題で今までの学習を振り返る	質疑応答	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第14回	大日向基子	対策問題で今までの学習を振り返る	質疑応答	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す
第15回	大日向基子	中間テスト2 対策問題で今までの学習を振り返る	質疑応答	予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書、配布資料、ノート等を見直す

教科書

カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト（東京商工会議所編）

参考書

カラーコーディネーター検定試験３級問題集（東京商工会議所編）、配色の教科書（城一夫・色彩文化研究会）、色の知識（城一夫）、カラーコーディネーター入門色彩（大井義雄・川崎秀昭）色彩デザイン学（三井直樹・三井秀樹）、色彩学概論（千々岩英彰）、ヨハネス・イッテン色彩論（大智浩訳）、配色の計画（ジョセフ・アルバース・永原康史・和田美樹）ほか

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 第1回中間テスト50％ 第2回中間テスト50％

課題等に対する
フィードバックの方法

教科書Chap1からChap6までの授業内容や対策問題、検定については、随時質問を受け付けている。中間テストは、採点して返却する。

履修のポイント

教科書を熟読すること。検定対策問題等で要点を理解し、問題形式や解答方法に慣れること。

オフィス・アワー

金曜日 14:50-15:00 16:30-16:40 9号館901教室

科目区分
基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C030

講義コード	30030001
講義名	人間と心理
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

ものを見ること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしないとにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、そのような私たちの心のはたらきを明らかにすることを目的としているが、そのはたらきはさまざまである。そして、人は常に、状況に応じて適切な判断を下し、その場に合った行動をうまく選択し、自分にとって必要で大切だと思うことをきちんと覚えておくような存在かというと、そうでもない。本講義では、そうした人の心の多様なはたらきについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。教育目標として、人の心のはたらきの基礎知識の習得し、人に対する理解を深めることを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解すること、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望としては、多様な人間の生活科学の問題を理解する基盤となる学修成果を残すことを目指すものとする。

到達目標

１．知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。
２．知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。
３．日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。
４．人の心の全般的なしくみについて理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など）	予習90分：教科書

第1回	心理学のいろいろ	心理学の系譜を概観しながら、日常生活から社会の動きまでのワークシートを使いながら理解を深める。	第1章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	知覚心理学	錯視をはじめとし、見えの不思議について教科書のワークをしながら知覚の不思議を体験する。 （DVDの視聴あり）	予習90分：教科書pp.20-34を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	学習心理学	テスト勉強で何かを覚えるだけでなく、知らず知らず身につけてしまう学習について取り上げる。日常生活で我々が知らず知らず身に着けている行動の例について考える。	予習90分：教科書pp.34-43を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	認知心理学	記憶や思考についてのワークをしながら理解を深める。	予習90分：教科書pp.43-54を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	人格心理学	いくつかの心理検査を行い、自分自身についての理解を深めるながら、パーソナリティについて理解を深める。	予習90分：教科書pp.56-70を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	発達心理学①	発達の基本概念について取り上げる。発達を促進する遺伝的要因と環境要因について、メンバーの考えを聴きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.71-83を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	発達心理学②	自分らしさを作り上げる過程から死を迎えるまでの発達について取り上げる。心理検査等により自分のアイデンティティについての理解を深めながら、青年期の発達課題について理解する。	予習90分：教科書pp.84-101を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	社会心理学①	対人関係における印象形成、対人魅力、恋愛について、メンバーの考えを聴きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.102-118を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	社会心理学②	人を動かす心理学について、メンバーの考えを聴きながら自分の考えを広げたり深めたりする。 （DVD視聴あり）	予習90分：教科書pp.119-135を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	社会心理学③	援助行動と攻撃行動について、メンバーの考えを聴きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp136-148を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	健康心理学①	心の健康、適応についてメンバーの考えを聴きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.149-158を読む。 復習90分：配布資

			料を見直す。
第12回	健康心理学②	ストレスについてメンバーの考えを聴きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.158-163を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	健康心理学③	心の健康の維持のために自分のコミュニケーションのクセについて理解する。さらに、心の回復や正常と異常の違いについて見交換を行い、多面的に考える。 （DVD視聴あり）	予習90分：教科書pp.164-171を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	臨床心理学 無意識の発見から明らかになった知見について取り上げる。さらに心の病と心理療法について取り上げる。	心へのアプローチについて、「無意識」「行動」「認知「成長する力」に焦点を当てて理解する。 （DVD視聴あり）	予習90分：教科書p18,19,146,157を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	社会現象 心理学から見た社会現象について取り上げる。	社会・集団等によって知らず知らず影響を受けていることを理解する。特にコロナ禍における心理学から見た社会現象について考究する。 （DVD視聴あり）	予習90分：教科書pp.172-182を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

藤本忠明他 『ワークショップ心理学』 ナカニシヤ出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）40％
レポート・課題30％
授業への積極性・態度30％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C011

講義コード	30040001
講義名	くらしと憲法
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

社会保障費の増大と国民負担率の上昇、地方自治体の消滅可能性、働き方改革など、国の課題は山積している。そんな中、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、大学生全員が選挙権を有することになってから、すでに何回かの選挙が行われている。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。
憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、主権者としての判断能力を身につけられるよう、学習していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

憲法を素材として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解できるようにする。憲法に関わる社会におけるさまざまな現象を科学的に理解し、そうした学修成果を社会で実践的に活用できるよう学修する。

到達目標

１．憲法とは何か、また法令の基本構造、および法令における憲法の位置づけを理解する。
２．憲法に規定されている基本的人権は何か、またその具体的内容について理解する。
３．国の政治のしくみについて、憲法はどう規定しているかを理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。立憲主義についても学習する。		予習90分： シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウト第1回に記載してある内容を読んで、復習する。

第2回	日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からＧＨＱによる憲法案の提示、国会での審議等について、ＶＴＲに沿って学習する。		予習90分： ハンドアウト第2回および『目で見る憲法』p.viii、p.2～p.4を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載してある内容を読んで、復習する。
第3回	日本国憲法の基本原理である「国民主権」について、規定と意味について学習する。さらに、「基本的人権の尊重」に関する規定とその概要について学習する。	憲法の制定過程についてのドキュメンタリーVTRに対するコメントを発表する。	予習90分： ハンドアウト第3回および『目で見る憲法』p.5～p.7を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある憲法や関連法令の条文を読んで、復習する。
第4回	日本国憲法の基本原理である「平和主義」について、規定内容を学習し、さらに日本の防衛政策の現状、安保関連法制との関係について、学習する。		予習90分： ハンドアウト第4回および『目で見る憲法』p.8～p.10を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。
第5回	憲法が保障している法の下の平等の意義・内容について学習する。現実に生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。		予習90分： ハンドアウト第5回および『目で見る憲法』p.23～p.29を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある憲法や関連法令の条文、判例、その他の内容を読んで、復習する。
第6回	信教の自由を中心に学習する。なぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。また、政教分離原則について学習し、信教の自由に関する判例と政教分離に関する判例を素材として、学習する。		予習60分： ハンドアウト第6回および『目で見る憲法』p.30～p.33を読む。 復習120分：ハンドアウト第6回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第7回	表現の自由の意義とその内容について、学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。さらに、表現の自由・プライバシー権をめぐる判例を検討する。	表現の自由とプライバシー権に関する判例のうちいくつかを取り上げ、議論する。	予習60分： ハンドアウト第7回および『目で見る憲法』p.34～p.42、p.19～p.20を読む。 復習120分：ハンドアウト第7回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、議論について、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第8回	憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検		予習90分： ハンドアウト第8回および『目で見る憲法』p.48～p.50を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。

	討する。 中間確認テスト(45分間)を実施する。		授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第9回	社会権と区分される人権について学習した後、「生存権」と「労働基本権」についてその概要を学習する。		予習90分： ハンドアウト第9回および『目で見る憲法』p.51～p.53を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第10回	労働者に関わる人権と「教育を受ける権利」について学習し、理解する。		予習120分： ハンドアウト第10回および『目で見る憲法』p.54～p.56を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第10回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。返却されたテストの誤った部分について、正解を検討しておく。
第11回	国会のさまざまの権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。さらに、選挙制度についても、学習する。		予習120分： ハンドアウト第11回および『目で見る憲法』p.57～p.61、p.69～p.84を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第11回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第12回	内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国務大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。 ※授業終了時にレポートを提出する。課題は「憲法に関するニュースもしくは課題を法学的に検討する。」Ａ４用紙１枚以上を条件とする。		予習120分： ハンドアウト第12回および『目で見る憲法』p.85～p.92を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第12回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第13回	裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、ＶＴＲに沿って学習する。		予習60分： ハンドアウト第13回および『目で見る憲法』p.93～p.103を読む。 復習120分：ハンドアウト第13回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
			予習60分： ハンドアウト第14回お

第14回	憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。また、地方自治に関する規定内容について学習し、さらに、憲法改正の手続、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。	裁判員裁判に関するVTRに対するコメントを発表する。	よび『目で見る憲法』p.104～p.113を読む。 復習120分：ハンドアウト第14回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。発表されたコメントについて、自分の意見と対照させる。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第15回	これまでの学習について、全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について検討する。最終確認テスト(45分間)を実施する。		予習90分： ハンドアウト8～14を確認する。 復習90分：最終確認テストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、ハンドアウトで復習する。

教科書

『目で見る憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著（有斐閣）

参考書

『ポケット六法』山下友信・山口厚 編集代表 （有斐閣）

成績評価の方法・基準

平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）［20%］、レポート［30%］、確認テスト［50%］を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

課題等に対する
フィードバックの方法

第8回に実施する中間確認テストの解答例と解説は、第11回の授業時に行う予定である。採点した答案は、第10回の授業時に返却する予定である。第12回に提出を義務づけたレポートについては、採点および講評記載の後、第15回の授業時に返却する予定である。第15回の最終確認テストについては、解答例及び解説を「Teams」または「moodle」の「生活科学科1年・憲法」のフォルダーにPDFファイルで掲載する。採点した答案については、希望する者には返却する。11号館３階研究室11に取りに来ること。

履修のポイント

教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。

オフィス・アワー

月・水・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館３階研究室11

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C012

講義コード	30050001
講義名	現代社会と経済
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

授業内容は、１．これまでの代表的な経済思想を知る、２．ミクロ・マクロの経済学の基礎知識を習得する、３．経済統計や新聞記事の内容ができるようにする、という３つの内容を含んでいます。授業は、講義形式で行いますが、内容的な切れ目で「確認プリント」を実施します。本科目は、私たちの生活の身近な経済的問題からグローバルな問題までを理論的に理解できるようになることを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．私たちの生活の身近な問題からグローバルなテーマを多面的に理解している、という項目と関連しています。本講義を通して身近な経済的問題を理論的に理解・説明できるようになることを目指します。

到達目標

１．代表的な経済思想の特徴を理解できるようになる
２．ミクロ・マクロの経済学の基礎理論を理解できるようになる
３．経済指標の見方がわかるようになる

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	経済学の成立 オリエンテーション（授業内容、授業の進め方、成績評価等） 経済学でどのようなことを学ぶのか、経済学の成立について学びます。	予習90分：シラバスをよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	経済思想（１） アダム・スミスなど古典派経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	経済思想（２）	予習90分：プリント資料をよく読んでおく

第3回	歴史学派、マルクス経済学の特徴について学びます。	こと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	経済思想（３） 新古典派経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	経済思想（４） ケインズの経済学の特徴について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	国民経済の仕組み 国民経済を構成している家計・企業・政府の経済3主体とその相互関係について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、需要と供給の関係、価格の決定について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	市場の失敗 市場メカニズムのメリット・デメリットについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	景気循環 景気変動がなぜ起こるのか、景気の波について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	政府の役割 政府の経済に関する役割について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	中央銀行の役割 中央銀行（日本銀行）の役割について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	国内総生産（GDP） 国内総生産（GDP）とは何か、三面等価の原則について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	経済成長 経済成長とは何か、成長要因について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	貿易と国際収支 古典的な貿易理論、国際収支とは何かについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	為替レート 為替レートとは何か、その変動要因と影響について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

使用しません。プリント資料を配布します。

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験60%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組み等）40%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で行った確認プリント等は、原則として次週返却します。
履修のポイント
授業資料（プリント）のポイントの整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C013

講義コード	30060001
講義名	くらしと統計
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

現在の情報化社会では、健康情報をはじめさまざまな数値やデータがあふれており、それらの数値を適切に扱うためには、統計的な手法の理解が必要である。
そこで、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、研究や、仕事をはじめ、社会生活に広く役立てていくことを目的にして、統計の具体的な例や、記述統計、推測統計の基礎的な理論を学ぶ。
授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、生活科学科のDP「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解」を目指し、数値や図表として表現されているデータの持っている意味を正しく把握する力を養う。その上で、物事を多角的に理解する力を身に付け、専門科目での科学的な学修を行うための礎となっている。

到達目標

・統計学の概念を理解し、説明できる
・データを集計し、各種統計量を求められる
・母平均の推定などが行える
・統計的仮説検定の考え方を理解し、行える

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	母集団や標本などの統計学の基本概念と数学知識の確認、電卓の使用方法 【電卓を持参すること】		予習90分：高校の数学「データの分析」について、教科書等で確認 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
			予習90分：配布教材・教科

第2回	標本抽出		書p17～32を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第3回	度数分布表の作り方		予習90分：配布教材・教科書p33～48を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第4回	中心的傾向の特性値（平均、中央値、最頻値など）の求め方	問題演習	予習90分：配布教材・教科書p49～62を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第5回	変動の特性値（不偏分散、標準偏差など）の求め方	問題演習、グループワークでの課題の検討	予習90分：配布教材・教科書のp63～76を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第6回	確認テスト① 確率分布の性質について（離散型確率分布） （確率ｐ78～88については、授業中扱いませんので、各自で学習してください）		予習90分：配布教材・教科書p77～101を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第7回	確率分布の性質について（連続型確率分布） 正規分布とは		予習90分：配布教材・教科書p77～114を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、確認テスト
第8回	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて	問題演習、グループワークでの課題の検討	予習90分：配布教材・教科書p107～130を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第9回	統計的有意性（有意水準、信頼係数など）		予習90分：配布教材・教科書p131～138を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第10回	標本平均の分布、中心極限定理、推定方法の基本的な考え方 正規分布と母平均の推定	問題演習、グループワークでの課題の検討	予習90分：配布教材・教科書p139～150を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第11回	t分布と母平均の推定 母平均の推定のまとめ		予習90分：配布教材・教科書第6章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第12回	母平均の推定のまとめ 統計的仮説検定の考え方（有意水準、有意確率、棄却域、仮説）	問題演習、グループワークでの課題の検討	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り

			課題
第13回	母平均に関する仮説検定の方法		予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第14回	母平均に関する仮説検定のまとめ	問題演習、グループワークでの課題の検討	予習90分：配布教材・教科書第8章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題
第15回	講義のまとめ、確認テスト②		予習90分：教科書・配布教材の見直し 復習90分：授業全体の振り返り、確認テストの見直し

教科書

「はじめての統計学」鳥居泰彦（日本経済新聞社）

参考書

「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」武藤志真子編著（建帛社）「完全独習統計学入門」小島寛之（ダイヤモンド社）「マンガでわかる統計学」高橋信（オーム社）など

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。授業中に課す振返り課題40%、理解度確認のための試験60%。

課題等に対する
フィードバックの方法

確認テストについて、結果が明示されますので、参考にしてください。
課題については解答を明らかにしますので、各自で確認し、疑問点は質問してください。

履修のポイント

数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定である。また、2年次の「栄養情報処理演習」ではコンピュータを用いて統計処理を扱う予定である。
・講義には【電卓】（平方根の機能がついたもの！）を持参すること
・課題については必ず自分の力で解き、疑問点などは質問すること
・授業に欠席（公欠も含む）した場合は、授業の課題等を確認すること

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C014

講義コード	30070001
講義名	くらしと現代科学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちの生活のなかで、身近に接する物質や現象に注目し、物質の性質や製品への活用方法をみていく。最初に物質を構成する原子や元素について知り、そのあとで洗剤や食物、薬やセラミックスなど私たちの身のまわりにある製品や材料について、それらのミクロの構造を解き明かし、それらの用途をみていく。物質やエネルギーの活用事例を豊富に取り上げ、私たちの周りに最先端科学の成果が生かされていることを学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの日々の生活のなかで、数多くの製品やサービスと、最新の科学の成果とが深い関係で結ばれていることに気づく。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解」することに関係し、その活用用途を探る。

到達目標

暮らしに密着した物質や製品について基本的な事象を理解する。間違った情報に振り回されず、客観的な判断ができる社会人になるための必要な知識を習得する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	現代科学（自然科学）の区分について、また物理変化と化学変化の違いについて理解する。		『化学の基礎』第1章1頁～6頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第2回	橋爪博幸	原子の構造を知り、さまざまな化学反応とそれに伴う熱の出入りについて調べ、まとめる。		『化学の基礎』第1章7頁～9頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
	橋	熱を発生させたり冷やしたりする化学反応の具体	簡単な発熱反	『化学の基礎』第1章10頁～12頁を事前に読んでおく（90分）。復習

第3回	爪博幸	例を確認しつつ、その化学変化を熱化学方程式に置き換えて理解する。	応を確認し、レポートにまとめる。	として配布プリントを見直す（90分）。レポートを作成する（90分）。
第4回	橋爪博幸	酸と塩基の性質を確認し、身近でみられる中和反応について調べる。	身近な食品や生活製品に含まれる酸や塩基を調査し、一覧表にまとめる。	『化学の基礎』第2章13頁～20頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。一覧表を作成する（90分）。
第5回	橋爪博幸	さまざまな繊維について知る。合成繊維と天然繊維の違いを理解する。保温性に優れる羊毛繊維の特長をみていく。		『化学の基礎』第3章23頁～32頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第6回	橋爪博幸	洗剤の種類、石鹸と合成界面活性剤の違いについて調べる。		『化学の基礎』第4章33頁～44頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第7回	橋爪博幸	炭水化物やたんぱく質、ビタミンのいくつかについて化学構造の観点から理解する。		『化学の基礎』第5章68頁～78頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第8回	橋爪博幸	発酵食品とそれに関係する微生物、その働きを化学反応を踏まえつつ見ていく。発酵と腐敗の違いを理解する。		『化学の基礎』第7章76頁～78頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。レポート課題を出すので、期日までに仕上げて提出する。
第9回	橋爪博幸	コロイドについて理解する。身近な食品のなかにコロイドをふくむ食品が数多くあることに気づく。		『化学の基礎』第8章79頁～84頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第10回	橋爪博幸	薬の化学的成分とその効能、薬と食べ物との相互作用についてまとめる。		『化学の基礎』第9章91頁～98頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第11回	橋爪博幸	薬の服用に際して注意すべきことをまとめる。副作用の存在や依存症の危険があることを知る。		『化学の基礎』第9章99頁～102頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。レポート課題を出すので、期日までに仕上げて提出する。
第12回	橋爪博幸	食器や容器などの素材を知る。私たちの身近にあるセラミックス製品を調べる。		『化学の基礎』第11章114頁～124頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第13回	橋爪博幸	電気エネルギーをうむ発電のしくみと、今日の最新の電池について調べる。		『化学の基礎』第12章125頁～133頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
	橋	さまざまな調理器具に注目し、とくに電子レンジ		『化学の基礎』第13章135頁

第14回	爪博幸	やIHクッキングヒータの仕組みを見ていく。電磁誘導の原理を再確認する。		～144頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。
第15回	橋爪博幸	自然と人間との関係を探り、今日の科学の功罪を捉える。		『化学の基礎』第14章150頁～166頁を事前に読んでおく（90分）。復習として配布プリントを見直す（90分）。

教科書

『身の回りから見た化学の基礎』 化学同人、最新版

参考書

講義のなかで必要なとき紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 課題の提出（20%）、期末試験（80%）をもとに総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

提出された課題は確認後、コメントを記入して返却する。こちらで求めた内容を授業内でパワーポイントを使い、口頭で解説する。

履修のポイント

休まず出席してください。授業は限られた回数しかないので、一回の欠席でも、授業の一項目がすっかり抜け落ちてしまいます。レポート課題は、かならず提出してください。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第６研究室に来てください。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C031

講義コード	30080001
講義名	情報社会とくらし
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

現代の我々のくらしでは、情報化・ネットワーク化が進展し、音楽や映像といったエンタテイメントをはじめ、コンピュータ、スマートフォンや携帯電話などコミュニケーションの方法も大きく様変わりしている。それらの変化に対応するために、マルチメディアやインターネットなど最新技術の動向などについて体系的に学びながら、変化が激しい情報化社会において生活するために必要な知識（情報リテラシ、メディアリテラシ）を身に付け、実生活で役立てるようになることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のDPとの関連として、ICTを中心に、「身近な問題からグローバルなテーマまで」扱いながら、我々の「生活」を「多角的に理解」する力を養う。そして専門科目における「社会的環境について、科学的に理解」するための基礎的な能力となる。

到達目標

・コンピュータやインターネットの仕組みを理解し、説明できる
・新しいメディアへ対応できるようになる
・ネットワーク社会で問題となっていることを理解し、安全に利用できる

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	アナログ・ディジタル、マルチメディア構成要素		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第2回	インタラクティブ、ユーザインタフェース		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う

第3回	ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器 課題：PCを1つ選び、その特徴を説明		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う、課題を作成する
第4回	ファイルフォーマット、文書処理		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第5回	画像処理、映像処理		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第6回	インターネットの仕組み、モバイル通信		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第7回	WWW、電子メール、SNS		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第8回	コンピュータウィルス、ネットワークセキュリティ		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第9回	知的財産権、個人情報保護		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第10回	オンラインショッピング、ネットマーケティング		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第11回	情報家電、映像コンテンツ		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第12回	ICカード、ITS 医療・福祉、学術、行政・政治		予習90分：教科書を読む 復習90分：教科書と配布資料を見直し、授業の振り返りを行う
第13回	プレゼンテーション課題のまとめ（1）	これからの社会とくらしについて、いくつかのテーマの中から選び、プレゼンテーション資料としてまとめる	予習90分：教科書を読む 復習90分：レゼンテーション課題をまとめる
第14回	プレゼンテーション課題のまとめ（2）	引き続き、プレゼンテーション資料としてまとめる	予習90分：教科書を読む 復習90分：プレゼンテーション課題をまとめる
第15回	まとめ課題のプレゼンテーションを実施	お互いのプレゼンテーションについて、コメントを行う	予習90分：プレゼンテーション資料の確認 復習90分：授業全体の振り返りを行う

教科書
「入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」 CG-ARTS協会
参考書
「マルチメディアと情報化社会」「入門Webデザイン」「入門CGデザイン」「Webデザイン」「ディジタル映像表現」（財団法人 画像情報教育振興協会）
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。授業中に課す課題・振り返り50%、まとめの課題とその関わり方50%。
課題等に対する フィードバックの方法
日々の振り返りについて、全体にコメントをします。 課題については、お互いに評価をしてもらい、その結果について、コメントをします。 プレゼンテーションについては、全体にコメントをします。
履修のポイント
コンピュータやインターネットなどに興味を持ち、積極的に関わっていくことが必要です。
オフィス・アワー
火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。
科目区分
基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C032

講義コード	30090002
講義名	生活と社会（R3入学）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

短期大学部2年間在学中に、大学主催の講演会（犯罪防止、公開講座）、外部研修（事前指導・事後報告を含む）、海外研修を経験・体験して、個人個人の社会性の向上を図る内容の授業である。さらに就職活動（進学）については、キャリアガイダンスへの参加や個人指導などの実施から社会に出るための意識付けを行ない、卒業後の進路の決定を確実にする。このように2年間の学生生活のなかで社会に出る前の基礎知識（教養）および応用力を身につけ、多くの体験・経験することにより社会で求められる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解する。体験学習を通じて教養、専門性（応用力）を習得することが教育目標である。将来的には2年間の学習成果を生かせることをめざす。

到達目標

キャリアガイダンス、海外研修、公開講座等の経験・体験学習を通じて、教養を習得し、現場に出て役に立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	短期大学部でのオリエンテーション 2年間の学生生活（生活科学科の学び、資格取得について他）	自己紹介、情報交換他	事前準備120分以上
第2回	橋本まさ	講義の受け方、履修の仕方、成績の取得方法、課題提出方法、他		終了後のレポート作成に180分以上

	子			
第3回	橋本まさ子	健康に過ごすための食生活、学生生活における安全と衛生、 犯罪防止講演に参加する。		事前準備 に90分、終了後のレポート作成に90分以上
第4回	橋本まさ子	毎年行われる公開講座（1年次、2年次）に参加し、教養を深める		事前縦鼻 に90分、終了後のレポート作成に90分以上
第5回		キャリアガイダンス：就職活動とは（進学とは）：エントリーシート、履歴書、面接（集団・個人）、実地試験、内定後の研修	エントリーシート、履歴書の記入をする。	就職に必要な書類の作成に180分以上
第6回		国内外研修旅行：事前指導では、担任から海外研修の趣旨・概要の説明がある。	各グループで情報を共有する	事前資料収集のために120分以上、復習に60分以上
第7回	橋本まさ子	国内外研修旅行（2年次に研修内容が決定）	ハローワークによる、集団面接指導の実施。	事前資料収集のために120分以上、復習に60分以上
第8回	橋本まさ子	社会人になるための基礎知識・応用力の総まとめ 学生生活2年間を振り返る。	ハローワークによる、個別の面接指導の実施。	まとめの資料作り180分以上

教科書
授業で適宜配布する。
参考書
授業で適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定 60 点以上。レポート(50%)、課題(50%)を総合して評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
レポートおよび課題は採点後返却するので授業の参考にすると良い。
履修のポイント
基本と応用の両面から内容を理解することが望ましい。 出来るだけ全ての行事には参加することを希望する。
オフィス・アワー
月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、放課後（16：40〜18：00）研究室は9号館2階第5研究室。
科目区分
基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C033

講義コード	30100001
講義名	くらしと英会話
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員 としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の 向上を計っている。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の様々な状況による会話表現を習得すればコミュニケーション力は向上する。本科目では、英語コミュニケーション力の向上のため、状況に応じた「生活英語」に関連する英会話表現の習得を図る。また英会話表現においては、単語レベルでは発音、アクセントの正確さが重要あり、文レベルではイントネーションやセンテンス・ストレス（文強勢）を正確に付けることが会話での重要な要素となるので、それらの観点からも学習する予定である。本科目では、状況にお応じた「生活英語」に関する英会話表現を習得し、英語コミュニケーション力の向上を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの１つである「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを目指し、状況による英会話表現の学習を通して、コミュニケーション力の向上と英語使用者の生活文化の理解を深める。

到達目標

1. ＣＤやインターネットによる発音・ヒアリング練習に慣れる。
2. インターネットの辞書・翻訳機能を利用できるようにする。
3. Exerciseの解答や課題の作成はワードやエクセルで出来るようにする。
4. 英語を使って日常生活に関するコミュニケーションがストレスなくできるようになる。
5. 発音、アクセント、イントネーション、センテンス・ストレスなどの重要性を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	野中博	オリエンテーション	1. 評価方法、授業の進め方等の説明 2. 課題：英語に対する自己の印象、自己紹介、ある語の連想語	予習90分：英語に対する自己の印象、自己紹介、ある語の連想語などの質問に対する答えを作成するため

	雄		などの質問に対する答えを作成する。	の準備。
第2回	野中博雄	写真を撮る	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	レストランで	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	健康や体調	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	テレビ	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	スポーツ	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	野中博雄	確認する	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	野中博雄	タクシーに乗る	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	野中博雄	機内で	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	空港での出迎え	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	感想を聞く	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	野中	忠告す	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内

	博雄	る	課題： ペアで作成し、提出する。	容の確認。
第13回	野中博雄	許可を求める	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	野中博雄	招待する	Dictation, Conversation Practice, Composition, Translation 会話文はペアで練習する。 課題： ペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	野中博雄	Review	Course Reviewing	復習270分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書
Checkbook for English You Need (南雲堂)
参考書
副教材: Internet Materials (毎回 英語の歌などの聞き取りをする)
成績評価の方法・基準
単位認定: 60点以上（筆記試験50%、課題20%、授業参加度30%）
課題等に対する フィードバックの方法
課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。
履修のポイント
ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。
科目区分
基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C015

講義コード	30110001
講義名	ことばと文化
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簑輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

実社会では１０００字程度の文章を書く機会は多くあります。文章を書くのが苦手な人も文章を書くルールを意識して、短文、長文の書き方を学び、実践のためのトレーニングを進めていきます。そして、「しっかりと書ける」ようになってもらいたい。何事も練習してそのノウハウを一度身に付ければ比較的簡単に文章が書けるようになります。そのために２００字程度の短い文章の書き方から始まり、小論文と進みます。そして、文章力をアップさせるために他人の書いた文章を添削することを通して自らの文章力をアップさせる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

自らの考え、意見を伝えたり、反対に他人の意見や考えを聞くことは社会人として求められている能力のひとつである。

到達目標

1)大学の学びの場で求められるさまざまな文章表現の形式を理解し、自ら実践できるようになる。
2)自らの考え、意見を適切な文章で伝えることができるようになる。
3)論理的文章を書く手順を身に付け、書くことができるようになる。
4）様々な私信、ビジネス文書を書くことができるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 「要約」にチャレンジしてみよう	提示された課題を各自が要約し、発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて復習すること
第2回	短い文章を書くときの２つの基本型について	短い文章を書く型Ａを用いて各自が書いたものを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて基本型Ａについて復習すること

	基本Ａ型		
第3回	短い文章を書くときの２つの基本型について 基本Ｂ型	短い文章を書く型Ｂを用いて各自が書いたものを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて基本型Ｂについて復習すること
第4回	短い文章を書くときの２つの基本型について 知的な文章を書くときの型	知的な文章を書くときの型を用いて各自が書いたものを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて知的な文章を書く時の型について復習すること
第5回	短い文章を書くときの２つの基本型について 総括と詳細を説明し、文章を整理する	総括と詳細を説明する文章を書き、それを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて総括と詳細を説明する文章について復習すること
第6回	短い文章を書くときの２つの基本型について 出来事と感想を書くときの型	出来事と感想を書き、それを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて出来事と感想を書くことについて復習すること
第7回	短い文章を書くときの２つの基本型について 目的と方法を書くときの型	目的と方法の文章を書き、それを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて目的と方法を書くことについて復習すること
第8回	文章のルールを意識して書く 話し言葉と書き言葉を区別する	話し言葉と書き言葉の区別を理解し、各自で文章を書き、それを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて話し言葉と書き言葉の区別について復習すること
第9回	文章のルールを意識して書く 読点の打ち方と段落の変え方	読点の打ち方、段落の変え方を理解し、文章を書き、それを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて読点の打ち方や段落の変え方について復習すること
第10回	文章のルールを意識して書く 一文を短くして文法的に正しい日本語を用いる	提示された課題文を一文を短くするようし、書き、それを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて一文を短くし、文法的に正しい日本語について復習すること
第11回	文章のルールを意識して書く 敬体と常体どちらかに統一する	敬体と常体を理解し、文章を書き、それを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて敬体と常体について復習すること
第12回	文章をきちんと読み取る	提示された課題文から何が書かれているのかを各自が読み取り、それを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて文章をきちんと読み取ることについて復習すること
第13回	他人の書いた文章を添削する	他人が書いた文章を各自が添削して見たことを発表する。	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて添削することについて復習すること
第14回	言い換える力を鍛える その場にあった	その場にあった表現に提示された課題分を変えて、そ	予習９０分：復習９０分 配布されたプリント等を用いて言い換えたり、その場にあった表現

	表現が使えるように	れを発表する。	が使えることについて復習すること
第15回	自己ＰＲ書を書いてみる	各自が自分の事をＰＲする文章を書いてみる。	予習９０分：復習９０分 自らのＰＲ等を書く時にはどのように書くのかについて復習しておく

教科書

特に使用しないが適宜授業時にプリントを配布する。

参考書

樋口裕一 著『やさしい文章術』中公新書
秋岡伸彦 著『文章表現テキスト』 東京農業大学出版会
岡田啓助 他著『演習文章表現』おうふう
野田尚史・森口稔著『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

成績評価の方法・基準

○成績評価の基準
１．文章の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解しているか。
２．分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。
○評価の方法
単位認定60点以上
授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。
1 積極的態度（発言、討議、取り組み等） 総合点の30 %
2 毎回の課題 総合点の30 %
3 レポート (学習のまとめ) 総合点の40 %

課題等に対する
フィードバックの方法

提出された課題についてはコメントを加筆して次時の授業時に各自に返却する。

履修のポイント

毎回それぞれの場面を設定して書くことが求められますのでその課題に対応できるようになるためにもいろいろな本を読んでください。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C034

講義コード	30120001
講義名	健康とスポーツ
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 武井 英夫	指定なし

授業の概要と教育目標

本授業は、数種目の運動・スポーツと講義から構成されている。運動・スポーツの基本スキルを身につけ、練習やゲームを通して運動・スポーツの楽しさを味わいながら授業を進めていく。そして、健康の維持・増進を図るためには、他者との関わりの中でコミュニケーションをとりながら、運動・スポーツを継続することの必要性を学ぶ。なお本科目は、健康とスポーツを科学的に理解して、基本スキルの習得と生涯にわたって運動・スポーツに取り組もうとする健康意識を高めることを目標としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解していることが求められており、スポーツの科学的な理解や実践を通して、その目標達成に必要な知識や体力を養う。

到達目標

１．自己の体力レベルや健康状態を把握することができる。
２．運動・スポーツの基礎知識、各スポーツ種目の歴史、基本スキルを習得することができる。
３．自らコミュニケーションをとって活動することができる。
４．生涯にわたって運動・スポーツに取り組もうとする資質を身につけることができる。
５．種目の得意・不得意にとらわれず、運動・スポーツを楽しむことができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	武井英夫	オリエンテーション （授業の概要、成績評価、諸注意など） 体育概論① （運動・スポー		予習90分：シラバスを読む。生活習慣病について調べる。 復習90分：配布資料を見直す。

		ツのすすめ）		
第2回	武井英夫	バドミントン①（バドミントンの歴史、ルールの確認とシングルス）		予習90分：バドミントンの歴史やルールを調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第3回	武井英夫	バドミントン②（基本スキルの習得とダブルスのゲーム）		予習90分：バドミントンのダブルスのゲーム方法を調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第4回	武井英夫	バドミントン③（シングルスやダブルスのゲーム）	ダブルスのゲームではゲーム終了後にペアごとに意見を出し合い、ゲーム内容の反省点を振り返り、次のゲームに生かす。	予習90分：バドミントンのシングルスやダブルスの戦術を調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第5回	武井英夫	フットサル①（フットサルの歴史とルール把握、簡易ゲーム）		予習90分：フットサルの歴史やルールを調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第6回	武井英夫	フットサル②（基本スキルの習得とゲーム）	互いの意見を深めるように意見交換し、ポジションやフォーメーションを決め、戦術を立ててゲームに取り組む。	予習90分：フットサルの戦術について調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第7回	武井英夫	ソフトバレーボール①（ソフトバレーボールの歴史とルール把握、簡易ゲーム）		予習90分：ソフトバレーボールの歴史やルールを調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第8回	武井英夫	ソフトバレーボール②（基本スキルの習得とルール把握、ゲーム）		予習90分：ソフトバレーボールの基本スキルを調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第9回	武井英夫	バレーボール（バレーボールの歴史、フォーメーションの理解、ゲーム）	各チームごとに話し合い、チームの特色を出したポジションの決定や作戦を練ってゲームに取り組む。	予習90分：バレーボールの歴史、フォーメーションについて調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第10回	武井英夫	ネットボール①（ネットボールの歴史とルール把握、ゲーム）		予習90分：ネットボールの歴史、行われている国、ルールについて調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第11回	武井英夫	ネットボール②（基本スキルの習得とゲーム）	各チームごとに話し合い、ポジションの決定や戦術を立ててゲームに取り組む。	予習90分：ネットボールの基本スキルと戦術について調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
	武	バスケットボール	チーム内で意見交換し、２つの	予習90分：バスケットボールの歴史、バイオレー

第12回	井英夫	（バスケットボールの歴史、基本スキルの習得、ゲーム）	ディフェンスの長所と欠点を考慮してディフェンス方法を決め、作戦を立ててゲームに取り組む。	ションとファウル、ディフェンス方法について調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第13回	武井英夫	ネオホッケー①（ネオホッケーの歴史、基本スキルの習得、ルール理解、ゲーム）		予習90分：ネオホッケーの歴史とルールについて調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第14回	武井英夫	ネオホッケー②（基本スキルの習得、ゲーム）	各自意見を出し合い作戦を練ってからゲームに取り組み、プレー中は積極的・協力的に関わる。	予習90分：ネオホッケーの基本スキルについて調べる。 復習90分：本日行った運動について確認する。
第15回	武井英夫	体育概論②（生涯スポーツと競技スポーツ、学校スポーツ）		予習90分：生涯スポーツと競技スポーツ、学校スポーツの共通点と相違点について調べる。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

特定の教科書は使用しない。資料は必要に応じて配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法・基準

実単位認定60点以上
スキル達成度30%、課題・レポート20%、授業への参加度50%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがあるが原則として返却しない。全般的な講評と重要項目について解説を記述したプリントを配布のするので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。特に指定はしませんが、季節にあった運動着、運動靴（体育館用シューズ）を準備してください。

オフィス・アワー

講義前後に、適宜受け付けます。

科目区分

基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C035

講義コード	30121001
講義名	データサイエンス
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

世界ではデジタル化・グローバル化が進み、社会・産業が大きく変化してきている。特に様々なものがデータでつながるSociety5.0の社会においては、データサイエンス・AIはデジタル社会の基礎知識として捉えられ、すべての学生が身に付けておくべき素養である。そのため、この授業ではデータサイエンスの基礎的な知識や、活用事例、演習を通して、データサイエンス・AIを日常の生活や仕事等の場で扱うことができる基礎的な素養を身に付け、人間中心のAI社会において、適切に判断、活用できるようになることを目指す。
なお、授業にはMoodleを活用して、グループワークなどを行う予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、生活科学科のDP「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解」を目指し、数値や図表として表現されているデータの持っている意味を正しく把握し、それが社会でどのように活用されているかを理解する力を身に付ける。

到達目標

・データサイエンスを学ぶ意義を理解する
・社会でデータサイエンスがどのように活用されているか説明できる
・データを適切に読み解き、判断し、活用できる

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	データサイエンスの概要 ・社会で起きている変化や活用されているデータ ・データ・AIを扱う上での留意事項		予習90分：教科書の第1章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
	データ分析の基礎		予習90分：教科書の第2章を

第2回	・データを読む・説明する		読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第3回	データサイエンスの手法 ・データを読む ・データ・AI利活用のための技術と最新動向		予習90分：教科書の第3章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第4回	データサイエンスの応用事例（1） ゲストスピーカーによるマーケティングの事例など ・データ・AIの活用領域や現場と最新動向		予習90分：教科書の第5章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第5回	データサイエンスの応用事例（2） ゲストスピーカーによるWebサービスでの事例など ・データ・AIの活用領域や現場と最新動向		予習90分：教科書の第5章を読む 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第6回	データ分析演習（1） ・データを扱う	RESASやe-Stat などのデータを利用して、実際にグループで演習を行う予定	予習90分：教科書の第4章を読み、Excelの使い方を復習 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第7回	データ分析演習（2） ・データを扱う	RESASやe-Stat などのデータを利用して、実際にグループで演習を行う予定	予習90分：教科書の第4章および配布資料で、データ分析手法について確認 復習90分：教科書および配布教材の見直し
第8回	データ分析のまとめと ・データを読む・説明する ・データを守る上での留意事項	グループでまとめた内容について、一部発表予定	予習90分：グループ課題について確認 復習90分：授業全体の振り返り

教科書
「データサイエンス入門」（学術図書出版） 竹村彰通他編
参考書
適宜紹介する
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。授業中に課すグループ課題の内容と取組70%、その他の課題30%。
課題等に対する フィードバックの方法
課題については、お互いに評価をしてもらい、その結果について、コメントをします。
履修のポイント
Moodleを活用し、グループで課題を進めたり、お互いに評価したりしますので、積極的に取り

組んでください。
また、日々の生活における活用事例などを意識してみることも重要です。

オフィス・アワー
火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。
科目区分
基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R036

講義コード	30130001
講義名	生活科学概論
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

生活科学は、家政学から出発して生活全体を科学する学問であり、対象は衣食住を主体にした幅広い学問である。そこで、本学の学生が授業を通して、これからの人生設計の参考になることをめざす。 本授業は、生活を育くむところに着目して、衣食住のほかに生活の中の人間関係、家族のかかわり、生活の中の自然環境など現状に対応できる授業内容。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活科学の基礎となる衣食住に関する事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを養う。そして将来的な展望としては、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解する基礎となる学修をめざす。

到達目標

生活科学の基礎となる衣食住に関する事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 生活科学科の学び （授業の概要、成績評価） 現代社会の状況（長寿社会）を知り、人生のマネージメントを思案して学生生活での目標を考えさせる。		予習60分：授業の範囲を読んでくる 復習90分：授業内容の復習
	生活と生活科学		予習60分：教科書第1章

第2回	生活の分類 生活科学の歴史		を読む 復習90分：授業内容の復習
第3回	保健・衛生と生活 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み	一人一人が新型コロナウイルス感染症について、どのような生活を送ることが必要なのかについて意見交換をさせ、さらに気づかせる。	予習60分：教科書第2章を読む 復習120分：授業内容の復習
第4回	食事と生活 最近の問題を取り上げ考えさせる講義内容。		予習60分：教科書第3章を読む 復習120分：授業内容の復習
第5回	衣服と生活 衣服材料い、衣服管理、清潔ない生活。	ファッションについてグループごとに考えまとめる。	予習60分：教科書第4章を読む 復習120分：授業内容の復習
第6回	住まいと生活 住居とその計画、安全な住まいと今後の問題点。	自分のこれからの住居について考えさせ、これからどのような関わりが必要なのか考える講義内容。	予習60分：教科書第5章を読む 復習120分：授業内容の復習
第7回	地球と生活 地球温暖化、地震、自然環境		予習60分：教科書第6章を読む 復習120分：授業内容の復習
第8回	エネルギー資源と生活 エネルギー資源の種類、新しいエネルギー資源。		予習60分：教科書第7章を読む 復習120分：授業内容の復習
第9回	水と生活 飲料水、下水道とその処理、水質汚濁他。		予習60分：教科書第8章を読む 復習120分：授業内容の復習
第10回	環境と生活 望ましい自然環境、大気汚染。騒音他。	授業の振り返りとして、意見交換をする	予習60分：教科書第9章を読む 復習120分：授業内容の復習
			予習60分：教科書

第11回	情報・通信と生活 情報社会、コンピューターの利用。	意見をまとめさせ数名に発表させる。	第10章を読む 復習120分：授業内容の復習
第12回	生命科学と生活 光合成、微生物の利用、バイオテクノロジー。		予習60分：教科書第11章を読む 復習120分：授業内容の復習
第13回	人間に課せられた今後の課題 人口問題、食糧問題、公害、災害他。		予習60分：教科書第12章を読む 復習120分：授業内容の復習
第14回	これからの生活について、食生活、衣生活、住生活、ライフステージ、社会環境などの中からテーマを決めさせ、これからの生活設計を考えさせる。次回の授業で発表させる。		予習60分：教科書第3、4、5章を読む 復習120分：授業内容の復習
第15回	まとめ	授業の振り返りとして各自発表する。	予習180分：発表準備 復習60分：本試験に向けて準備

教科書

新編 生活科学 第2版 藤城敏幸
管理栄養士・栄養士になるための国語表現 萌文書林
必要に応じて資料を配布する

参考書

人と生活 建帛社
随時紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 レポート課題50% まとめ課題50%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある、返却するので学習の参考にするとよい。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になる。予習として、次回授業の範囲の教科書を読み、復習は、教科書、配布資料を活用し講義ノートを整理する。

オフィス・アワー

火曜日12：30〜13：20（お昼休み）授業終了後 9号館2階 第5研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R110

講義コード	30140001
講義名	生活活動論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

日常における労働、家事、運動等の生活活動と体力の維持向上および健康増進のため、体を形成する栄養素と運動の関係、身体機能の維持の基礎知識を学ぶ。また、運動する人の生理的状況、人の身体の様々な状況時の栄養についても学ぶ。
長じて身体活動の必要性と身体の健全を維持することの理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーの中で、人間の体・栄養・健康・生活を取り巻く社会環境がそれぞれ影響しあっていることを理解していること、とあり、日常生活や運動栄養学の科学的根拠に基づいた基礎理論を学び、多様な生活活動や運動、スポーツ競技の栄養管理に力を発揮できるよう、その基礎を学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

一般生活活動、運動、スポーツ競技、体力と栄養の関係について理解し、栄養士として活動できる知識を持つこと。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	健康増進と運動（１）運動不足、運不足が原因となる主な疾患、廃用症候群、サルコペニア、筋肉の衰えなどについて考える。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 事前に配付した資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第2回	健康増進と運動（２）健康の定義を復習し、運動の長所・短所を考え、運動の身体への影響を学ぶ。。特に血管の健常性や血液成分の変化、骨量の変化について学ぶ。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授

			業内容の復習
第3回	運動とエネルギー代謝（1）高エネルギーリン酸化合物について復習し、エネルギー代謝（解糖系、TCAサイクル、β酸化について運動との関連を学ぶ。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第4回	運動とエネルギー代謝（2）運動の種類（タイプ）別に、消費される栄養素を学び、有酸素運動と無酸素運動の相異について考える。また運動のタイプを理解する上で、最大酸素摂取量について学ぶ。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第5回	運動と代謝（1）運動と糖代謝、運動と脂質代謝、運動とたんぱく質代謝について考える。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第6回	運動と代謝（2）運動と骨密度、運動と寿命の関係、運動と高血圧、運動とQOLの関係について学ぶ。肥満と運動（メリットとデメリット） ダイエットの取り組み	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 配付資料を見直す。
第7回	運動療法（1）運動処方（有効限界と安全限界）について学び、特に肥満症ひ対する運動療法について学ぶ。	左記の内容に関連する基礎項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習
第8回	運動療法（2） および まとめ 運動療法の実際例を学び、その一方、運動のデメリット（問題点）についても考察する。	1～7回の内容について、まとめを行い、各項目について学生に質問し、その解答についてコメントする。	予習：90分 配付資料を読んでおく。 復習：90分 授業内容の復習 課題の取り組み ディスカッションのまとめ

教科書
授業で適宜プリントを配布する。
参考書
授業で適宜プリントを配付する。 または、適宜参考書を紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定 60 点以上。 試験100％
課題等に対する フィードバックの方法
課題について解説を行う。

授業の復習のための資料を配付するので授業の理解に役立てること。
履修のポイント
生理学の知識が基本となっているので、その内容を事前に理解しておくこと。
オフィス・アワー
授業終了後受け付ける。 月曜日・火曜日・水曜日・金曜日(12:30〜13:20)１１号館３階第１４研究室で受け付ける。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C270

講義コード	30150001
講義名	公衆衛生学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、授業ではほぼ毎回、現代社会における健康問題・報道などを題材として、グループディスカッションおよびプレゼンテーションの時間を設定し、自らの判断・見解を持ち、それを他者に伝えるスキルの習得も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシー「2.生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している。」に関連する科目として、特に栄養士に必要な知識・技術を理解していくため、「社会生活と健康」に関して幅広く学ぶ。

到達目標

1. 社会生活・環境と人間の保健・医療問題との関わりについて、概要を説明できる。
2. 保健医療問題に対して栄養士が果たすべき役割について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	岩田昇	オリエンテーション(授業の進め方、グループ分け、成績評価など) 社会と健康	健康の概念とその歴史的変遷、公衆衛生の歴史に関する資料・解説を基に、各自の意見を発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：気になる健康問題について、新聞・メディア記事を調べてみる 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる

第2回	岩田昇	環境と健康	生態系の中の人間生活、環境汚染と健康、環境衛生に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第3回	岩田昇	健康・疾病・行動に関わる統計資料	保健統計、人口静態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計、その他の保健統計に関する事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第4回	岩田昇	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策１	健康に関する行動と社会(身体活動・喫煙・飲酒行動・睡眠・休養・ストレス・歯科保健行動)に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第5回	岩田昇	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策２	健康日本21（第二次）、特定健康診査・特定保健指導などに関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第6回	岩田昇	確認テスト１	確認テスト１の実施 解答および解説を行うことにより、理解程度の確認と理解不足箇所の明確化を図る。	予 習120分：1～5回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解個所・あいまいな個所について、復習しておくこと
第7回	岩田昇	主要疾患の疫学と予防対策１	生活習慣病の概念、主要部位のがん、循環器疾患、代謝疾患に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第8回	岩田昇	主要疾患の疫学と予防対策２	骨・関節疾患、歯科・口腔疾患、感染症、精神疾患、自死に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第9回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の制度１	社会保障の概念、医療制度、福祉・介護保険制度に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第10回	岩田	保健・医療・福祉・介護の	地域保健、母子保健に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論する	予習90分：配布資料に目を通しておくこと

	昇	制度２	ことにより、理解を深める。	復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第11回	岩田昇	確認テスト２	確認テスト２の実施 解答および解説を行うことにより、理解程度の確認と理解不足箇所の明確化を図る。	予習120分：7～10回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解個所・あいまいな個所について、復習しておくこと
第12回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の制度３	成人・高齢者保健、学校保健などに関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第13回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の制度４	産業保健・産業ストレス対策に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第14回	岩田昇	保健・医療・福祉・介護の制度５	保健・医療・福祉・介護の連携、国際保健に関する配布資料の事前学習に基づき、グループ発表し議論することにより、理解を深める。	予習90分：配布資料に目を通しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べる
第15回	岩田昇	まとめ	総合テストの実施 解答および解説を行うことにより、理解程度の確認と理解不足箇所の明確化を図る。	予習120分：1～14回の講義資料に目を通し、整理・理解しておくこと 復習90分：不正解個所・あいまいな個所について、復習しておくこと

教科書

講義は配布資料に基づいて行う。

参考書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂
その他は適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定60点以上。
・３回の筆記試験90%、授業への参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
・グループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメント等を適宜行う。

履修のポイント
・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的な取り組みを期待します。
オフィス・アワー
・水曜日・木曜日12:30〜13:20（昼休み） 11号館第5研究室 （講義終了前後にも適宜受付可能）
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C271

講義コード	30160001
講義名	食品学
(副題)	【栄養士必修】【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

食品に関する科学は、食生活や健康を維持するための重要な課題となっている。その中で食品は、安全性を前提として栄養特性（栄養機能）、嗜好性（感覚機能）、生体機能調節性（生体調節機能）が備わっている。食品の栄養特性に関わる成分である水分、タンパク質、炭水化物、脂質、ミネラル類、ビタミン類の化学的に理解する。食品の嗜好性は、色、味、かおりについて学ぶ。さらに、食品の機能についても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、総合的に理解することにより、幅広い知識をこの食品学の講義から習得することを教育目標とする。資格の取得をする。

到達目標

栄養士として食品を科学的視点で理解することにより、食品の調理・加工・保存などの複雑な工程を考察できる能力を養うことを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション（授業の概要、成績評価）食品、人間と食品に授業内容。 食文化と食生活、食料と環境問題		予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第2回	食品成分表についての概要、	市販されている食品を用いて食品表示の意見交換し、レポートにまとめる。	予習30分、教科書を読む。復習60分授業の復習とノート整理。
第3回	水の構造と性質および食品中の水分の役割と定量法についての授業内		予習60分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノー

	容。		ト整理。
第4回	たんぱく質の構造と栄養成分および働きについての授業内容。 アミノ酸とたんぱく質における調理加工における変化の授業内容。		予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第5回	脂質の構造と栄養成分および働きについての授業内容。 油脂の種類と脂肪酸組成による科学的な変化についての授業内容。		予習60分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第6回	炭水化物の構造と栄養成分および働きと食物繊維の働きと役割についての授業内容。 （食品の消化吸収とエネルギーについての授業内容。）		予習60分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第7回	無機質のの構造と栄養成分および働きについての授業内容 ビタミン類の種類と働きおよび調理加工による変化についての授業。		予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第8回	食品の分類と表示、 生産様式、原料、主栄養素、食習慣 植物性食品		予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第9回	植物性食品 炭水化物、特に糖質の性質についての授業内容。 ビタミンの調理、加工、保蔵における成分変化についての授業。 食品の化学的変化褐変についての授業内容。	穀類、いも類、豆類の種類	予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第10回	植物性食品 炭水化物、特に糖質の性質についての授業内容。 ビタミンの調理、加工、保蔵における成分変化についての授業。 食品の化学的変化褐変についての授業内容。	野菜類、果物類、種実類、きのこ	予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第11回	動物性食品 たんぱく質、脂質の性質についての内容 肉の色素	食肉類（食肉・食肉加工品）	予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第12回	動物性食品 加工品、種類について、物質性の変化。	卵類（卵・卵加工品）、乳類（乳・乳製品）	予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第13回	動物性食品 魚介類の種類とたんぱく質、脂質成分についての変化。 藻類のミネラル。	魚介類、藻類	予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
第14回	微生物利用食品 アルコール飲料、発酵調味料、その他の微生物利用食品	畜肉類、乳類、卵類、魚介類について種類を調べさせ発表させる	予習90分、教科書を読む。復習120分授業の復習とノート整理。
	コロイド、懸濁液と乳濁、食品の膨		予習90分、教科書

第15回	潤と浸透圧、レオロジー、テクスチャーについての授業内容。15回の授業のまとめ。	授業内容についての情報交換を実施する。	を読む。復習120分授業の復習とノート整理。

教科書

食べ物と健康 食品学 大石祐一 光生館

参考書

標準 食品学 総論 医歯薬出版
食物学I（食品の成分と機能）・II （食品材料と加工、貯蔵・流通技術）（公社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。(授業内２回の確認テスト40%、本試験60%を実施）。毎回の授業後の復習と確認テストの模範解答の作成は必須です。

課題等に対する
フィードバックの方法

確認テストは採点して返すので、復習して本試験に臨むこと。

履修のポイント

食品の成分の構造と性質を理解し、今後の栄養と食品について理解する基礎となることが望ましい。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）又は授業終了後随時 9号館2階 第5研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R210

講義コード	30170001
講義名	食品学実験I
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

健康を維持するためには、五大栄養素を中心としたバランスある食生活が必要である。
その中で食品の栄養特性にかかわる成分である水分・たんぱく質・糖質・脂質・ミネラル類・ビタミン類の分析実験を学び、基礎的知識並びに技術を習得する。
また食品の嗜好性について、ヒトの五感を活用した官能評価方法で検査を行い、官能検査の意義・方法論について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品の分析に関する基本的知識を理解し、技術を経て学習を総合的に理解する。
さらに食生活に関する事柄・食生活を取り巻く社会的環境についても科学的に理解を深める。

到達目標

食品学の実験・検査の基本技術と知識を身に着ける。
病院や学校給食等の現場で、食品に対する有効な活用や食生活改善などの対応が迅速に行える栄養士となることを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品学実験Iにおける基礎; 化学試験の取り組み方、実験試薬および器具類の取り扱い、実験レポート（ノート）の書き方	食品に関する情報トピックスについて発表し、意見・情報交換を行う 前期に学んだ講座（食品学）の内容を復習し、食品成分の分類を理解する 実験授業に伴う数学的要素（計算、パーセント処理、単位）について演習・確認をする	予習30分（食品学の教科書内容） 復習60分（オリエンテーション内容について、ノートの準備・作成）

第2回	食品中の水分含量の定量実験； 試料の秤量方法（電子天秤の使用方法）、恒量（実験用語）について		予習30分（水分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第3回	食品中の粗灰分顔料の定量実験； 器具の取り扱い方法（前回に準ずる）		予習30分（灰分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第4回	定量実験に用いる試薬の調製； 標準液（0.1Nー水酸化ナトリウム水溶液）の調製 中和滴定による力価（F)の求め方		予習30分（規定液の調整方法；実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第5回	食品中の粗たんぱく質の定量実験①； 窒素ケルダール法による分解過程～希釈調製、実験過程の説明 ※試料状態によっては希釈調製を別途時間に設定する場合あり		予習30分（たんぱく質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第6回	食品中の粗たんぱく質の定量実験②； 窒素ケルダール法による蒸留家庭～滴定定量		予習30分（定量実験方法のおさらい；実験書を読む） 復習60分（ノート作成、次回の提出に備えて記録内容の確認）
第7回	食品中の粗脂肪の定量実験； 有機溶媒を用いたソックスレー抽出法による定量 【課題】ノート提出 チェック内容第１～６回実験 授業終了時に提出		予習30分（脂肪について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第8回	食品中の粗繊維の定量実験①； ヘンネベルグ・ストーマン改良法による定量 ※乾燥後試料移し替えの操作は別途時間に設定する場合あり		予習30分（糖質と食物繊維について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第9回	食品中の粗繊維の定量実験②； 試料の灰化～秤量による最終値算出 還元糖の定量実験； ウイルシュテッター・シューデル法による定量		予習30分（糖類の還元性について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第10回	食品中のビタミンCの定量実験； インドフェノール法による還元型ビタミンCの定		予習30分（水溶性ビタミンについて；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）

	量		
第11回	ケンカ価・ヨウ素価の測定； 試料（液状油）のケンカ価およびヨウ素価を測定し、油脂の同定を行う		予習30分（油脂の性質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第12回	酸価・過酸化物価の測定； 試料（液状油）の酸価および過酸化物価を測定し、試料の状態を予測する	食品に関する情報トピックスについて発表し、意見・情報交換を行う 栄養・調理の視点から油脂および油脂食品の現状や利用について考察をする （講座学習内容の振返りも含む）	予習30分（油脂の変敗について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第13回	官能検査の意義、実施と方法、注意点 基本味（五味）の識別試験		予習30分（官能試験について；実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第14回	比較法の試験（２点又は３点の識別試験法と嗜好試験法） 検定の方法 ※次週行うまとめテスト（筆記・実技）の予告説明あり		予習30分（官能試験について；実験書を読む） 復習60分（ノート作成、次回の提出に備えて記録内容の確認）
第15回	実技テスト（実験器具を使った操作） 筆記テスト（授業で学習した内容のまとめ確認） ※筆記テストの回答は採点後返却するので、学習理解度の自己確認を行うこと 【課題】ノート提出 チェック内容第７～１４回実験 授業終了時に提出		予習30分（実技試験内容の確認、前回までの授業内容を再確認） 復習60分（授業内容と後日返却されるノート記録の確認→次年度実験（食品学実験Ⅱ）への準備として）

教科書

食品学実験書（生活科科学科オリジナル）
授業項目に付随して、補足資料の配布も行う。

参考書

食品学（１年次履修授業）で使用した教科書
食品成分表（香川明夫/監修・女子栄養大学出版部）
新食品分析ハンドブック（菅原龍幸 前川昭男監修・建帛社）
ＮＥＷ調理と理論（山崎清子 他著・同文書院）

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上。
授業への参加度および実験実技３０％、授業内確認テスト２０％、提出物（ノート）５０％を総合して評価する。

課題等に対する

フィードバックの方法
【実験目的～結果および考察】を毎回ノートに記録しまとめる。記載項目と記録方法については初回オリエンテーションにて説明するので参照のこと。習得状況確認のためノート提出を課す（授業計画を参照）。 授業内容に関する総まとめとして、最終回授業内で確認テスト（記述・実技）を行う予定。
履修のポイント
化学的分野の基本原理と基本操作を理解して、積極的に実験に参加取り組みすることが望ましい。 実験授業は講義（実験成分について・実験方法等の説明）と実技で構成されている。実験操作で放置等の待ち時間が発生する場合は、講義内容のノート整理時間など有効な使い方を心掛けてほしい。 実験結果はパソコンで一覧表を表示し全体考察を行うことが多いので、パソコン操作の復習が望ましい。
オフィス・アワー
月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号館３階第８研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C230

講義コード	30180001
講義名	食品学実験II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

食品群の種類及び分類について学習し、それぞれの食品の持つ特色について理解し、これらを基本とした食品成分の性質について実験によって分析した学習を行う。
栄養士としての食品の化学的特性と機能を理解し、その性質分析方法の基本操作を身に着ける。
併せて食品に対しての興味と多方面からのアプローチができる考え方を持てるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品に関しての基本的な事柄からはじめた関連学修事項を、科学的根拠に基づいて理解する。

到達目標

・食品成分表に基づく食品群の種類分類を理解する。
・食品学の授業で学習した事項について、科学的根拠に基づいた理解をできるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実験室の取り扱いについて レポート（ノート）の書き方説明	食品に関する情報トピックスに関して、興味を持つ内容の意見・情報交換を行う 食品学実験Iで学んだ食品成分の分析法を復習し、食品成分表を基に群別分類を再度学ぶ 食品をとりまく現況や問題のトピックスを挙げて、食品に持つ意識を確認する	予習30分（1年後期履修・食品学実験Iの内容おさらい） 復習60分（オリエンテーション内容について、ノートの準備）
第2回	米の種類・品質・搗精度合の判定試験		予習30分（米について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
	小麦粉の種類別試		

第3回	験（乾麩・湿麩量） 食塩とかん水が小麦粉に与える影響について		予習30分（小麦粉とグルテンについて；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第4回	卵白溶液の凝固試験（アミノ酸の定性試験） 加熱による卵の凝固観察		予習30分（卵の成分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第5回	豆乳が凝固する要素の実験（凝固剤・温度による違い）		予習30分（大豆製品について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第6回	果物に含まれるたんぱく質分解酵素の働き 寒天とゼラチンの性質の違い		予習30分（寒天とゼラチンの性質について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第7回	溶液濃度と試薬の調製 次回授業の内容予習（水酸化ナトリウム水溶液の調製） 【課題】溶液濃度調整の計算問題 配布プリントに記入→次週ノートと一緒に提出		予習30分（前週に配布する資料（溶液濃度）を読んでおく） 復習60分（課題プリントノート提出準備の確認）
第8回	0.1N－水酸化ナトリウム水溶液の調製 中和滴定による力価の測定 【課題】ノート提出；チェック内容 第１～７回授業の記録 毎回提出後返却された実験報告書が貼付されている事		予習30分（前週講義内容のおさらい） 復習60分（後日返却するノートの内容確認および記録）
第9回	ヨーグルト中の酸度の定量（中和滴定）		予習30分（乳と乳製品について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第10回	１００％果汁中の有機酸の定量（中和滴定）		予習30分（果物と有機酸について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第11回	醤油の塩分濃度の定量（沈殿滴定法）		予習30分（調味料と含有塩分量について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む）

			復習60分（ノート作成）
第12回	牛乳中の脂肪量（ゲルベル法）とＳＮＦ（バブコック法）の測定		予習30分（牛乳の成分について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第13回	酵素的褐変の定性試験（じゃが芋・りんご） 非酵素的褐変の定性試験（アミノ・カルボニル反応）		予習30分（食品の変質（主に褐変）について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第14回	添加材料の違いによるパンの製造試験 次週の実技試験内容予告	食品分析実験を学習してきた視点からの情報トピックスに関して、興味を持つ内容の意見・情報交換を行う 小麦粉製品の製造を通して、他講座（食品学、栄養学、調理学および実習）で学んできた内容の関連を理解する	予習30分（パンの製造について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第15回	実験操作の実技試験 授業ポイントのおさらい 【ノート提出の予告】期末試験の会場にてノート提出； チェック内容第８～１４回授業の記録 毎回提出後返却された実験報告書が貼付されている事		予習30分（実技試験内容の確認、前回までの授業内容記録を確認しておく） 復習60分（授業内容とノート記録の確認）

教科書

食品学実験書（生活科学科オリジナル）
授業項目に付随して、補足資料の配布も行う。

参考書

食品学（１年次履修授業）で使用した教科書
食品成分表（七訂2018版・香川明夫監修・女子栄養大学出版部）
ＮＥＷ調理と理論（山崎清子 他著・同文書院）

成績評価の方法・基準

認定単位６０点以上
筆記試験８０％、提出物（ノート）１０％、授業への参加度（実技試験含む）１０％

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回実験結果の報告書を配布するので、記入後授業終了時に提出する。
確認後返却されたらノートに添付し記録としてまとめる（ノート提出時に再度確認あり）。

履修のポイント

授業中の積極的な取り組み（講義および実技）を必要とする。
食品学実験I（１年次履修科目）から引き続いての食品関連実験であるので、実験Iで学習してきた内容を復習して実験IIの授業に活用してほしい。

オフィス・アワー
月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号館３階第８研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C250

講義コード	30190001
講義名	調理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

「人間は健康のためにどのような食べ方をしたらよいか」を学ぶために、食べ物の嗜好性と機能、おいしさを演出する食品素材の科学、調理操作の科学、食事計画、食品食材の調理による変化と科学等について学習する。食べることの意義を基点として調理学の総論と調理科学の法則について学ぶ。なお本教科は、食事計画の基礎となる調理や調理科学に関する基礎知識を習得し、調理に対する理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」「調理科学」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・食事計画から食材の選択、調理、供食にいたるまでの一連の調理過程の理論を習得する。
・食品食材の調理による変化と科学の理論を習得する。
・食事の設計を行う上で食事摂取基準及び食品成分表の活用のための基本的な知識を習得する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	中島君恵	調理の目的		予習90分：教科書1章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
	中島	調理の意義と食事の計画・食事の		予習90分：教科書10章を

第2回	君恵	形態(食事構成・食文化論)・食事計画		読む。復習90分：配布資料を見直す。
第3回	中島君恵	食べ物のおいしさに関与する要因・におい、味を感じるメカニズム・食べ物の味	履修者に美味しいと感じる食べ物、場面について意見交換をさせ、おいしさの科学について理解するきっかけを作る。また図を用いておいしさの科学について解説して理解を深め、再度自分のおいしいと感じる食べ物、場面について分析して意見交換する。	予習90分：教科書2章1・2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	中島君恵	食べ物ののおいしさに関与する要因・食べ物のにおい・食べ物の色・テクスチャー・食べ物の外観・食べ物の温度・おいしさの評価		予習90分：教科書2章3〜8を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	調理操作の分類・非加熱操作		予習90分：教科書3章1を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	加熱調理操作・調理機器		予習90分：教科書3章2・3を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	米の調理		予習90分：教科書4章1(1)(2)を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	中島君恵	小麦・いも類・豆類・種実類の調理		予習90分：教科書4章1(3)(4)・2・3・4を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	中島君恵	野菜類・果実類の調理		予習90分：教科書4章5・6を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第10回	中島君	きのこ類・藻類の調理		予習90分：教科書4章7・8を読む。復習90分：配布資料を見直

	恵			す。
第11回	中島君恵	食肉類・魚介類の調理		予習90分：教科書5章1・2を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	中島君恵	卵類・牛乳・乳製品の調理		予習90分：教科書5章3・4を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	中島君恵	油脂・ゲル化剤・とろみ剤砂糖の調理		予習90分：教科書6章・7章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	中島君恵	調味料・香辛料の調理		予習90分：教科書8章を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第15回	中島君恵	おいしく安全に調理を行うための基礎について	履修者に栄養士業務である食事設計における調理(科学)の意義について意見交換をさせ、食事設計、栄養士業務について理解するきっかけを作る。またこれまでの講義内容についてまとめを行い理解を深め、調理(科学)について意見交換する。	予習90分：第1回～第14回の配布資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書

はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ
調理学 おいしく安全に調理を行うための科学の基礎

参考書

調理のためのベーシックデータ

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 定期試験60% 授業レポート１0% 課題30%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあります。返却しますので、学習の参考にしてください。

履修のポイント

調理学をよく理解するために日々の食や健康に関する情報収集が事前学習につながるので、教科書や配布プリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。調理（科学）と健康の視点を持ち授業には積極的に参加する。

オフィス・アワー

水曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第７研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R211

講義コード	30200001
講義名	基礎栄養学I
(副題)	【栄養士必修】【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養の意義をふまえ、各栄養素の種類概要・消化・吸収・代謝の流れ・栄養学的機能と特質・食品のもつ栄養効果について学習する。
また健康の保持増進・疾病の予防治療における栄養の役割を理解し、栄養学の原理となる基礎知識をを実践性活動の場に対応できるように習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養に関する基礎知識を理解する。その知識を得た栄養士として健康栄養に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得できるようにする。

到達目標

栄養士養成課程の専門分野の原理を習得し、併せて他の専門科目との関連性を理解できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養の意義、生体の成り立ちとその機能、栄養学の歴史とその成立		予習90分（教科書P1～12を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第2回	食品成分（糖質・脂質・たんぱく質・ビタミン・無機質）について		予習90分（教科書第4～8章の各最初の1ページを読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
		ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交	

第3回	糖質の種類、消化と吸収、代謝	換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P39～45読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第4回	血糖とその調節、体内代謝、他の栄養素との関係	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P45～52を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第5回	脂質の化学、消化と吸収、代謝	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P53～64を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第6回	栄養機能、脂質と疾患、食事摂取基準	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P64～70を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第7回	たんぱく質とアミノ酸、消化と吸収、代謝	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P71～83を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第8回	栄養価、他の栄養素との関係、食事摂取基準、不足と過剰	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P83～92を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習90分（教科

第9回	脂溶性ビタミンの種類と特徴、代謝と栄養学的機能	授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	書P93～102を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第10回	水溶性ビタミンの種類と特徴、代謝と栄養学的機能	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P102～115を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第11回	ビタミンと他の栄養素との関係 ビタミンの追加補足事項	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P115～116を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第12回	多量ミネラルの分類および機能	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P117～125を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第13回	微量ミネラルの分類および機能	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P125～132を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第14回	生理機能を持つ非栄養素 他	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P163～168を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第15回	食事摂取基準について、食と健康日本21 授業内容のまとめお		予習90分（教科書P177～187を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認す

	よび解説		る）

教科書

Ｎブックス三訂 基礎栄養学（林淳三監修・建帛社）
※後期履修の「基礎栄養学Ⅱ」でも同教科書を使用する

参考書

栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学（田地陽一編・羊土社）
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学ノート（田地陽一編・羊土社）
食品成分表（七訂2019版・香川明夫監修・女子栄養大学出版部）

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上
筆記試験８０％、レポート・課題提出２０％により評価。提出締切は期限を厳守すること。

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回授業計画書を確認して、予習と復習を行うことが望ましい。
授業のまとめとしてレポートやミニテストを複数回課す場合があるが、期末試験に向けた最終まとめの際にそれらも資料として必要となるのでファイリングしておくこと。

履修のポイント

生化学的視点（ヒトのからだのしくみ・消化吸収など）の講義内容を含むので、生化学や解剖学の教科書を参考にすることを薦める。
栄養学や食品学に関連する他の履修科目にも、この科目で学習する内容はつながっていることをふまえる。
課題やミニテストが返却されたら、各自の解答は正誤内容等を再度確認する習慣をつけること。

オフィス・アワー

月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号館３階第８研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R213

講義コード	30210001
講義名	基礎栄養学II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎栄養学Iで学習した栄養素の機能の理解をふまえ、消化吸収・摂食行動、水と電解質、エネルギー代謝、栄養と遺伝子についての学習を行う。
ヒトが生活をしていく社会環境の中で、栄養学が関与する事柄について多角的に理解できるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

健康と栄養をを身近な部分から広域な問題点までを多角的に理解できるようにする。その知識を得た栄養士として健康栄養に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得できるようにする。

到達目標

栄養士養成課程の専門分野の原理を習得し、併せて他の専門科目との関連性を理解できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	基礎栄養学Iで学習した項目のおさらい確認 生体の成り立ちとその機能、栄養学の歴史とその成立	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P4～12を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換	予習90分（教科書P13～20を読む）

第2回	食欲について、サーカディアンリズム、栄養と生体防御	授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第3回	消化器系の構造と機能	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P21～30を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認)
第4回	消化の調節・吸収、消化管ホルモン、栄養素の体内動態、生物学的利用度	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P31～38を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第5回	各栄養素（糖質・脂質・たんぱく質）の消化吸収	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書第4～６章の消化吸収のページを読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第6回	水の機能、電解質の代謝	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P133～138を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認)
第7回	エネルギーとは、エネルギー変換、食品のエネルギー	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P139～146を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
	エネルギー代謝、臓器	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚え	予習90分（教科書P139～146を読む②） 復習90分（授業の記録を

第8回	別エネルギー代謝	るポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	ノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第9回	遺伝病、栄養と遺伝子、遺伝子多型	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P147～157を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第10回	倹約遺伝子、栄養と癌、酸価ストレスと抗酸化作用をもつ栄養素	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P157～162を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第11回	食物繊維 他の栄養素	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P163～168を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第12回	栄養の補給、栄養評価	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P169～177を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第13回	栄養摂取適量	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	予習90分（教科書P177～182を読む） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する、まとめテストの解説確認）
第14回	日本人の食事摂取基準（３大栄養素）	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業内容に関する小問題 回答と解説の情報交換 授業内容の重要な部分や覚えるポイントを設問（選択肢、	予習90分（教科書P188～201を読む） 復習90分（授業の記録を

		記入方式）にしたまとめテストを実施 回答後、正解と解説をして再度重要ポイントを理解する	ノートと資料で再確認する）
第15回	日本人の食事摂取基準（ビタミン、ミネラル） 授業内容のまとめおよび解説		予習90分（教科書P188～201を読む②） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

Ｎブックス三訂 基礎栄養学（林淳三監修・建帛社）
※「基礎栄養学I」で使用した教科書を使用する。

参考書

栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学（田地陽一編・羊土社）
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学ノート（田地陽一編・羊土社）

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上。
筆記試験８０％、レポート・課題提出２０％により評価。提出締切は期限を厳守すること。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

毎回授業計画書を確認して、予習と復習を行うことが望ましい。
授業のまとめとしてレポートやミニテストを複数回課す場合があるが、期末試験に向けた最終まとめの際にそれらも資料として必要となるので、ファイリングしておく。

履修のポイント

生化学的視点（ヒトのからだのしくみ・消化吸収など）の講義内容を含むので、生化学や解剖学の教科書を参考にすることを薦める。
栄養学や食品学に関連する他の履修科目にも、この科目で学習する内容はつながっていることをふまえる。
課題やミニテストが返却されたら、各自の解答は正誤内容等を再度確認する習慣をつけること。

オフィス・アワー

月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号館３階第８研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C231

講義コード	30220001
講義名	応用栄養学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院・福祉施設、研究機関等の管理栄養士としての実務経験に基づき、栄養アセスメント、栄養介入方法などの基礎知識と実際について講義を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大野 治美	指定なし

授業の概要と教育目標

人が誕生してから一生を終えるまでの間の成長・発達、加齢にともなう人体の構造や機能の変化、栄養状態等の変化について理解し、健康増進・疾病予防に寄与する栄養素の機能、健康に影響するリスクの管理について基本的な考え方や方法を学習する。 なお、本科目を学ぶ上で、人のライフステージはその人生の積み重ねで成り立っていることを理解しながら学習を進め、体のさまざまな状況の変化に対応できる栄養ケア・マネジメントを身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として「人体の構造・機能」と「栄養・健康」に関する学習を総合的に理解し、栄養士として活躍する現場において、各ライフステージに適応した栄養管理を効率よく的確に実践するための基本的な知識や技術の習得を目指すものとする。

到達目標

１．各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について説明できる。
２．健康増進や疾病予防に寄与する栄養管理を修得することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	大野治美	オリエンテーション栄養ケア・マネジメントの概念	栄養スクリーニングを実施し、理解を深める。	(予習：90分）教科書を読んで初回授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第2回	大野	栄養ケア計画の実施、モニタリン	アセスメントシートに記入し、栄養アセスメントの実際についてグループワーク	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート

	治美	グ、評価、フィードバック	を行う。	整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第3回	大野治美	食事摂取基準の基礎的理解	食事摂取基準の基礎理論と活用法についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第4回	大野治美	妊娠期・授乳期（1）生理的特徴	妊娠期・授乳期の母体と胎児の生理的特徴、性周期、母乳分泌の機序についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第5回	大野治美	妊娠期・授乳期（2）栄養アセスメントと栄養ケア	妊娠期・授乳期に起こりやすい栄養学的問題とその評価法・解決法についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第6回	大野治美	新生児・乳児期（1）生理的特徴	母乳と人工栄養の特徴、調乳方法、乳児期の栄養補給法に関して学ぶ。離乳の目的、離乳の進め方についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第7回	大野治美	新生児・乳児期（2）栄養アセスメントと栄養ケア	新生児・乳児期に起こりやすい栄養学的問題とその評価法・解決法についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第8回	大野治美	成長期（幼児期、学童期、思春期）（1）生理的特徴	成長期（幼児期、学童期、思春期）における成長・発達の過程についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第9回	大野治美	成長期（2）幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア	幼児期の発育・発達とその評価法を学び、幼児期に起こりやすい栄養学的問題として特に食物アレルギーについてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第10回	大野治美	成長期（3）学童期・思春期の栄養アセスメントと栄養ケア	学童期および思春期の成長・発達の特徴と、アセスメント法についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第11回	大野治美	成人期・更年期（1）生理的特徴	成人期の身体的特性、食生活の特徴から生活習慣病のリスクに関してディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第12回	大野治美	成人期・更年期（2）栄養アセスメントと栄養ケア	成人期の生活習慣病の現状について学び、その予防・対策についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。

第13回	大野治美	高齢期（１）生理的特徴	老化のメカニズムや高齢期の生理的特徴（咀嚼・嚥下機能、消化吸収、代謝の変化）についてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第14回	大野治美	高齢期（２）栄養アセスメントと栄養ケア	高齢期の栄養上の特徴および栄養障害とそのケアについて理解する。低栄養の予防、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、嚥下調整食・介護食などについてディスカッションする。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。
第15回	大野治美	まとめ（トピックス）	授業のまとめと特殊環境と栄養について紹介する。	(予習：90分）教科書を読んで授業に臨むこと（復習：90分）ノート整理、教科書を基に授業の復習をしておくこと。

教科書

Nブックス 五訂 応用栄養学：津田博子・麻美直美 編著 建帛社

参考書

「日本人の食事摂取基準 2020年版」
必要に応じてプリントを配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上
筆記試験 ８０%、確認問題 １５%、授業への取り組み姿勢５%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内において、単元ごとに復習を目的とした確認テストを行うことがある。授業内容の理解度に応じて、フィードバックを行う。

履修のポイント

「応用栄養学」で学ぶ内容は多岐にわたる。ライフステージごとの特性を理解し、日常の食生活に対する考えや、疑問に思うことを質問できるよう、積極的に授業に取り組むことを期待する。

オフィス・アワー

月・水・木の昼休み 11号館研究室18にて対応するほか、授業の前後においても質問に対応する。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C254

講義コード	30230001
講義名	栄養学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての栄養ケア・マネジメント経験に基づき授業を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 五十嵐 桂子	指定なし

授業の概要と教育目標

人間が健康で生きていくためには、よりよい生活習慣を確立することが大切である。ライフステージ別に応じた栄養の特性を理解、ライフステージに応じた献立作成と調理法や実践的な指導法を学び、栄養ケア・マネジメントを習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

桐生大学短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、栄養学・食品学・栄養指導論を基礎として
・体のしくみ・食品・栄養に関する基礎の理解と相互作用について理解すること
・体のしくみ・食品・栄養に関する総合的な理解することで、健康・栄養にかかわる現場で実践的の活用できる能力の修得
を目指すものとする。

到達目標

①栄養素と健康について説明ができる。
②献立作成、作成と実施（出来上がり）の基礎の習得。食事計画・調理・評価
③栄養素の消化吸収について説明ができる。
④ライフステージ別の栄養管理の理解と実践的な活用・展開ができる。評価・計画・実施

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス 栄養ケア・マネジメント 食事摂取基準	自分自身の食事状況の評価及び改善点をレポートにまとめる	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
			予習：教科書の該

第2回	妊娠期・授乳期の栄養管理 1 妊婦の病態と疾患、母乳成分、授乳期の栄養と病態、栄養ケア・アセスメント）		当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第3回	妊娠期・授乳期の栄養管理１ 2	妊娠期の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第4回	乳児期の栄養管理 1 （調乳）実習 調乳・離乳食 初期		予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第5回	乳児期の営養管理 2	離乳食 中期・後期・完了期 離乳食の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第6回	乳児期の営養管理 3 調理実習	作成した献立に基づいた調理実習	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第7回	幼児期・学童期の栄養管理 1 幼児期の 栄養アセスメント		予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第8回	幼児期・学童期の栄養管理 2	乳幼児の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第9回	幼児期・学童期の栄養管理 3 食物アレルギー代替食への展開		予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第10回	思春期・青年期の栄養管理 思春期の栄養アセスメント		予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
			予習：教科書の該

第11回	成人期・高齢期の栄養管理 1 高齢期の栄養アセスメント		当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第12回	成人期・高齢期の栄養管理 2	高齢期の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第13回	高齢期の栄養管理（調理実習）	作成した献立に基づいた調理実習	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第14回	スポーツ選手の栄養管理 1 スポーツ選手のアセスメント		予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）
第15回	スポーツ選手の栄養管理 2	スポーツ選手の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む（30分） 復習：配布プリントを見直す（15分）

教科書

山本由喜子他 編著 応用栄養学実習ワークブック（株）みらい2020年

参考書

適宜紹介

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
レポート課題の提出80%以上、授業への参加（態度含む）20%
＊レポートについては期限厳守

課題等に対するフィードバックの方法

レポート課題は採点後返却します。配布プリントと共に学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業へ参加して学んでください。
＊講義の順番については変更の場合もあります。

オフィス・アワー

質問や相談については、授業終了後などで応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C274

講義コード	30240001
講義名	調理実習I
(副題)	【栄養士必修】【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

【授業の概要】調理学で学習した調理に関する基礎を実習を通じて学習する。授業は、「デモンストレーション ➡ 実習(グループ) ➡ 試食 ➡ 総評 ➡ 片付け」という流れで行う。
授業形態：クラスを2グループに分けて授業を実施(分散授業)
270分×14回(3コマ×14回)・135分×2回(2コマ×2回)

【教育目標】実習では、実践的な知識及び技術を習得することを目標とする。また、衛生管理に留意して調理を行う意義や重要性について学習する。また、グループ学習を通じて、コミュニケーションの向上も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用、また問題を解決できる能力を修得することを目指して、調理に関する知識と技術を深く学び、実践力を養う。社会に出て活躍できるようグループ実習を通して自己や他者の役割を理解し、視野を広く積極的に実習に臨むことを目標とする。

到達目標

・調理科学について実習を通じて理解を深める。
・基礎的な調理技術(調理操作)を習得する。
・実習を通じてコミュニケーション力の向上をはかる。
・伝統食、郷土食を通じて、食文化の伝承と意義の理解を深める。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 調理の基礎I 1）実習の留意点 2）計量 3）調理設備と道具類 4）器具と布巾の洗浄 5）実習後の記録 6）栄養価計算の方法		予習30分：事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。

第2回	基礎実習：炊飯、だしの取り方I(鰹だし) 計量スプーンによる重量換算 切り方(千六本、ささがき、拍子木切り) 献立実習：日本料理 加熱調理(煮る、焼く) 献立：白飯、澄まし汁、鰆の西京焼き、きんぴら、大根の甘酢漬け、いちごの生クリームかけ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第3回	基礎実習：だしの取り方II(煮干しだし) 飾り切り（スマイルカット） 献立実習：日本料理 加熱調理(炒める・茹でる)・和え物の調理 献立：ご飯、味噌汁、二色そぼろ、青菜の胡麻和え、オレンジ	だしについて、うま味についてグループでディスカッションを行い、まとめる。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第4回	基礎実習：だしの取り方II(昆布だし) 切り方(人参：乱切り、千切り) 献立実習：日本料理・炊飯の応用・味付けご飯(塩味)・合わせ酢の扱い方・ゲル化剤の調理(棒寒天) 献立：枝豆ご飯 かきたま汁 肉じゃが レタスとわかめの酢の物 果汁かん基礎実習：だしの取り方II(昆布だし)【課題】自宅にて鍋等を用いて炊飯操作を行い記録し、レポートを 提出する。		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第5回	基礎実習：だしの取り方III(スープストック) 切り方(さいの目切り、みじん切り) 献立実習：西洋料理・加熱調理(焼く-オーブン-)・ゲル化剤の調理(ゼラチン) 献立：コンソメジュリエンヌ チキンピカタ マセドアンサラダ コーヒーゼリー		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第6回	基礎実習：魚のおろし方(手開き) 献立実習：日本料理・加熱調理(焼く-オーブン-)・ゲル化剤の調理(粉寒天） 献立：ご飯、鰯の蒲焼き、吉野鶏とみつばの吸い物、かぼちゃの含め煮、セロリーのレモン漬け、フルーツみつ豆		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第7回	基礎実習：切り方(人参：千切り・色紙切り) だしの取り方IV(混合だし) 献立実習：日本料理 加熱調理(揚げる) もち米の調理 豆類の調理(小豆・枝豆) 小麦粉の調理(天ぷら) 乾麺の扱い方 献立：冷麦 天ぷら きゅうりとわかめの酢の物 おはぎ(小豆餡・ずんだ餡)		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第8回	【まとめ】 ・前期で学習した調理に関する基礎的知識及び技術について、到達度の確認		予習30分：前期学習した調理に関する基礎的知識及び技術について、事前に教科書等を読む。復習30分：前期学習した調理に関する基

	を行う		礎的知識及び技術について、まとめプリント等を用いて復習する。
第9回	基礎実習：ベシャメルソース 献立実習：西洋料理・パスタ料理・ドレッシングの扱い方 献立：マカロニグラタン グリーンサラダ 田舎風野菜スープ リンゴのブルジョアーズ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第10回	・食事計画I(学校給食の献立作成) 学校給食における児童(9～10歳)対象の献立を作成する		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第11回	基礎実習：飾り切り(菊花豆腐・リンゴ) 献立実習：日本料理・松花堂弁当・もち米の調理・乾物の扱い方 献立：炊きおこわ 菊花豆腐 高野豆腐と干しシイタケの炊き合わせ 伊達巻 豚肉巻き イカのもみじ和え ほうれん草お浸し りんごの飾り切り		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第12回	基礎実習：切り方(シャトー切り、拍子木切り)・チャップ花 献立実習：西洋料理・行事食(クリスマス料理)・小麦粉の調理・卵の調理 献立：オードブル ローストチキン 星空のスープ ブッシュドノエル		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第13回	基礎実習：飾り切り(ねじり梅・亀甲しいたけ) 飾り切り(かばぼこ) 献立実習：日本料理・行事食（正月料理） 献立：雑煮 黒豆 二色卵 のし鶏 紅白なます 紅白かまぼこ 栗きんとん 数の子の土佐じょうゆ和え 日の出ミカン		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第14回	基礎実習：だし巻き卵・薄焼き卵 献立実習：日本料理・行事食（ひな祭り料理）・ 米の調理－すし飯－・米粉の調理 献立：ちらし寿司 菜の花の辛し和え ハマグリの潮汁 桜餅		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第15回	食事計画II(学校給食の調理および評価） 食事計画Iで作成した学校給食の献立をもとに調理➡評価➡発表の流れで実習を実施する。	献立作成から実習を振り返り、グループで献立の特徴についてまとめ、発表を行う。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポートに取り組む。
第16回	【まとめ】 ・1年間学習した調理に関する基礎的知識及び技術について、到達度の確認を行う		予習30分：1年間学習した調理に関する基礎的知識及び技術について、事前に教科書等を読む。復習30分：1年間学習した調理に関する基礎的知識及び技術について、まとめプリント等を用いて復習する。

教科書
「楽しい調理」(医歯薬出版株式会社) 「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大学出版部)
参考書
「調理と理論」(同文書院)
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上（通年で評価） 実習ノート30% 実習実技及び課題30% 小テスト40%
課題等に対する フィードバックの方法
毎回栄養価計算と調べ学習の課題に取り組む。(次回提出)返却するので、ファイルに綴じ復習に有効に活用すること。
履修のポイント
実習については、各自が余裕をもって準備(身支度等)してのぞむこと。調理技術の習得と実習へ積極的に望む。食材の都合により実習が前後することがある。
オフィス・アワー
火曜日：12：30～13：20（昼休み）、9号館3Ｆ第７研究室 ※授業前後にも適宜受けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C212

講義コード	30250001
講義名	調理実習II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

【授業の概要】調理実習Iをふまえて、調理技術の向上及び造詣を深めるべく西洋料理、中国料理及び応用調理について学ぶ。また、調理の専門性や調理に関する分野の浸透を計るため、スペシャリストを講師として招いて行う。さらに実践力を養うための実習として高齢者を対象として、献立作成→試作→実習を行いお弁当の製作を行う。授業は、「デモンストレーション ➡ 実習(グループ) ➡ 試食 ➡ 総評 ➡ 片付け」という流れで行う。
授業形態：180分×24回

【教育目標】実習では、調理実習Iで学習した知識及び技術に実践力を習得することを目標とする。また、衛生管理に留意して調理を行う意義や重要性についてもさらに理解を含める。また、グループ学習を通じて、コミュニケーションのさらなる向上も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用、また問題を解決できる能力を修得することを目指して、調理に関する知識と技術を深く学び、実践力を養う。社会に出て活躍できるようグループ実習を通して自己や他者の役割を理解し、視野を広く積極的に実習に臨むことを目標とする。

到達目標

・基礎調理をふまえて、さらに調理技術を習得する。
・高齢者の調理(シルバーランチ)を通じて、高齢化時代に対応した献立作成を含めて実践力を養う。
・各分野のスペシャリストを通じて専門性を高める。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
			予習30分：

第1回	食事計画I 高齢者を対象とした献立作成と調理(シルバーランチ)：献立作成 【課題】高齢者を対象とした四季の献立作成を行う。(春の献立・夏の献立・秋の献立・冬の献立) 献立実習：西洋料理の献立様式・ソースについて・加熱調理操作(焼く) 献立：バターロール、オニオングラタンスープ、チキンソテーマスタードソース、ミモザサラダ、いちごゼリー	高齢者の身体変化について意見交換を行い、食事の留意点についてディスカッションする。	高齢者の献立に役立つ教科書や資料を読む。 復習30分：献立作成、ノート整理に取り組む。
第2回	日本料理の献立様式・加熱調理(蒸す)・旬の食材(筍)の扱い方 献立：筍ご飯、若竹汁、まながつおの西京焼き 筍の木の芽和え わらび餅		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第3回	西洋料理の献立様式・特徴(ソース)・魚のおろし方(三枚おろし) 献立：パン、コーンクリームスープ、真鯛のポワレ ノイリー酒のソース、ニース風サラダ、チョコレートムース(外部講師を予定)		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第4回	日本料理の献立様式・加熱調理操作(蒸す)・米粉の調理特性・旬の食材(新生姜)の扱い方 献立：新生姜ご飯、すまし汁、さわらの桜蒸し（道明寺蒸し）、白和え、うぐいすもち		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第5回	西洋料理（スペイン料理）の献立様式・加熱調理(炊く)・米の調理献立：パエリア、ガスパチョ、エスカベッチョ、パナジェッツ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
			予習30分：次回の授業

			範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第6回	日本料理の献立様式・加熱調理(焼く-オーブン-)・旬(空豆)の食材の扱い方・季節の和菓子 献立：空豆ご飯、えびしんじょう椀、ぎせい豆腐、治部煮、錦玉		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第7回	西洋料理の献立様式・加熱調理(煮る)・旬の食材(グリーンアスパラガス)の扱い方・小麦粉の調理特性(ブラウンソース・物理的膨化：シュー) 献立：バターライス、コンソメ アラ アラ ロワイヤル,、ハッシュドビーフ、グリーンアスパラガスのサラダ、シュークリーム		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第8回	日本料理の献立様式・加熱調理(焼く-オーブン-)・小麦粉の調理(どら焼き)・旬(冬瓜)の食材の扱い方 献立：あさりと根三つ葉の炊き込み飯、船場汁、和風ローストポーク、冬瓜の海老あんかけ、どら焼き		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第9回	中国料理の献立様式・加熱調理操作(揚げる)・炸菜I・ゲル化剤のの扱い方(寒天) 献立：涼拌蕃茄、清湯睡蓮、腰果鶏丁、炸春捲、杏仁豆腐		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第10回	日本料理の献立様式・加熱調理(焼く-オーブン-)・魚のさばき方II(鰯)・季節の和菓子 献立：イワシの蒲焼丼、沢煮椀、いかと分葱のぬた、水無月		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
			予習30分：次回の授業

第11回	食事計画II 高齢者を対象とした献立作成と調理(シルバーランチ)：各班で高齢者対象の夏の献立、秋の献立を調理する	実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。	範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む
第12回	【まとめ】前期で学習した調理に関する知識及び技術について、到達度の確認を行う		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第13回	特別食－食物アレルギーの食事－ 献立実習：カボチャと長芋のオムライス、ミネストローネ、豚肉の衣揚げ、かぼちゃプリン		予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第14回	西洋料理(イタリア料理)の献立様式・加熱調理(茹でる・煮る)・パスタ料理の特徴・ベシャメルソースについて 献立：ラザニア、卵黄スープ、インサラータ・ディ・リーゾ (米のサラダ)、ビスコッティ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第15回	中国料理の献立様式・加熱調理操作(炒める・揚げる)・炸菜II 献立：涼拌茄子、粟米会豆腐、炒青椒牛肉絲、油淋鶏、杏仁酥		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第16回	西洋料理の献立様式、加熱調理(揚げる) 献立：パン、秋ナスのポタージュ、ミラノ風カツレツ、コールスローサラダ、、ロールケーキ(バタークリーム)		予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポー

	リーム		ト、ノート整理に取り組む。
第17回	日本料理の献立様式・行事食(重陽節句)・加熱調理(揚げる-フリッター-)・米粉の調理 献立：菊花ごはん、飛竜頭のすまし汁、サンマの博多焼風 栗の甘露煮添え、舞茸のフリッター、ささみと春菊のごま和え、上用まんじゅう		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第18回	食事計画III 高齢者を対象とした献立作成と調理(シルバーランチ)：試作を基にお品書き作成し、高齢者を対象とした秋のお弁当を完成させる	お弁当のコンセプト、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第19回	西洋料理の献立様式・加熱調理操作(揚げる)・炊飯(洋風炊き込み飯)・小麦粉の調理特性(ベシャメルソース) 献立：チキンピラフ、ブロッコリーのポタージュスープ、蟹クリームコロッケ、ズッパイングレーゼ		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第20回	中国料理の献立様式・加熱調理操作(炒める)・炒菜 献立：姜汁鮍魚、白菜丸子湯、炒米粉、栗子鶏、ごま団子		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第21回	西洋料理の献立様式・行事食（クリスマス）・ひき肉の調理特性 献立：パン、ミートローフ、きのこのクリームスープ、アスピックゼリー、デコレーションケーキ(デモンストレーションのみで実施)		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。復習30分：課題レポー

			ト、ノート整理に取り組む。
第22回	実習：スポンジケーキ (献立実習：パン、ビーフシチュー、ピクルス、果物) 【課題】デコレーションケーキの企画（コンセプト・デザイン画作成）		予習30分：配布資料を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第23回	【まとめI】1年間で学習した調理に関する知識について、到達度の確認を行う実習 (献立実習：シーフードドリア、ジュリエンヌサラダ、果物)		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第24回	【まとめII】調理に関する技術について、到達度の確認を行う実習デコレーションケーキの作成 (献立実習：チーズフォンデュ、果物)		予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。

教科書

「楽しい調理」(医歯薬出版株式会社)

参考書

「調理と理論」山崎清子（同文書院）

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上（通年で評価）
実習ノート30% 実習実技及び課題30%、小テスト40%

課題等に対する
フィードバックの方法

調理を十分に理解して技術を習得するために授業時間外においても調理する機会を積極的に設けること。毎回課題レポートに取り組み、教科書や配布プリント等の講義資料を熟読しまとめる。ノート提出（計2回）を行うので、毎回授業終了に実習内容についてまとめることを復習として勧める。課題やプリントはファイルに綴じ学習の参考にすること。

履修のポイント

調理科学と健康の視点を持ち、実習には積極的な姿勢で実習に臨むこと。
食材の都合により、回数が前後する場合がある。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3Ｆ第７研究室

※調理実習前後にも、適宜受け付けます（9号館1Ｆ調理準備室）

科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C253

講義コード	30260001
講義名	マーケティング
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

フードビジネスの視点から農水産物や加工食品の流通ルートとその担い手である卸売業・小売業、中食を含めた外食産業、食品消費と環境問題や食の安心・安全といった今日の私たちを取り巻く問題について説明していきます。授業は、講義形式で行いますが、授業内容が理解できているかどうかを確認するために「確認プリント」を実施する予定です。本講義を通して私たちの生活の身近な問題からグローバルな問題までを理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、２．生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している、という2項目と関連しています。なお、この科目は、フードスペシャリストの資格を取得する場合には必ず履修しなければならない科目の一つです。

到達目標

１．農水産物や加工食品の流通について説明できるようになる。
２．食品卸売業・小売業の役割や現状について説明できるようになる。
３．食品消費と環境問題、食の安心・安全など今日の課題についても説明できるようになる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	フードビジネスとは何か オリエンテーション（授業内容、進め方、成績評価等） フードビジネス、フードマーケティングとは何かについて学びます。	予習90分：シラバスと教科書の「５フードマーケティング」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	食生活の変化（１）	予習90分：教科書の「１食市場の変化」のところを

第2回	食生活がどのように変化してきたのか、その要因について学びます。	読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第3回	食生活の変化（２） 食生活の変化が商品消費をどのように変化させてきたのかを学びます。	予習90分：教科書の「１食市場の変化」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	食品の流通（１） 流通の役割と食品流通の特徴について学びます。	予習90分：教科書の「２食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	食品の流通（２） 生鮮食品の卸売市場流通について学びます。	予習90分：教科書の「２食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	食品の流通（３） 加工食品の流通について学びます。	予習90分：教科書の「２食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	食品の流通（４） 食品小売業（スーパー・コンビニなど）について学びます。	予習90分：教科書の「２食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分；：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	食品の流通（５） 温度帯別食品流通について学びます。	予習90分：教科書の「４主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	主要な食品流通（１） 米、麦、野菜・果物などの流通について個別にみていきます。	予習90分：教科書の「４主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	主要な食品流通（２） 漬物、菓子、飲料などの流通について個別にみていきます。	予習90分：教科書の「４主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	外食産業 外食産業の発展とその仕組みについて学びます。	予習90分：教科書の「３外食・中食産業」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	中食産業 中食産業の発展とその背景について学びます。	予習90分：教科書の「３外食・中食産業」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	食料消費と環境問題 食料消費と環境問題の関係について学びます。	予習90分：教科書の「６食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	食料消費を取り巻く課題 買物難民、地産地消、食育など今日の課題について学びます。	予習90分：教科書の「６食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	食品流通と安全 食品流通に対して、どのような安全策が施されているのかについて学びます。	予習90分：教科書の「６食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

日本フードスペシャリスト協会編『三訂食品の消費と流通』建帛社

参考書

必要に応じて紹介します。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 筆記試験70%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組みなど）30%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内で実施した確認プリント等については、原則として次週返却します。
履修のポイント
授業資料（プリント）は教科書に沿ってまとめてありますので、教科書と照らし合わせ、特に図表も含めて確認し理解を深めてください。また、それを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C171

講義コード	30270001
講義名	人間関係
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、人とかかわり、人間関係を円滑に運ぶためのカウンセリングの考え方やその基本的な技法を中心に学習し、必要となる技術や理論について理解を深める。とくに対人援助場面でみられる基本的なコミュニケーションの技法とその背景にある考え方を取り上げる。授業は講義形式で行い、授業内で実習を組み込んだり、小レポートを課すことも予定している。また、「ピアヘルパー」の資格取得も視野に入れて講義を進める。人と人との関係を結ぶための基本的な考え方や技法について、心理学の立場から理解し、それらを確実にすることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望としては、人間関係の多様なあり方を理解することを通して、生活科学の問題を理解する基盤となる学修成果を残すことを目指すものとする。

到達目標

１．援助者としての心がまえについて理解する。
２．カウンセリングの基礎的な理論について理解する。
３．援助（ヘルピング）技法の基本について理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス 人間関係で取り扱う問題 ピアヘルパーとは何か、構成的グループエンカウンターの考え方	構成的グループエンカウンターを構成するエクササイズとシェアリングの実際について、いくつかのエクササイズを取り上げて、教員がファシリテーターとなって実施し、ピアヘルピング（仲間同士で助けたり助けられたりする）の関係性を体験を通して実感する。	予習90分：教科書第1章1節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

第2回	カウンセリング概論	カウンセリングの定義・略史・必要性についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書第1章2・7節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	援助関係の形成①	カウンセリングの種類、援助者としての資質についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書 第1章3・4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	援助関係の形成②	援助のプロセス（リレーションづくり、問題の把握、問題の解決）についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書第1章5節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	カウンセリング理論① 自己理論と精神分析理論にもとづくカウンセリングの考え方を学ぶ。	ヘルピーが話しやすくなるためにはどのようなことに注意すればよいのかについて、グループで話し合う。	予習90分：1年次「人間と心理」“臨床の心理学”を見直す。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	カウンセリング理論② 学習理論と論理療法理論にもとづくカウンセリングの考え方を学ぶ。	1年次に学習した「学習」について、グループで確認する。	予習90分：1年次「人間と心理」“臨床の心理学”を見直す。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	ヘルピングの技法① 非言語的技法～非言語的コミュニケーションに注目した援助技法	言語的技法と非言語的技法の双方を用いた二人一組になってエクササイズを行う。その後、普段はあまり自覚しないが、コミュニケーションとは言語・非言語のいずれかの技法を用いて行われるわけではなく、双方が伴ってはじめてコミュニケーションが成立することを体験を通して実感する。	予習90分：教科書第2章3節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	ヘルピングの技法② 言語的技法～言語的コミュニケーションによる基本的な援助技法（受容・繰り返し・明確化）	傾聴の技法のうち、受容・繰り返し・明確化について、履修者が二人一組になってのエクササイズを行い、傾聴を体験する。その後、エクササイズの感想等をシェアリングし、相手の良かった点やこうした方がもっと良くなる点などを共有する。	予習90分：教科書第2章1節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	ヘルピングの技法③ 言語的技法～言語的コミュニケーションによる基本的	傾聴の技法のうち、支持・質問について、履修者が二人一組になってのエクササイズを行い、傾聴を体験する。その後、エクササイズの感想等をシェアリングし、相手の良かった点やこう	予習90分：教科書第2章2節を読む。 復習90分：配布

	な援助技法（支持・質問）	した方がもっと良くなる点などを共有する。	資料を見直す。
第10回	問題解決の対処法① ６つの対処法	自分の手に負えないとにはどんな対処方法があるのかについてグループで意見交換する。	予習90分：教科書第2章5節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	問題解決の対処法② 援助技法向上のための方法	いくつかの場面を設定し、グループでロールプレイを行う。	予習90分：教科書第2章7節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	対話上の諸問題への対応①	援助時に起こりやすい状況について、グループで対応策を考えてみる。	予習90分：教科書第2章4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	対話上の諸問題への対応②	面接場面でヘルピーの感情をつかむための4択問題を行う。	予習90分：教科書第2章4・6節を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	活動許容範囲 青年期に生じるさまざまな課題とそれへの対処①	これまでのまとめとして4択問題や記述式問題を解いてみる。	予習90分：教科書第3章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	確認テスト 補足		予習90分：14回分の小ﾃｽﾄを見直す。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）40%、
レポート課題30%、
授業への積極的参加度30% を総合して評価します。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。普段から人の行動に興味を持ち、各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となります。配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。

オフィス・アワー
水曜日・木曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。 ※講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C170

講義コード	30280001
講義名	臨床心理学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育機関での心理臨床活動および教員へのスーパーヴィジョン等の経験からケースの見立て・介入方法などに反映させた授業を行う
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 初美	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床心理学は、心理学で蓄積された理論や技法を用いた応用的・実践的な学問領域である。人の心の安定をはかるための臨床援助活動の実際について理解を深めることが求められるが、その基本は自己を理解し、自己と他者は異なる存在であるということを認識してコミュニケーションをはかるところにある。本講義では、臨床心理学に関連するテーマとともに、自己理解や他者理解といったテーマを取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによってVTR視聴や実習を取り入れる予定である。なお、対人場面におけるさまざまなコミュニケーションの特徴を学修し、併せて、自己と他者の違いを実感しながら、自らのコミュニケーション能力を理解することを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望として、人の多様性を加味した生活科学を心理的側面を通して考えることができる能力の養成の基盤となる学修を目指す。

到達目標

１．自己理解・他者理解について学修し、自己と他者の違いを実感する。
２．対人場面におけるコミュニケーションの特徴について理解する。
３．臨床心理学で使われる専門用語（カウンセリングの専門用語など）について理解する。
４．「相手の話を聞く」姿勢と「自らのことを話す」姿勢について理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 臨床心理学とは何か①	一般的な問題解決のプロセスと臨床心理学における問題解決のプロセスの	予習90分：教科書pp.12-23を読む。 復習90分：配布資料を整理し、

		異同について考える。	教科書と照合する
第2回	臨床心理学とは何か② 臨床心理学の活動や基本理念について取り上げる。	心理学・カウンセリングの専門用語を事例・資料と照らして考える	予習90分：教科書pp.24-44を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第3回	アセスメント① アセスメントのための情報収集や分析方法からケース・フォーミュレーションを行うこと、つまり援助は自分の勘や経験によって進められるのではなく、仮説－検証のプロセスが大切であることを理解させる。	カウンセリングのプロセスについて、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.45-55を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第4回	アセスメント② 心理検査の概要（検査の特色や目的等）について取り上げる。	自分の性格検査の結果についての妥当性について検討する。	予習90分：教科書pp.56-76を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第5回	人の発達と心の問題① ライフサイクルの視点で各発達段階における特徴と諸問題について取り上げる。	発達段階で起こりやすい問題の背景にはどのようなことが考えられるのか、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.78-85を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第6回	人の発達と心の問題② 乳児期から思春期 発達段階の特徴と発達過程における具体的な問題について取り上げる。	発達のプロセスで起こる問題について、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.86-93を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第7回	人の発達と心の問題③ 青年期から老年期 発達段階の特徴と発達過程における具体的な問題について取り上げる。	自らのライフラインを描きアイデンティティの確立等について、自他の考えを理解し、人の一生について考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.94-99を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第8回	人の発達と心の問題④ 発達障害、虐待、いじめ、不登校等子どもの現代的課題とその問題について取り上げる。	正常と異常の違いについてメンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.100-120を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する おお
			予習90分：教科書pp.100-

第9回	心の疾患と理解① 異常心理学と臨床心理学の関わりについて、気分障害、統合失調症を取り上げて説明する。	正常と異常の違いについてメンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	p120p.pp160-166を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第10回	心の疾患と理解② 不安障害、パーソナリティ障害を中心に精神障害について取り上げる。	事例研究を行い、精神障害について理解を深める。	予習90分：教科書pp.132-159を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第11回	問題への介入①来談者中心療法、精神分析、分析心理学 自分に向き合っていくための心理療法について取り上げる。	安心して自分の内面に目を向けるためには何が重要かについて、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.167-179を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第12回	問題への介入②行動療法、認知行動療法、分析心理学 自分の行動や考え方に焦点を当てた心理療法について取り上げる。	物事の捉え方には一人一人のクセがあることを理解し、メンバーの意見を聞きながら対応策を検討する。	予習90分：教科書pp.180-187，212-217を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第13回	問題への介入③ 11・12回で扱った以外の心理療法について取り上げる。		予習90分：教科書pp.188-211を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第14回	コミュニティへの介入 児童虐待について取り上げる。	コミュニティへの介入で注意すべき事柄について考究する。	予習90分：教科書pp.108，194-197,226-227,246-7を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第15回	社会と臨床心理学 社会の中でと臨床心理学がどのように活用しているのかについて取り上げる。 確認テスト		予習90分：教科書pp.272-285を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する

教科書

下山晴彦監修 『面白いほどよくわかる臨床心理学』 西東社

参考書
藤田主一、山田晴美編著「医療と看護のための心理学」 福村出版
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）もしくは小論文40%、 レポート・課題30%、 授業への積極性・態度30% を総合して評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。
履修のポイント
講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。
オフィス・アワー
金曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11号館講師室。 ※講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C150

講義コード	30290001
講義名	生活環境論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

地球環境問題は多岐にわたると同時に、私たちのすぐ身近に存在している。大気や水質の変化、土壌の汚染と劣化、生態系の危機など、日々の新聞にいずれかの環境問題の記事が必ず見られる。この講義では、私たちの生活のなかで生じている環境問題を、大気や水、土壌の汚染、私たちの社会がかかえる廃棄物・エネルギー問題、自然環境の変化など、個々の話題に着目して論じる。同時に、大気汚染、生態系の危機、エネルギー問題などについて、問題点を明確にし、解決策を探る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

今日、世界規模で生じている地球環境問題について興味を持続し、たとえば廃棄物の削減や省エネルギーを意識した活動など、社会に出ても環境問題を考えた生き方ができる人材を育てる。生活科学科のディプロマポリシーにある「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」という到達目標に関係し、人間の生活環境や自然環境について多面的に捉える能力を養う。

到達目標

今後、ますますクローズアップされてくる地球環境問題について、すこしでも地球環境の現状への興味をかきたて、これから社会に出たあとでも環境に配慮した生活ができるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	環境問題と公害問題について違いを理解する。過去に起こった大気汚染による公害問題を知る。また、これに関連して、大気汚染についてどんな法律があるのかを見ていく。		復習としてテキスト12頁～14頁、55頁～60頁を見ておく（90分）。19頁2.1の問題を考える（90分）。
			大気汚染物質	予習の時間90分、復習の時

第2回	橋爪博幸	中国から日本へ渡ってくるの大気汚染物質について知る。大気汚染の原因となる物質について理解する。	にはどのようなものがあるか意見を出し合い、まとめる。	間90分。予習は事前にテキスト60頁～63頁を見ておく。復習として、67頁の問題をやってみる。次の授業時に解答する。
第3回	橋爪博幸	2011年3月の東日本大震災では多くの人命が失われ、同時に福島の原子力発電所の事故で放射能汚染が広がった。原子力発電所の事故により、どのような環境汚染が広がることになったのか、その概略を見ていく。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前配布プリントを読んでおく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。
第4回	橋爪博幸	地球規模で気候変動が生じていることや、CO2が増加している事実をデータで知り、今後予想される災害や海洋の変化などについて知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト101頁～105頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。99頁7.9の問題を解いてみる。
第5回	橋爪博幸	生態系という概念を理解し、日本列島の自然環境の多様性に触れる。	日本列島に見られる森林生態系について意見を出し合い、森林区分の地図を作成する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト111頁～121頁を見ておく。復習は122頁9.3について調べまとめる。
第6回	橋爪博幸	廃棄物量の現状や循環型社会を目指す法整備が進められていることを知る。包装容器の再利用の道を探る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト123頁～125頁を見ておく。江戸のリサイクル社会についてまとめる（141頁～147頁）。
第7回	橋爪博幸	商品等を包むパッケージについて、さまざまな機能、デザイン、素材について学ぶ。＜アクティブラーニング＞パッケージの再利用、活用事例について考える。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト126頁～128頁、133、134頁を見ておく。復習として140頁、10.8をやってみる。
第8回	橋爪博幸	枯渇性エネルギー、再生可能エネルギーにはどのようなものがあるかを知る。電気やガス、ガソリンといったエネルギー源の消費推移等を知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト106頁～108頁を見ておく。復習は148頁11.4を考えてみる。
第9回	橋爪博幸	ＷＷＦが発行するレポートに載る「エコロジカルフットプリントの世界地図」をもとに、これから社会をつくる私たちが、目指すべき人間社会はどのようなものであるかを考える。	エコロジカルフットプリントの世界地図を学生みなで完成させる。	予習として配布プリントの穴埋めをしておく（90分）。テキスト6頁～9頁を読んでおく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する(90分)。
第10回	橋爪博	世界の不平等を理解し、発展途上国といわれる国々でとりかえしのつかない破壊が生じている現状を		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト4頁～5頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不

	幸	見ていく。		足があれば調べてプリントに記入する。
第11回	橋爪博幸	野生生物保護や廃棄物の越境を防ぐための国際的な取り決めを知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト15頁～19頁を見ておく。復習は配布プリントを見直し、不足があれば調べてプリントに記入する。
第12回	橋爪博幸	地球上における淡水の割合を知り、淡水や海水がひどく汚染されている現実を知る。水質汚染を防ぐ方法について考える。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト41頁～49頁を見ておく。40頁、3.1の問題を解いてみる。
第13回	橋爪博幸	世界第４位の湖であったアラル海が消滅の危機にある。人間の事業活動が地球規模で環境破壊を招くことを知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前に配布プリントの穴埋めをしておく。復習はアラル海の消滅までの経緯をまとめる。
第14回	橋爪博幸	アジアやアフリカなど、世界各地で進行する砂漠化の現状を知る。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキスト1頁～4頁を見ておく。復習は9頁、1.6の問題について記述してみる。
第15回	橋爪博幸	現代のモノと情報があふれる人間社会が抱える環境問題をふり返り、人間らしく生きるために必要な事物は何であるかを考える。		これまで15回の講義を振り返り、大気汚染や気候変動など項目ごとにノートにまとめる（180分）。

教科書

鈴木孝弘『新しい環境科学』改訂２版（駿河台出版）

参考書

講義のなかで必要なときに紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 課題の提出（20%）、期末試験（80%）をもとに総合的に評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

提出された課題は、こちらでチェックし、記述レポート等は添削し、補足説明を付して返却する。また細かくチェックできないときはレポート等を授業時間内で返却し、解説し、場合によっては模範解答を掲示、または配布する。

履修のポイント

求められた配布プリントの提出や、レポート課題はかならず提出すること。環境問題に関するニュースや新聞記事等を読み理解しておく。配布プリントは記入漏れがないようにしておく。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーとする。９号館３階の第６研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R111

講義コード	30300001
講義名	コンピュータI
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちの日常生活では、スマートフォンをはじめとするさまざまな情報操作機器に触れる機会が多い。そのなかでもコンピュータは情報検索や文書作成、データ管理など多岐にわたる機能が備わっている。このコンピュータIの演習科目では、主に「ワード」ソフトを使い、文書作成の基礎操作を中心に学ぶ。また「パワーポイント」ソフトをつかって、口頭発表データの作成、インターネット機能を活用した情報検索の技術について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

コンピュータI･IIの授業を通して、コンピュータ操作の基本ソフトを使いこなす。ワード、エクセル、パワーポイントなどのソフトを使い、データ作成、基礎的な表計算処理等ができるようにする。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活科学に関する基礎的な知識」を科学的に捉えることに関係し、その実践的な能力を養う。

到達目標

ワードとパワーポイントの基礎的な操作方法を、実際の社会の現場で発揮できるレベルまで引き上げる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	漢字の入力方法、読み方がわからない漢字の入力方法を学ぶ。アルファベット、数字入力の方法も学ぶ。		復習の時間90分。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第2回	橋爪博幸	ワードソフトで使われる編集記号について理解する。また、記号の入力方法を学ぶ。	実技として、簡単な文章入力にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。

第3回	橋爪博幸	中央揃え、文字サイズ、フォント、アンダーラインといった文字修飾の方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第4回	橋爪博幸	罫線をつかった表を作成する。表内の文字列の配置の変え方などを学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第5回	橋爪博幸	パワーポイントを使った文書を作成する。（１回目）	自分自身の趣味や特技についてパワーポイントデータにまとめる。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、データ作成課題を仕上げる(90分)。
第6回	橋爪博幸	パワーポイントを使った文書を作成する。（２回目）	パワーポイントで口頭発表用のデータを作成し、口頭発表する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、データ作成課題を仕上げる(90分)。
第7回	橋爪博幸	手紙や文書としてつかう敬語表現を確認する。Ａ４用紙一枚で文書を作成する。	Ａ４用紙一枚で、見栄えの良い履歴書送付のかがみ文書などを作成する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、データ作成課題を仕上げる（90分）。
第8回	橋爪博幸	ワードアートや図の挿入方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第9回	橋爪博幸	用紙を無駄にしない印刷の方法を学ぶ。印刷する際の注意点を理解する。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第10回	橋爪博幸	Ａ４用紙一枚の課題文書を作成する。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第11回	橋爪博幸	段組みや脚注といった、文書を美しくするよう工夫した文書づくりを行う。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第12回	橋爪博幸	同じ文書の一部だけを、差し替えて印刷する方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
		インターネットに接続して、地図	ワードソフト	予習の時間90分、復習の時

第13回	橋爪博幸	や電車の時刻表などを調べる。自分にとって必要な情報を見極める方法を学ぶ。インターネットを使う際のりすくについて認識する。	を使った実技問題にチャレンジする。（１回目）	間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第14回	橋爪博幸	ワードソフトの使い方を総復習する。知識問題にチャレンジする。	ワードソフトを使った実技問題にチャレンジする。（２回目）	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第15回	橋爪博幸	ワードソフトを使い、実技問題を仕上げる。	ワードソフトを使った実技問題にチャレンジする。（３回目）	復習の時間90分。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。

教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』 実教出版

参考書

講義のなかで必要なとき紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 提出された課題（50%）、実技試験（30%）と知識問題（20%）の点数をもとに評価する。

**課題等に対する
フィードバックの方法**

配布プリントや、作成データを印刷し提出する。こちらで確認後、返却し授業内で課題への回答について解説する。記入漏れ、データ作成の不備があるときは再提出をもとめる。

履修のポイント

提出を求められた課題は、かならず提出すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第６研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R112

講義コード	30310001
講義名	コンピュータII
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

前期のコンピュータIにひきつづき、後期開講のコンピュータIIの演習科目では、エクセルソフトを活用した表計算やグラフ作成を中心におこなう。エクセルソフトを使いこなすことで、さまざまな表計算だけでなく、グラフの作成や名簿などデータベースの管理がスマートにでき、文書作成時のミスも防げる。またエクセルソフトに備わっている数多くの関数を使いこなすことで、数値や文字データの処理をスムーズに進めることができる。後期のコンピュータIIでは、このエクセルソフトを使った情報処理技術を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

コンピュータIとIIの授業を通じて、コンピュータの操作に慣れる。コンピュータのソフトとして、ワード、エクセル、パワーポイントを使い、短時間で与えられた文書や発表データの作成、基礎的な表計算処理等ができるようにする。生活科学科のディプロマポリシーにある「生活科学に関する基礎的な知識」を科学的に捉えることに関係し、実践的な能力を養う。

到達目標

ワードやパワーポイント、エクセルの操作は今日の社会で必須のスキルである。演習を通して、社会人になったときに組織のなかで書類作成をてきぱきとこなせる高いレベルまで到達する。文書やグラフなどを自分のイメージしたとおりに表現することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	エクセルの画面についてその名称、機能を知る。		復習の時間90分。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第2回	橋爪	エクセルソフトで使われる関数について、その入力方法や記号の意味を理解	関数の課題にチャレン	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。

	博幸	する。	ジする。	習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第3回	橋爪博幸	合計を求めるＳＵＭ関数、平均を求めるＡＶＥＲＡＧＥ関数を使い、表計算処理を行う。	関数の課題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第4回	橋爪博幸	ある範囲の中から最大値を求めるＭＡＸ関数、同様に最小値を求めるＭＩＮ関数を使い、表計算処理を行う。また、個々のセルに、さまざまな書式を設定する方法を学ぶ。	関数の課題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第5回	橋爪博幸	相対参照と絶対参照というエクセルソフト独特の用語を理解する。そして、あるセルをかならず参照（絶対参照）するように設定し、順位をつける関数（RANK.EQ関数）に生かす技術を学ぶ。	関数の課題にチャレンジする。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第6回	橋爪博幸	エクセルを活用してグラフを作成する。棒グラフ、円グラフなどを描いてみる。グラフ画面の様々な要素についてプリントにまとめる。	各自でグラフを作成し、印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第7回	橋爪博幸	テキストの課題を見ながら、折れ線グラフや、レーダーチャートグラフ等をつくる。テキストにあるグラフ作成の実践問題にチャレンジする。	各自でグラフを作成し、印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第8回	橋爪博幸	エクセルソフトで作成したデータを印刷する方法を学ぶ。印刷したい範囲を指定し、A4用紙１枚におさまるよう工夫する方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第9回	橋爪博幸	エクセルソフトの実技問題にチャレンジする。	各自でエクセルの課題に取り組み、印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第10回	橋爪博幸	部員名簿等を作成し、データベースの基本的な形を理解する。データの並べ替え、漢字にひらがなを表示させる方法を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第11回	橋爪	「フィルタ」を設定する方法を学ぶ。データベースの実技問題にチャレンジ		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。

	博幸	する。		習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第12回	橋爪博幸	ふりがなを取り出したり、セル内のある文字だけを抜き出す関数を学ぶ。		予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第13回	橋爪博幸	エクセルの実技問題にチャレンジする。	課題に取り組み、印刷して提出する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第14回	橋爪博幸	エクセルの実技問題にチャレンジする。	課題を仕上げ、完成データをe-mailに添付して教員に送信する。	予習の時間90分、復習の時間90分。予習は事前にテキストを見ておく。 習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。
第15回	橋爪博幸	エクセルソフトをつかった一覧表やグラフ、データベース作成の演習を行う。＜アクティブラーニング＞実技問題にチャレンジし、完成したら印刷して提出する。	課題を仕上げ、完成データをe-mailに添付して教員に送信する。	復習の時間90分。習った技術を使い、復習はデータ作成課題を仕上げる。

教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』 実教出版 （コンピュータIと同じテキストである）

参考書

演習のなかで、必要なときに紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 提出された課題（50%）、実技試験（30%）と知識問題（20%）の点数をもとに評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

配布プリントや、作成データを印刷し提出する。こちらで確認後、返却し授業内で課題への回答例等を解説する。記入漏れや、データ作成の不備があるときは再提出をもとめる。

履修のポイント

休まず出席すること。演習は１５回しかありませんので、一度の欠席でも、一項目がすっかり抜けてしまいますので、休まないこと。また、課題はかならず提出すること。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第６研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C130

講義コード	30320001
講義名	家庭経営学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

生活経営の内容としては、家族、結婚、育児、少子高齢化、消費者問題、衣食住、地域とのつながりなど、私たちの身近な生活に関する事柄（問題）が含まれます。授業形態は、履修者が少人数と思われますので、対面授業を考えています。授業は、事前配布したプリント資料を使用してゼミ形式で行っていきます。履修者には、毎回報告をしてもらい、質疑応答を行いたいと思います。本講義は、私たちの身近な生活に関する問題を多角的に、また科学的に理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．私たちの生活を身近な問題からグローバルななテーマまで多角的に理解している、２．生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している、と関連しています。本講義を通じて、私たちの生活に身近ないろいろな事柄を考えていきます。

到達目標

私たちの身近な生活問題を多面的・科学的に理解することによって、問題をより深く考え、それに対処できる知識を修得することできます。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	生活経営とはオリエンテーション（授業内容、進め方、成績評価等）生活経営とは何かについて学びます。		予習90分：シラバスをよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	人口の変化日本の人口の長期的な変化について学び		予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

	ます。		
第3回	家族形態の変化 大家族制から小家族制への家族形態の変化について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	少子・高齢化（1） 少子化の現状について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	少子・高齢化（2） 少子化の問題点（出生率、結婚、育児等）について学びます。	少子化の問題点について話し合います。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	少子・高齢化（3） 高齢化の現状について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	少子・高齢化（4） 少子高齢化の経済的な問題点について学びます。	高齢化の経済的な問題点について話し合います。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	少子・高齢化（5） 前回に続き、高齢化の問題、特に社会保障制度の問題について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	豊かさの変遷 日本における所得格差について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	家計消費 家計消費の動向・現状について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	家計貯蓄 家計貯蓄の動向・現状について学びます。		予習90分：プリント資料から第12章をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	現代の貧困 貧困の現状とその課題について学びます。	日本における所得格差と貧困について話し合います。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	政府による政策効果 租税、社会保障の再分配効果について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	女性の教育と労働 女性教育と労働について学びます。	女性の社会進出について話し合います。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	私たちの生活全般について考える これまでの授業に関する総合的な確認を	これまでの授業に関する総合的なデスカッショ	予習90分：これまでのプリント資料全体を読み返し、重要点を確認しておくこと。復習90分：授業内容を整理し文章と

	行います。	ンを行います。	してまとめておくこと。

教科書
使用しません。プリント資料を事前に配布し、授業を進めていきます。
参考書
必要に応じて紹介します。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 レポート50%、平常点（授業での報告と質疑応答、取組みなど）50%
課題等に対する フィードバックの方法
質問等についてはできるだけ授業時間内に答えることにします。
履修のポイント
毎回の授業ポイントの整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に質問に応じます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C172

講義コード	30330001
講義名	住居学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	住宅部材のデザインや内装設計業務の経験に基づき、人々の「生活文化」と自然や社会の「環境調和」の関わりについて「住居／すまいづくり」の視点から解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 峰岸 康之	指定なし

授業の概要と教育目標

人が生活する上での基盤となる「住まい」を学ぶことは、「建築物としての室内」と「室内で行われる生活行為」の両面から考察していくことが必要です。
そして「住まい」を取り囲む「環境」との関係も見逃すことはできません。
日本国内やヨーロッパの気候風土と住居の事例を観ていきながら、そこでの生活文化を考察していきます。 多様な住まいかたの形を知ると共に、人間の持つ五感に対しての、住まいのつくりかたの工夫も探求していきます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活文化としての「住まいかた」、「住まいをとりまく環境」についての科学的な考察と理解を深め、快適で個々の生活スタイルに適した心地良い「住まいかた」や「住まいの演出」を実現していくための、知識と感性、考察の技術を修得すること。

到達目標

日本及び世界の地理的条件や気候風土から、古来よりの住居のつくり方についての理解を深め、現代の住まと比較し、その特徴や環境への対応、そして変化について理解を深め考察することが出来る。
室内で快適に生活するための、ハード面及びソフト面におけるすまいづくりの工夫を、人間の持つ五感を軸に考察し、心地良い住まいのづくりを実践していくための基本的な知識・技術の習得を目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
				予習として

第1回	峰岸康之	「生活文化を学ぶ」 住まいのはじまり／日本の気候風土と住宅のつくりかた		シラバス確認及通読90分復習として関連事項の調査研究90分
第2回	峰岸康之	「住まいの形」 古民家の間取り／現代住宅の間取り／日本各地の住居形態	提示課題のテーマに沿い、生活様式や気候風土による住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習としてシラバス確認及通読90分復習として関連事項の調査研究90分
第3回	峰岸康之	「くらしかたと住まい」 生活行為／生活動線／室空間の構成	提示課題のテーマに沿い、生活様式や気候風土による住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習としてシラバス確認及通読90分復習として関連事項の調査研究90分
第4回	峰岸康之	「社会生活と住まい」 どこに住み、どう生活するか	課題レポート１	予習としてシラバス確認及通読90分復習として関連事項の調査研究90分
第5回	峰岸康之	「五感とインテリア・視覚①」 光と色彩／ 色彩の基礎、心理効果・色彩調和	提出レポートの着眼や考察及び展開において「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	予習としてシラバス確認及通読90分復習として関連事項の調

				査研究90分
第6回	峰岸康之	「五感とインテリア・視覚②」 あかりの演出／照明計画の基本とアンビエントライティング		予習としてシラバス確認及通読90分復習として関連事項の調査研究90分
第7回	峰岸康之	「五感とインテリア・触覚」 素材と材質感／内装仕上げ材の種類や性能・多様なテクスチュア		予習としてシラバス確認及通読90分復習として関連事項の調査研究90分
第8回	峰岸康之	「五感とインテリア・聴覚」 音環境と室内環境／防音・遮音、快適な音環境への配慮		予習としてシラバス確認及通読90分復習として関連事項の調査研究90分
第9回	峰岸康之	「五感とインテリア・味覚」 食と住まい／食文化と住文化、食事空間と生活スタイル	課題レポート２	予習としてシラバス確認及通読90分復習として関連事項の調査研究90分
	峰	「五感とインテリア・嗅覚」 香りと空気環境／	提出レポートの着眼や考察及び展開において「ア	予習としてシラバス確認及通 90

第10回	岸康之	香りの文化、空気環境の整備	クティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	読　分 復習として 関連事項の調査研究90分
第11回	峰岸康之	「マルチメディアと生活」 ／情報化時代の住まい		予習としてシラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第12回	峰岸康之	「ヨーロッパの住居Ⅰ」 ／イギリス、アイルランド、北欧、フランス、スペイン	提示資料を基に、生活様式や気候風土による住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、 「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習としてシラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第13回	峰岸康之	「ヨーロッパの住居Ⅱ」 ／オランダ、ドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、ギリシャ	提示資料を基に、生活様式や気候風土による住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、 「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習としてシラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第14回	峰岸康之	「世界の様々な住居形態」 ／カッパドキア、トゥルリ、ヤオトン、ゲル、、仮設住宅	課題レポート３	予習としてシラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分

第15回	峰岸康之	「未来の私達の住まい」 総論／まとめ	提出レポートの着眼や考察及び展開において「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	予習としてシラバス確認及通読90分 復習として関連事項の調査研究90分

教科書

独自の講義資料を作成配布し、参考文献等を随時紹介していきます。

参考書

新しい住まい学 小宮洋一・片山勢津子 他 （井上書院）
ヨーロッパの家１．２．３．４（講談社）

成績評価の方法・基準

課題レポートの提出／課題１（２５％）、課題２（２０％）、課題３（４５％）より評価、
単位認定 ６０点以上 とします。

課題等に対する
フィードバックの方法

提示された課題テーマ及び自ら選定した課題テーマに対する調査や考察、着眼や展開に対する取り組みを、小論文型式のレポート作成という形で研鑽していきます。
課題の着眼において、手掛かりとなる情報の提示や、考察のプロセスや展開方法などを提示し、研究課題を解決していく能力の向上を図れるようフィードバックを行っていきます。

履修のポイント

日常生活の基本的な要素である『衣・食・住』生活科学全般に関わる内容で、生活文化にかかわる職業を志す人としての基本的な教養です。
講義内容を通して、身近な「住まい」の環境に、問題意識を持ち、その解決策や、改善案を探っていくことを心掛けましょう。

オフィス・アワー

非常勤）
前期 ： 水曜（2限デザイン科授業） １０：５０～１１：００ １号館 デザイン棟 １３１
＊個別に質問や相談がある場合は、授業前又は後に申し出てください。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C150

講義コード	30340001
講義名	育児学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

育児の目的は、心身ともに健康な子供を育てることにあるが、1980年ごろからとくに指摘されているのは、体の健康は順調であっても、心の健康に問題のある子供が増加している点である。現代社会においてどのような育児が望ましいかという視点を持ちながら、出生前育児、乳幼児の心身の発達発育・栄養・養護等について学ぶ。現代社会における育児支援の必要性を理解し、育児に関する知識・技術について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」をキーワードに生活を科学的に理解を深めることを目指し、「育児」「乳幼児の発育発達」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する育児に対応する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・育児の知識を習得する。（出生前育児，乳幼児の心身の発育・発達，乳幼児の栄養，子供の主な病気、けが、事故について）
・自分の成長の記録を作成して育児のもつ意義やあり方について学び、自身の育児に活かす。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	発達と保育のつながり 発達障害とその保育における対応		予習90分：育児に関する新聞記事を収集する。復習90分：配布資料を見直す。

第2回	橋本まさ子	発達の基本的な考え方 初期発達（女性の生理と妊娠/胎児の発育と生理/胎児に及ぼす諸因子）		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	橋本まさ子	胎児期、乳児期の特徴 ０歳から２歳までの発育と発達I（自分の成長記録を作成 ） ３歳から５歳までの発育と発達II（自分の成長記録を作成 ）	履修者に母子手帳を用いて乳幼児期の発育・発達について月齢毎に意見交換をさせ、乳幼児期の特徴について理解するきっかけを作る。また資料を用いてについて解説して理解を深め、再度学生自身の乳幼児期の発育・発達について意見交換する。	予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	橋本まさ子	子供の成長と環境/現代の社会文化環境/家庭生活環境 ビデオ使用		予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	橋本まさ子	幼児期の特徴 児童期の特徴 ビデオ使用		予習90分：配布した文献及び資料を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	橋本まさ子	青年期の特徴 母乳ミルクの与え方, 離乳食について		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	橋本まさ子	成人期・老年期の発達０歳から２歳までの心身の健康と食事		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	宮本雄基	子どもの健康と食生活の意義		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料・ノートを見直す。
第9回	宮本雄	妊娠期と授乳期の食生活		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料・ノー

	基			トを見直す。
第10回	宮本雄基	乳児期の食生活		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料・ノートを見直す。
第11回	宮本雄基	幼児期の食生活		予習90分：教科書3章を読む。 復習90分：配布資料・ノートを見直す。
第12回	宮本雄基	学童期・思春期の発育・発達と食生活		予習90分：教科書を読む。 復習90分：配布資料・ノートを見直す。
第13回	宮本雄基	調理実習に向けた献立作成	幼児の特徴を理解した上で、献立作成を行う。	予習90分：配布資料や献立の参考となる資料を読み情報を集める。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	宮本雄基	幼児期昼食(お弁当)の調理実習①	幼児のお弁当を想定した調理実習を行う。履修者が互いに評価を行う。	予習90分：文献及び資料を読み、実習内容を確認する。 復習90分：実習した内容を記録する。
第15回	宮本雄基	幼児期昼食(お弁当)の調理実習②	幼児のお弁当を想定した調理実習を行う。履修者が互いに評価を行う。	予習90分：文献及び資料を読み、実習内容を確認する。 復習90分：実習した内容を記録する。

教科書

発達の理解と保育の課題 岸井勇雄 同文書院

参考書

育つ・育てる（建帛社）
子ども学概論(丸善プラネット）
最新版らくらくあんしん育児(Gakken)
子どもの食と栄養（羊土社）
子どもの理解と援助（光生館）

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 課題I50％ 課題II50％

課題等に対する フィードバックの方法
授業の中での課題を課します。採点後ご返却しますので、次回の課題の参考にしてください。
履修のポイント
乳幼児に興味を持ち授業に積極的に参加することが望ましい。
オフィス・アワー
木曜日、12：30～13：20(昼休み)、9号館2階 第5研究室（橋本） ※講義授業前後にも、適宜受けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C173

講義コード	30350001
講義名	被服学及び実習
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教員	久保田 恵美子	指定なし

授業の概要と教育目標

被服の役割や機能、歴史について概説する。被服材料の大部分をである繊維製品の種類、構造、性能に関する基礎的な事項、衣服の清潔な管理、衣服の選択、新しい素材の特徴について説明し、快適で着心地の良い被服の着用の条件、着用した被服の洗濯、管理などについて解説する。実習では、縫製用具や裁縫ミシンの使い方、手縫いの種類とその方法を学ぶ

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学日生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、基礎の1つとなる衣生活について学び生活を取り巻く社会環境や文化について科学的理解できることを学ぶ。ここでは、被服構成の概略について学習し、小学校、中学校の家庭科被服分野の学習に必要とされる基本的技術の習得をめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・技術を身につけられるよう、確実に自分の技術にすることを目標とする。二年次の教育実習には自信を持って望むものとする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋本まさ子 久保田恵美子	授業の概要説明、授業と資格との関係等		復習60分:配布資料を見直す。
第2回	橋本まさ子	被服のはじまりと変遷、着用の目的と機能、被服の起源と形		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。

第3回	橋本まさ子	身の回りの衣服と素材１ 繊維の種類、構造と性能		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である
第4回	橋本まさ子	身の回りの衣服と素材2 糸の種類と性質、構造と性質		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第5回	橋本まさ子	身の回りの衣服と素材3 布地の種類、構造と性質		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第6回	橋本まさ子	被服の清潔な管理 洗濯、染み抜き、保管管理	日常の衣類の扱い方についてディスカッションする	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第7回	橋本まさ子	環境に配慮した衣生活		予習60分前回の授業を見直す、復習:基礎縫いを練習しておくために90分以上必要である。
第8回	橋本まさ子	ユニバーサルデザイン、省エネ他		予習60分前回の授業を見直す、復習:基礎縫いを練習しておくために90分以上必要である。
第9回	久保田恵美子	意服の選択色彩とファッション		予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために90分以上必要である。
第10回	久保田恵美子	体系に合わせた衣服の購入		予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第11回	久保田恵美子	基礎縫いI 縫製用具の種類と使い方	縫い方の基本について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第12回	久保田恵美子	基礎縫いII	縫い方の基本について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第13回	久保田恵美子	基礎技術I	縫い方の応用について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第14回	久保田恵美子	基礎技術II	縫い方の応用について実際に作業する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第15回	久保田恵美子	縫製技術I	ミシンを用いて作品を制作する。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
	久保田		ミシンを用いて作品を	予習60分前回の授業を見直

第16回	恵美子	縫製技術II	制作する。	す、復習:60 分配布資料を見直すために必要である。
第17回	久保田恵美子	縫製技術III	ミシンを用いて作品を制作する。	予習60分前回の授業を見直す、復習:60分配布資料を見直す必要である。
第18回	久保田恵美子	技術・家庭（家庭分野）教材研究（被服領域）I	教育実習に向けての家庭科「被服分野」について具体的に学習する	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第19回	久保田恵美子	技術・家庭（家庭分野）教材研究（被服領域）II	教育実習に向けての家庭科「被服分野」について具体的に学習する	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第20回	久保田恵美子	布を用いたものの製作I	教育実習に向けての家庭科「被服分野」の作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習のために90分以上必要である。
第21回	久保田恵美子	布を用いたものの製作II	教育実習に向けての家庭科「被服分野」の作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために120分以上必要である。
第22回	久保田恵美子	布を用いたものの製作III	教育実習に向けての家庭科「被服分野」の作品の制作をする。	予習60分前回の授業を見直す、復習:配布資料を見直すために120分以上必要である。
第23回	久保田恵美子	実習のまとめ		予習60分前回の授業を見直すために必要である。

教科書

衣生活概論 井上書院
随時資料の配布

参考書

技術・家庭 上・下 開隆出版
新被服材料学 建帛社
衣生活の科学 建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上／ 実技課題（作品の技術力50%、完成度等50%・提出期限厳守等々）
※本授業は作品提出等により成績評価を行い、定期試験は実施しない

課題等に対する フィードバックの方法

提出したものは採点をして返却する。提出期限は守る。作品は教育実習の試料として使用する

履修のポイント

講義及び実技ですので、特段の理由が無い限り休まず出席して下さい。授業の復習は大事です。

オフィス・アワー

月曜日（12：30〜13：20お昼休み）久保田恵美子、 月曜日（12：30〜13：20お昼休み）9号館2階 第5研究室 橋本まさ子

科目区分

専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C113

講義コード	30360001
講義名	解剖学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 煙山 健仁	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養面から健康の増進と維持のかかわりを学習するには、人体の解剖学（構造）を理解する必要があり、ヒトの生命活動である栄養摂取から排泄までを学習する。栄養学の基礎知識である「食べ物の消化・吸収、代謝、排泄」という一連の流れを、どの器官系で行っているか、また、生体の恒常性を維持している器官系について学習する。
本科目では、食・栄養・健康という幅広い分野で科学的根拠に基づく栄養の実践活動ができるようになるため、人体のしくみを説明できるようにする。消化器系、呼吸系、腎・泌尿器系、循環器系、生殖器及び感覚器の構造と機能について、説明できることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーでは、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について理解していることが求められており、解剖学の理解を通して、その目標達成に必要な知識を養う。

到達目標

栄養学に関わる人体の構造の基礎的な知識を身につける。人体の構成を器官・器官系レベルで体系的に理解でき、構造や機能を説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	解剖学とは、講義の進め方	予習90分：図書やインターネットで解剖学と生理学の違いについて調べる。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第2回	全身の骨格・筋肉、骨・筋肉の構造	予習90分：教科書1章・体を動かす、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第3回	【消化器系１】口腔・咽頭・食道の構造、嚥下	予習90分：教科書2章・食べる、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。

第4回	【消化器系２】胃・小腸・大腸の構造、消化と吸収のしくみ	予習90分：教科書2章・食べる、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第5回	【消化器系３】膵・肝・胆の構造	予習90分：教科書2章・食べる、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第6回	鼻腔・咽頭・喉頭・気管・肺の構造	予習90分：教科書3章・エネルギーと情報のネットワーク、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第7回	全身の血管、心臓の構造	予習90分：教科書3章・エネルギーと情報のネットワーク、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第8回	血液の成分とはたらき	予習90分：教科書3章・エネルギーと情報のネットワーク、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第9回	腎臓・尿管・膀胱・尿道の構造、尿産生のしくみ	予習90分：教科書3章・エネルギーと情報のネットワーク、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第10回	内分泌器官とホルモン	予習90分：教科書3章・エネルギーと情報のネットワーク、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第11回	視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚	予習90分：教科書4章・感じるを考える、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第12回	中枢・末梢神経系、脳・脊髄のしくみ	予習90分：教科書4章・感じるを考える、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第13回	運動神経、知覚神経、自律神経系	予習90分：教科書4章・感じるを考える、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第14回	皮膚、免疫	予習90分：教科書5章・体を守る、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。
第15回	男性生殖器、女性生殖器	予習90分：教科書6章・命、を読む。復習90分：配布資料を見直し、疑問点をまとめる。疑問点が解決できない場合は、早めに質問に来る。

教科書

講談社の動く図鑑 move 人体のふしぎ[新訂版]、島田達生 監、講談社

参考書

ぜんぶわかる人体解剖図、坂井建雄・橋本尚詞 著、成実堂出版
人体の構造と機能（１）解剖生理学、坂井建雄・岡田隆夫 編集、医学書院

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
授業中の小テストやレポート（10%）、期末テスト（90%）で評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で小テストやレポート課題を課すことがある。授業内での小テストやレポートは、実施した次の回の授業で内容を解説する。

履修のポイント
自分だけの学習では正しい知識の理解が難しいので、講義に出席することが大切です。 講義では話し（ストーリー）を聞くことに集中して下さい。
オフィス・アワー
月曜日～水曜日、金曜日（09：20～18：10）、10号館病理・解剖実習研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C214

講義コード	30370001
講義名	生理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	一般病院と大学病院で内科医として40年以上にわたって診療に携わった経験を活かして、疾病の成り立ちと臨床背景について学生とインターアクティブに講義を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山科 章	指定なし

授業の概要と教育目標

人間の生存と活動を支えるために必要な栄養を科学的根拠に基づいて提供する栄養士にとって、人体の構造や働きを知ることは極めて重要である。そこで解剖学で学んだ知識をもとに、人体の正常な働きをその構造単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルに至るまで各臓器を体系的に関連付け、実際の現場で役立つ知識と考え方が身につく講義を行う。
覚えることではなく、考え、理解することを基本とする。そのためには、事前に課題をみつけ、概要をとらえ、講義中に問題を解決する方法を身につけ、講義後に自分自身の言葉で説明できることをゴールとする。
生理学に重要なキーワードも含めて解説するが、自分で設定した問題解決型の学習の場とする。アクティブラーニングとするため、グループ分けして、あらかじめグループ毎に課題を設定して発表（プレゼンテーション）し、グループの発表後に質疑応答を行い、理解を深めるようにする。アクティブラーニング）を行う。講義中も頻回に質問してインターアクティブに行うので、積極的に回答し、理解の向上に役立ててほしい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科の目標である「生活を身近な問題から、グローバルなテーマに至るまで幅広く研究し、栄養士として実践を重視し健康・栄養の分野で活躍できる人材」をめざして、そのディプローマポリシーとしての「人間のからだ、食品、栄養に関する基本的なことがら、およびその相互作用を理解して、健康・栄養に関わる現場での実践に繋げられる」ようにする。具体的には生体の生理作用を遺伝子、分子、細胞、組織、器官レベルで理解し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようにする。
人体の生命・生理現象がどのようなメカニズムで行われているかを学び、これを習得して、栄養士として医学の基礎知識を身につける。各章で「臨床への入門」として、疾患の概要を理解することにより、逆に生理機能をより深く把握できるようにする。患者さんの栄養計画を作成し、説明するために必要な疾患の概要を把握する。

到達目標

１．人体を構成する細胞、組織、器官のはたらきを理解する。
２．器官系を構成している各臓器全体のはたらきを理解する。
３．生命現象とはいかなるものかを理解する。

以上の内容を自分の言葉で分かりやすく説明できるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	山科章	生命の源と栄養、人体の構造・機能と栄養、人体の器官系の役割と栄養を学ぶ 初回は以上の項目を概説し、重要な点を強調するとともに質疑応答を行う	初回なので、今後行うアクティブラーニングについて説明をする。講義も学生との間でインターアクティブに行う。質問に対し、集中力をもって積極的に対応する。	予習90分。教科書「はじめに」の章を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第2回	山科章	細胞・組織の構成とはたらき、細胞・細胞内小器官・生体膜・核・人体組織・器官の構造と機能	課題： １．細胞内小器官の構造とそれぞれの役割について説明する。 ２．細胞質内でタンパクが合成されるメカニズムを説明する。 ３．生体膜の構造の特徴を説明する。 ４．生体膜の物質輸送の種類と仕組みを説明する。 ５．細胞分裂の仕組みの概要を説明する。	予習90分。教科書「第1章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第3回	山科章	消化器系の構成とはたらき、咀嚼・嚥下・消化管運動の仕組み	課題： １．咀嚼筋の種類とどのような動きをするか。 ２．嚥下の際になぜ食物が気道（気管）に入らないのか？ ３．消化管運動にはどのような種類があるか？ ４．食事をすると排便したくなるのはなぜか？ ５．便意があっても失禁しない機序は何か。	予習90分。教科書「第２章前半」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第4回	山科章	消化・吸収、糞便形成と排便の仕組み	課題： １．1日に分泌される唾液の量とその役割を説明せよ？ ２．1日に分泌される胃液の量と、それを構成する主な成分とそれぞれの役割を説明せよ？ ３．1日に分泌される胆汁の量と、それを構成する主な成分とそれぞれの役割を説明せよ？ ４．1日に分泌される膵液の量と、その役割を説明せよ？ ５．1日に消化管で吸収される	予習90分。教科書「第２章後半」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。

			水分の量はどのくらいで主にどこで行われるか。	
第5回	山科章	血液・造血器・リンパ系の構成とはたらき、骨髄各血球の分化と成熟、赤血球・ヘモグロビンのはたらき 白血球・血小板、血漿タンパク質、止血機能・凝固・線溶系の作用、臨床への応用	課題： １．血球の分類とそれぞれの主な機能はなにか？ ３．各血球の分化と成熟を説明せよ ４．血液凝固と止血にはどのようなタンパクが担っているか？ ５．ヘモグロビン合成とその分解・代謝はどのように行われるか？	予習90分。教科書「第３章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。。
第6回	山科章	循環器系の構成と機能、心臓・血管の機能、心電図、心臓周期 血管の構成とはたらき、血圧、循環系、循環の調節	課題： １．刺激伝導系を構成するものには何があり、どのような役割があるか。 ２．心電図の波形は心臓の電気現象の何に対応するか？ ２．心臓が収縮・拡張する心周期について、心電図波形、血液の流れ、心臓弁の動きと合わせて説明する。 ３．体循環と肺循環の違いを説明する ４．動脈壁の構造と血圧調整との関連を説明する？ ５．心拍出量（心機能）を規定するものは何か？	予習90分。教科書「第４章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第7回	山科章	呼吸とは、気道、肺、胸郭と呼吸運動・ガス交換及び血液ガス、呼吸機能の指標、呼吸の調節	課題： １．呼吸に必要な筋肉は何でどこにあり、どのよう役割をしているか？ ２．気管は肺胞まで何回分岐し、それぞれの名称について説明せよ？ ３．呼吸機能検査（肺活量など）で検査知る主な指標とその意味を説明する。 ４．外呼吸（肺胞でのガス交換）について説明する。 ５．内呼吸（組織でのガス交換）について説明する。	予習90分。教科書「第５章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第8回	山科章	腎尿路系の構成、腎臓の構成とはたらき、体液とその異常、水・電解質の調節におけるホルモンと腎臓の役割、腎臓から分泌されるホルモン	課題： １．腎臓の局在と関係する動静脈、尿路について説明する。 ２．腎臓の主な機能について説明する。 ３．腎小体（糸球体とボウマン嚢）と尿細管の機能分担はどのように分かれているか？ ４．生体を構成する水分の分布について説明する。 ５．浸透圧とは何か、また、浸透圧の変動に対応して体液	予習90分。教科書「第６章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。

			調節するホルモンは何か説明する？	
第9回	山科章	生殖器系の構成とはたらき、男性・女性生殖器の発育課程・形態・機能、女性の性周期、排卵・妊娠と分娩 か？	課題： １．女性生殖器の構成と機能について説明する。 ２．男性生殖器の構成と機能について説明する。 ３．女性の性周期におけるホルモンの変化と子宮内膜の変化について説明する？ ４．受精から妊娠の過程について説明する。 ５．授乳に関わるホルモンのはたらきについて説明する。	予習90分。教科書「第７章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第10回	山科章	骨格系の構成とはたらき、骨の成長、骨形成・骨吸収 筋肉系の構成と機能、赤筋と白筋	課題： １．骨の機能について説明する。 ２．骨の成長と代謝、骨量について説明する。 ３．骨格筋の構造と収縮の仕組みについて説明する。 ４．筋収縮のエネルギーについて説明する。 ５．赤筋と白筋の違いと役割、代謝の違いについて説明する。	予習90分。教科書「第8､9章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第11回	山科章	内分泌系の構成と機能、視床下部・下垂体、甲状腺、副腎、膵島とホルモン 動態、カルシウム代謝調節ホルモン、性腺ホルモン	課題： １．ホルモンのフィードバックについて説明する？ ２．視床下部―下垂体の連携および働きについて説明する。 ３．副腎から分泌されるホルモンについてその種類と役割を説明する。 ４．甲状腺の働きについて説明する。 ５．Caの調節について説明できる	予習90分。教科書「第10章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第12回	山科章	神経系の構成、中枢神経系、末梢神経系、脳の血管支配、 ニューロンの形態と機能	課題： １．中枢神経系を構成するものおよびその主な機能を説明する。 ２．髄膜と脳室とくも膜下腔、脳脊髄液産生と流れについて説明できる。 ３．大脳皮質の機能局在について説明する。 ４．脳神経について説明する。 ５．ニューロンと神経の伝達について説明する。	予習90分。教科書「第11章前半」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
			課題： １．運動神経について脳から末梢までの経路について説明する。	予習90分。教科書「第11章後半」を読みプレテストに

第13回	山科章	知覚神経・運動神経・自律神経のはたらき	２．知覚神経について末梢から脳までの経路を説明する。 ３．脊髄神経とデルマトームについて説明する。 ４．自律神経の特徴について説明する。 ５．交感神経・副交感神経の分布と役割の違いを説明する？	回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第14回	山科章	感覚器系の構成と機能、味覚，嗅覚、視覚、聴覚、平衡覚、摂食の調節	課題： １．味覚の５大要素とそのリセプターを介しての知覚について説明する。 ２．嗅覚の受容器と伝導路について説明する。 ３．視覚の受容器、伝導路と感知する脳の部位について説明する。 ４．摂食・食欲を調整する仕組みについて説明する。 ５．美味しいものをみて唾液や胃液が分泌される仕組みを説明する。	予習90分。教科書「第12章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。
第15回	山科章	免疫の構成と機能、非特異的防御機構、生体防御機構における免疫系の特徴、細胞免疫、体液性免疫、免疫的自己の確立と破綻 皮膚組織、体温調節	課題： １．免疫系の臓器と細胞について説明する。 ２．自然免疫と獲得免疫の違いを説明する。 ３．体液性免疫の仕組みについて説明する。 ４．細胞性免疫の仕組みについて説明する。 ５．食物アレルギーの発症メカニズムは？	予習90分。教科書「第13，14章」を読みプレテストに回答し、講義の予習をする。 復習90分。教科書、ハンドアウト、ノートを読み直し、ポストテストに回答し、講義の復習をする。

教科書

栄養科学イラストレイテッドシリーズ「解剖生理学」人体の構造と機能 第3版 志村二三夫・岡純・山田和彦編、羊土社

参考書

医学系の生理学教科書及び臨床系臓器別の教科書など
講義の際に、新しい話題を含めて、適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上。
筆記試験 80%、プレテスト・ポストテストの成績(全15回)20%。
加えて、授業中の態度も評価する。
プレテスト・ポストテストの回答が80%未満の場合は期末試験の受験資格は与えない。

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回の講義前に、教科書を調べながらプレテストに回答し、講義に準備する。このことによって、疾患の理解、基礎知識の習得を促進する。
講義終了後、ポストテストを受け、講義の内容を見直し、理解を深める。
次回の講義開始前に、プレテスト・ポストテストの結果を参考に前回講義の復習を行う。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、試験対策にもつながる。範囲が広く、また理解が難しい点も多いので、事前に教科書を読み込み、プレテストに回答したうえで、積極的に授業に参加すること。また、授業の後にも、ポストテストに回答しながら、疑問を持った個所を自分で調べるのも効果的である。
一度の読み、聞きでは理解できなくても、繰り返すことで理解できることが多々あるので、病気の成り立ちのメカニズムにこだわって、習得すること。

オフィス・アワー

チャットでの質疑応答を原則とする。必要に応じて、連絡して、口頭で説明する。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C233

講義コード	30380001
講義名	環境生理学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生体は、常に外部環境から加わる刺激に対して、自己の内部環境を一定に保とうとする機構を備え、適応している。環境生理学では、外部からの刺激をストレッサーとし、ストレッサーが加わることにより、内部環境（生体の恒常性）が歪んだ状態になったことをストレスとしている。本講義では、ストレッサーの内容とストレスの状態とこれに対応する生体の防衛反応を学び、さらに個々の外部環境下（高温、低温、高圧、低圧など）における、適応について学習する。また、各環境下における栄養についても触れる。本講義はヒトのホメオスタシスの概念と特殊環境下における防衛反応を理解することを目標にする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

環境生理学は、卒業認定方針の「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解していること」に関連し、基本的生活活動や環境変化に対する人体の適応について学び、また、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解していること。

到達目標

「環境と栄養」分野の特に生理学的内容を理解すること。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ストレスI :ストレスに関係する生体の組織、ホルモン、神経の基礎を学び、ストレッサーについて理解する。プリント・レジメを配布する。		予習：解剖生理学の脳および生化学のホルモンの分野を確認しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
	ストレスII :セリエのストレス学説と汎	ホルモンおよび神経系統について講	予習：レジメｐ2～6を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を

第2回	適応症候群、適応などについて学ぶ。	義中に質問し、その回答に対してコメントをする。	講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第3回	気温（温度） :高温および低温環境下における生体の防衛反応を学ぶ。	体温の調節について講義中に質問し、その回答に対してコメントをする。	予習：レジメｐ7～10を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第4回	気圧（高圧、低圧） :高圧および低圧に生体が曝された場合の反応を学ぶ。		予習：レジメｐ11～12を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第5回	騒音（音）・振動 :騒音と振動に対する生体の反応を学ぶ。		予習：レジメｐ13～15を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第6回	電磁場・電磁波 ：太陽光や高圧電線下から発生する電磁波について学び、これが生体に及ぼす影響について学ぶ。		予習：レジメｐ15～17を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第7回	加速度・無重力・その他 ：乗り物（車、船、飛行機）などGが変化する状態や宇宙空間、その他特殊な環境下における生体反応について学ぶ。		予習：レジメｐ19～20を読み理解しておくこと。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第8回	まとめ	今まで学修してきた内容について講義中に質問し、その回答に対してコメントをする。	予習復習：レジメｐ1～20を読み理解しておくこと。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。

教科書

使用しない（レジメを配布します）

参考書

応用栄養学 化学同人（応用栄養学の教科書） および 『ﾈｵｴｽｶ応用栄養学』 同文書院

成績評価の方法・基準

期末試験100％、60点以上を合格とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

実施しない

履修のポイント

生理生化学的視点の講義内容を含むので解剖生理学の教科書が参考となる。

オフィス・アワー

授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

科目区分

専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C275

講義コード	30390001
講義名	生化学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生体を構成する成分・分子理解しするために、糖、脂質、タンパク質についてその化学の基礎を学びさらに代謝・排泄を学ぶ。また、代謝などを調節する内分泌や遺伝子とその働きも学ぶ。人体の構造と機能、特に各栄養素の働きを生化学的に理解することを目標としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生化学は、卒業認定・学位授与認定方針の「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解している」に関連して、人体の構造と機能の1分野を学ぶ。

到達目標

生体を構成する分子の構造・機能を理解する。また、各分子の代謝を理解する。さらに遺伝子・遺伝情報発現に関することを理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	細胞の構造と性質:細胞の構造と機能についてその基礎を学ぶ。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：高校生物または生物基礎の左記分野読み理解しておくこと。教科書ｐ6～12を読み理解する 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。

第2回	生体成分の化学的基礎:生体成分を構成する化合物の基礎を学ぶ。特に有機化学について、その基礎から復習しながら生体成分への理解を深める。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書ｐ1～６を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第3回	糖の構造と性質:糖質の分類と構造、単糖・少糖・多糖の構造と性質について学ぶ。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書ｐ13～19を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第4回	脂質の構造と性質:脂肪、リン脂質、ステロイドについてその種類、作用について学ぶ。 また、コレステロールリポ蛋白質の作用と生体に及ぼす影響を学ぶ プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書ｐ19～26を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第5回	蛋白質の構造と性質:アミノ酸およびペプチドの構造と性質について理解し、さらに消プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書ｐ26～34を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第6回	ヌクレオチドと核酸:プリン・ピリジミン塩基、ヌクレオシド、ヌクレオチド、ＤＮＡ、ＲＮＡについて学ぶ。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書ｐ34～41を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第7回	生体機能成分（酵素）:酵素の基質特異性、活性、種類等について学ぶ	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書ｐ42～49を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
			予習：教科書

第8回	生体機能成分（ホルモンI）;ホルモンの定義、種類、作用機序について学ぶ	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	ｐ49～59を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第9回	蛋白質の代謝 生体機能成分（ホルモンII）:ホルモンの定義、種類、作用機序について学ぶ	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。ホルモンの作用についての小テストを行い、その解答について、質疑応答する。	予習：教科書ｐ49～59を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第10回	生体機能成分（ビタミンの構造と性質（１））:脂溶性ビタミンの種類と作用について理解する。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：基礎栄養学Iビタミンの分野および教科書ｐ59～63を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第11回	生体機能成分（ビタミンの構造と性質（２））:水溶性ビタミンの種類と作用について理解する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：基礎栄養学Iビタミンの分野および教科書ｐ64～69を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第12回	糖代謝:グリコーゲンおよびグルコース代謝（解糖・TCAサイクル）、糖新生などについて学ぶ。主要無機化合物の生理作用、特にカルシウムの生理作用と欠乏症について述べる。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書ｐ118～119を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第13回	脂質代謝:脂質の体内動態（リポタンパク質など）について学ぶ。 特に、コレステロール代謝について考察する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。	予習：教科書ｐ107～123を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学

			習を 時間以上行うこと。
第14回	アミノ酸の代謝:たんぱく質の消化吸収について学ぶ。アミノ基転移反応、尿素回路等を理解する。特殊なアミノ酸の代謝について考察する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。糖・脂質・たんぱく質の代謝についての小テストを行い、その解答について、質疑応答する。	予習：教科書ｐ124～140を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。
第15回	遺伝子発現とその制御:セントラルドグマ、特に、たんぱく質合成について学ぶ。プリントを配布する。	左記の内容について、学生に発問し、学生は回答する。1～14回分の講義ノートを提示する。	予習：教科書ｐ164～176を読み理解する。 復習：左記の内容の講義ノートを作成する。予習復習の自己学習を4時間以上行うこと。

教科書
『Ｎブックス三訂生化学』建帛社ISBN: 978-4-7679-0528-0
参考書
『Ｎブックス基礎栄養学』 林 淳三ら 建帛社など基礎栄養学の書は参考になる。
成績評価の方法・基準
60点以上で合格とする。定期試験91% 講義ノート9%
課題等に対する フィードバックの方法
事前の学習課題を行い提出すること。また、授業終了後、講義ノートを作成すること。ノートの評価点を記して返却する。
履修のポイント
化学の知識を必要とするので化学（特に有機化学）を復習しておくことが望ましい。
オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C234

講義コード	30400001
講義名	生理生化学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養素（糖質、蛋白質等）の基本的な性質を実験により確認し、さらに血液、尿、臓器の主要成分や消化に関する酵素活性を測定する。本実験では栄養素の機能と生理学的意義を理解することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生理生化学実験は、卒業認定の方針の「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解している」に関連している。特に、生化学、生理学、基礎栄養学で学んだ内容を実験にて確認し理解を深めることが求められている。

到達目標

実験を通じて、栄養アセスメントにおける「臨床検査知識技術」の能力を習得すること。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	糖の定性試験 :糖の呈色反応を利用して、未知試料が何であるかを同定する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第2回	蛋白質およびアミノ酸の定性試験 :アミノ酸および蛋白質の呈色反応を利用して、未知試料が何であるかを同定する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。

第3回	ビタミンAの定性試験:脂溶性ビタミンAの定性試験を行い、肝臓試料のビタミンAの存在を確認する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第4回	ビタミンB2の定性試験 ：水溶性ビタミンB2の定性試験を行い、肝臓料のビタミンB2の存在を確認する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第5回	尿中成分I 正常成分：尿中の尿素、クレアチニン、インジカン等正常成分の検出をおこない、それらの生理学的意義を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第6回	尿中成分II 異常成分:尿中の蛋白質、糖、アセトン体等異常成分の検出をおこない、それらの生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第7回	血漿蛋白質の定量 ：血漿蛋白質を測定し、その生理学的意義と栄養状態の判定を行う	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第8回	血漿コレステロールの定量 ：血漿コレステロールを測定して、その生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第9回	血糖の定量 ：血糖を測定し、疾病、特に糖尿病との関係を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第10回	血漿カルシウムの定量 ：血漿Caを測定し、カルシウムの生理学的意義を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己

		めて質疑応答を行う。	学習を1時間以上行うこと。
第11回	膵臓プロテアーゼ活性 ：膵臓トリプシン活性を測定し、蛋白質の消化を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第12回	膵臓リパーゼ活性 ：膵臓リパーゼ活性を測定し、脂肪の消化を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第13回	唾液アミラーゼ活性 ：各自の唾液アミラーゼ活性を測定し、デンプンの消化を学ぶ。新型コロナウイルス感染症の状況によって、膵臓アミラーゼ活性測定へ変更あり。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第14回	腸管マルターゼ活性 ：マルターゼ活性を測定し、糖の膜消化を学ぶ。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。
第15回	栄養アセスメント ：モデルの身体計測や各血液検査データを読み栄養評価の実践を行う。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておくこと。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておくこと。予習復習の自己学習を1時間以上行うこと。

教科書

使用しない（プリントを配布する）。

参考書

栄養学領域からみた生理生化学実験 五島孜郎 編 建帛社

成績評価の方法・基準

総合点の内60点以上を合格とする。学期末試験（ペーパー試験）７５％。、実験ノートの評価点１５％、実験への参加度（サンプル提供等）１０％。

課題等に対するフィードバックの方法

実験終了後レポートを各単元ごとに作成し、これを綴り実験ノートを作成すること。実験ノートは第8回と第15回の実験終了時に提出し、後日評価点を記入して返却する。

履修のポイント

実験操作のみでなく各測定成分の栄養・生理学的意義をよく理解すること。白衣着用のこと。電

卓等持参のこと。カメラを持参すると便利である（記録用）。
オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C276

講義コード	30410001
講義名	食品加工学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

加工食品なしでは食生活が成り立たないほど多種多様な加工食品があり、加工技術も高度で複雑になっている。食品の品質や表示に対する社会制度も刻々と変化し、それに対する消費者の関心も高まっている。このような状況で、食品加工、食品の保存と包装技術、ならびに品質表示に対して正しい知識を身につけることは非常に大切である。本授業では、種々の加工食品の製造原理、製造工程、食品保存・包装技術を学び、また、加工による食品の成分や物性の変化を学び、食品加工の理論と実際についての知識を学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として「食品」「栄養」に関して基本的な事柄を理解し、社会の貢献できる食の専門家として これから社会が求めている栄養士の資格を取得することを目的にする。

到達目標

食品の加工方法および加工品について理解する。食品の特性について理解する。日常食品の取扱い方について理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	オリエンテーション（授業の概要説明、成績評価） 食品加工・貯蔵のはじまり 食品の特性と食品加工、食生活と加工食品の分野の内容についての授業内容。		予習60分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第2回	橋本ま	食品の変化・変質 水分活性、酵素反応、食品成分の反応、低温障害 食品添加物、遺伝子組み換え、加工技		予習90分、教科書を読んでおく。復習

	さ子	術、規格・基準と食品表示基準、ＨＡＣＣＰについての授業内容。 食品表示については、実際の加工食品の表示を提示して意見交換を行う。		に120分以上は必要です。
第3回	橋本まさ子	食品の加工および操作と原理、技術の分野では、工程別による方法論を学習する授業内容。	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第4回	橋本まさ子	加工学の種類における方法、加工原理	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習および確認テストに向けて120分以上は必要です。
第5回	橋本まさ子	食品の調理・加工に伴う食品成分の変化 生産条件と食品成分の違いについて、地域、季節、栽培条件による違いについての授業内容。 確認テスト1回目	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、確認問題の整理に120分以上かけてください。
第6回	橋本まさ子	包装、加工食品の表示、容器包装とリサイクル分野の授業内容。	確認テストを返却し、解答について情報交換する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第7回	橋本まさ子	穀類の加工方法および加工品 雑穀・豆類の加工方法と加工品	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第8回	橋本まさ子	穀類、いも類および豆類（大豆、小豆）の加工方法および加工品についての授業内容。	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第9回	橋本まさ子	野菜･果物・きのこの加工方法および加工品の種類と成分についての授業内容。	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習および確認問題に向けて120分以上は必要です。
第10回	橋本まさ子	食肉の加工方法および加工品の種類と成分についての授業内容	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、確認問題返却後に問題の整理に120分以上かけてください。
第11回	橋本まさ子	乳製品の加工方法および加工品、卵類の種類と成分についての授業内容。	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第12回	橋本ま	魚介類の加工方法および加工品の種類	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確	予習90分、教科書を読んでおく。復習

	さ子	と成分についての授業内容。	認問題を実施する。	に120分以上は必要です。
第13回	橋本まさ子	味噌、醤油、塩、香辛料、甘味料の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。 植物油脂、動物油脂、加工油脂の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習に120分以上は必要です。
第14回	橋本まさ子	嗜好飲料（非アルコール飲料およびアルコール飲料）の加工方法とそれにより種類と成分についての授業内容。 アルコール飲料を挙げさせ、どのようなものが市場に出回っているのか意見交換をする。	前回の授業内容の確認として、授業の初めに確認問題を実施する。	予習90分、教科書を読んでおく。復習および確認テストに向けて120分以上は必要です。
第15回	橋本まさ子	新技術による加工法、流通・貯蔵等による加工法、形状による加工法,用途別加工法についての授業内容。 まとめ		確認問題の整理に180分以上かけてください。本試験に向けてさらに復習は必要です。

教科書

栄養科学シリーズ 食品加工・保蔵学 講談社

参考書

食物学II（公社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社
レクチャー食品加工学 黒川守浩編 建帛社、食品加工・保蔵学 海老原清編 講談社
食品加工と実習・実験 矢口亜樹子 光生館

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上（授業の初めに確認問題を行い、提出し次回採点して返す ）

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回授業中に確認問題を解く、実施評価して返却しますので再度復習しておくこと。授業後の復習を勧めます

履修のポイント

欠席については、後日課題を提出していただく。授業での積極的な取り組みを望希望します。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、授業終了後、随時 9号館2階 第5研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C273

講義コード	30420001
講義名	食品衛生学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食事に対して、健康維持・増進等の期待が高まっている昨今であるが、食品とは常に安心・安全なものでなければならない。食品衛生学では、食品の生産から消費に至るまでの過程において、安全な食品を選択し、提供することができるよう関連法規や危害要因、衛生管理の方法について学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することが基礎となる。

到達目標

食品衛生学では、関連法規・食品の変質・食中毒・食品中の汚染物質及び食品添加物・衛生管理手法・食品表示等の学修をとおし、食品による健康被害を未然に防ぐための基礎知識を習得することを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品衛生の概念と関連法規		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第2回	食品衛生関連組織		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第3回	食品の変質I		予習90分：教科書 復習90分：教科

			書、ノート
第4回	食品の変質II		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第5回	食中毒I		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第6回	食中毒II		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第7回	食中毒III		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第8回	食中毒IV	興味のある、または身近で発生した食中毒事件について調べ、まとめる。	予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第9回	食品中の汚染物質I		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第10回	食品中の汚染物質II		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第11回	食品添加物I		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第12回	食品添加物II	興味のある、または身近な食品に含まれる食品添加物について調べ、まとめる。	予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第13回	食品衛生管理		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第14回	食品表示制度		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第15回	講義のまとめ		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート

教科書

改定第2版 食品衛生学(田﨑達明ほか 羊土社)

参考書
食品の安全(有薗幸司ほか 南江堂)、食品衛生学(一戸正勝ほか 講談社)
成績評価の方法・基準
小テスト(全3回)：20%、学期末試験：80%で評価する。単位認定は60点以上とする。
課題等に対する フィードバックの方法
課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。
履修のポイント
教科書の予習・復習及び配布プリントの復習をとおし、理解を深めること。不明な点は、早期に解決するよう心がけること。
オフィス・アワー
火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C251

講義コード	30430001
講義名	食品衛生学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食品とは常に安心・安全なものでなければならなず、食品衛生学ではその基礎知識について学修した。そこで食品衛生学実験では、科学的な手法を用いて、講義で学んだ知識(食品の規格・基準、危害因子等)と各検査法の原理をより一層深く理解し、習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することが基礎となる。実験においては、その科学的検査法等を習得することとなる。

到達目標

実験をとおして、食品の安全性を確保するために必要となる食品衛生検査の基礎を学修するとともに、食品の規格基準等を科学的視点をもって評価できることを目標とする。また、実験で得られた結果を基にレポート及びプレゼンテーションを行えることを目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮本雄基	【導入】 ・オリエンテーション ・講義(分析化学実験の基礎) ・小テスト	食品衛生学の分析化学の基礎を学ぶ：使用する薬品・器具・測定機器、試薬の調整、試料のサンプリング等の知識	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
	宮	【水質検査】	清涼飲料水中の硬度を滴定法により測定	予習40分：

第2回	本雄基	・滴定法によるミネラルウォーターの硬度測定 ・DPD法による残留塩素濃度測定	する。 DPD法により水道水中の遊離型・結合型残留塩素を測定する。	教科書復習40分：ノート作成
第3回	宮本雄基	【食品化学分析法】 ・分光光度計の原理(Lambert-Beerの法則) ・メチレンブルー未知濃度試料の定量	分光光度計の原理（Lambert-Beerの法則）を理解する。メチレンブルーの未知濃度試料を測定をする。	予習40分：教科書復習40分：ノート作成
第4回	宮本雄基	【油脂の変敗】 ・滴定法による油脂中の遊離脂肪酸の測定(酸価測定)	各種の油脂を試料として、滴定法により酸価を求める。	予習40分：教科書復習40分：レポート作成
第5回	宮本雄基	【第一回】 ・プレゼンテーション発表	前回までに行った実験から、各班で分担しプレゼンテーション発表を行う。	予習40分：教科書復習40分：ノート作成
第6回	宮本雄基	【微生物検査】 1. 施設や器具のふき取り検査 2. 環境細菌、空中落下細菌	施設、器具等のふき取り検査による細菌数測定のため、試料採取を行う。 採取箇所については、個人または班員で協議して決定する。	予習40分：教科書復習40分：ノート作成
第7回	宮本雄基	【微生物検査】 3. 手指洗浄度と表面付着細菌の検査	・前回実験の細菌数の測定 ・手指洗浄、表面付着細菌実験の試料を採取する。	予習40分：教科書復習40分：ノート作成
第8回	宮本雄基	【微生物検査】 4. 食品中の一般生菌数の測定	・前回実験の細菌数の測定 ・市販の食品から一般生菌数及び大腸菌群を測定するための採取を行う。	予習40分：教科書復習40分：ノート作成
第9回	宮本雄基	【微生物検査】 5. グラム染色による細菌の観察	・前回実験の細菌数の測定 ・グラム染色による細菌の染色、及び真菌の顕微鏡による形態観察	予習40分：教科書復習40分：レポート作成

第10回	宮本雄基	【第二回】 ・プレゼンテーション発表	前回までに行った実験から、各班で分担しプレゼンテーション発表を行う。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第11回	宮本雄基	【食品添加物】 1. TLC法による食品中の着色料の分離と同定	薄層クロマトグラフィ法を用いた着色料の定性試験を行う。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第12回	宮本雄基	【食品添加物】 2. ジアゾ化法による食品中の発色剤(亜硝酸根)の分離と同定	食肉製品中に添加された発色剤（亜硝酸根）を、ジアゾ化法により定量試験を行う。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第13回	宮本雄基	【食品添加物】 3. ヨウ素酸カリウムでんぷん紙を用いた食品中の漂白剤(亜硫酸)の定性試験	食品中に添加された漂白剤（亜硫酸）をヨウ素酸カリウム・でんぷん紙を用いて定性試験を行う。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第14回	宮本雄基	【食器の洗浄度試験】 ・でんぷん性残留物 ・タンパク質性残留物	食器の残留物を測定することにより各種洗浄効果を確認する。	予習40分：教科書 復習40分：レポート作成
第15回	宮本雄基	【第三回】 ・プレゼンテーション発表	前回までに行った実験から、各班で分担しプレゼンテーション発表を行う。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成

教科書

食品・環境の衛生検査 桑原祥浩ほか 朝倉書店

参考書

食品安全・衛生学実験 岡崎眞ほか 講談社ｻｲｴﾝﾃｨﾌｨｯｸ

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。実験レポート80%、実験への積極的参加20%を総合して評価

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートについて、その都度、講評をおこなう。

履修のポイント
実験は主体的に取り組むことで、より深く理解することに繋がります。積極的に参加すること。
オフィス・アワー
火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C252

講義コード	30440001
講義名	公衆栄養学概論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所での勤務経験に基づき、自治体における健康・栄養課題の現状と栄養政策について具体例を挙げながら解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養学は国民、地域住民、職域などさまざまな集団を対象に、食と健康の関係を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動推進のための基本的な知識と技術を習得することを目指している。
本授業では、公衆栄養学の概念、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、わが国および諸外国の栄養・食料政策に関する理解を目指し、公衆栄養マネジメント、栄養疫学にもつながる、公衆栄養学における幅広い知識を身に付けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、生活に関する身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解するとともに、生活を取り巻く社会的環境について科学的に理解することを目指し、公衆栄養学の概念、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、わが国および諸外国の栄養・食料政策に関する理解と習得を目指す。将来的な展望としては、修得した内容を基盤とし、栄養士としての現場での実践的活用や、問題解決能力の発揮に活かすことで、社会で活躍できる人材となることを目指すものとする。

到達目標

1.公衆栄養学の枠組みや歴史を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。
2.我が国や諸外国の健康・栄養問題の現状と課題を理解し、栄養士が果たすべき役割について考察できるようになる。
3.我が国や諸外国の栄養・食料政策を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。
4.公衆栄養プログラムの流れや食事調査の手法および日本人の食事摂取基準における集団を対象とした食事評価と改善計画を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間

第1回	橘陽子	ガイダンス 公衆栄養学Iでの学びと本授業の概要 課題：災害時の食生活支援における管理栄養士の役割と使命に関する考察	災害時の食生活支援の実例から、管理栄養士の役割と使命を公衆栄養学的観点から考え、発表する。	予習90分：公衆栄養学Iでの学習範囲（第1章～第3章）を教科書で確認する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第2回	橘陽子	公衆栄養学の概念① 公衆栄養の概念 課題：公衆栄養および公衆栄養活動に関する問題	公衆栄養および公衆栄養活動に関して調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「公衆栄養の概念」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第3回	橘陽子	公衆栄養学の概念② 公衆栄養活動 課題：公衆栄養の役割と管理栄養士による公衆栄養活動に関する考察	公衆栄養の役割と管理栄養士による公衆栄養活動の在り方について考え、発表する。	予習90分：教科書「公衆栄養活動」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第4回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題① 健康状態の変化 課題：年齢調整死亡率、健康寿命等に関する問題	公衆栄養における年齢調整死亡率の活用および健康寿命等に関して調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「健康状態の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第5回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題② 食事の変化(1) 課題：国民健康・栄養調査結果に関する問題	国民健康・栄養調査の結果を確認し、健康・栄養問題の現状と課題について発表する。	予習90分：教科書「食事の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第6回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題③ 食事の変化(2) 課題：食事バランスガイドによる食生活の評価	自らの食生活を食事バランスガイドに当てはめて評価し、アセスメント結果と今後の課題について発表する。	予習90分：教科書「食事の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。 復習90分：
第7回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題④ 食生活の変化 課題：食環境整	食行動、食態度、食知識、食スキルなどの食生活の変化に対応した食環境整備の事例を調べ、特徴や今後の課題について発表する。	予習90分：教科書「食生活の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教

		備の事例に関する考察		科書等で復習し、知識の定着を図る。
第8回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題⑤ 食環境の変化 課題：食物・情報へのアクセス、特定保健用食品に関する問題	食物・情報へのアクセスや特定保健用食品等の制度について調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「食環境の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第9回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題⑥ フードバランスシート 課題：食糧需給表に関する問題	食糧需給表および現在の我が国の食料自給率について調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「食糧需給表（フードバランスシート）」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第10回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題⑦ 諸外国の健康・栄養問題の現状 課題：健康・栄養問題の現状と課題に関するまとめ問題	我が国および諸外国の健康・栄養問題の現状と課題に関してまとめ、発表する。	予習90分：教科書「諸外国の健康・栄養問題の現状」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第11回	橘陽子	栄養政策① わが国の公衆栄養活動と関連法規 公衆栄養活動と組織・人材育成 課題：公衆栄養施策と根拠法に関する問題	公衆栄養施策と根拠法についてまとめ、発表する。	予習90分：教科書「わが国の公衆栄養活動と関連法規」「公衆栄養活動と組織・人材育成」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第12回	橘陽子	栄養政策② 国民健康・栄養調査 課題：国民健康・栄養調査の実施に関する問題	国民健康・栄養調査の概要および実施方法について調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「国民健康・栄養調査」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第13回	橘陽	栄養政策③ 実施に関する指針、ツール わが国の健康増進基本方針と地方計画 課題：身体活動および食生活に	食生活指針、運動指針、食育ガイド、健康な食事等の指針・ツール、健康日本21（第二次）、特定健康診査・特	予習90分：教科書「実施に関する指針、ツール」「わが国の健康増進基本方針と地方計画」を熟読する。

	子	関する指針・ツールに関する問題 健康日本21（第二次）、特定健康診査・特定保健指導、食育推進に関する問題	定保健指導、食育推進計画について調べ、自らの考えを発表する。	復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第14回	橘陽子	栄養政策④ 諸外国の健康・栄養政策 課題：栄養政策に関するまとめ問題	我が国および諸外国の栄養政策に関してまとめ、発表する。	予習90分：教科書「諸外国の健康・栄養政策」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第15回	橘陽子	栄養疫学 公衆栄養プログラム 課題：食事調査、公衆栄養プログラムに関する問題	食事調査、日本人の食事摂取基準の集団への活用、公衆栄養プログラムの実例を調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「栄養疫学」「公衆栄養プログラムの展開」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。

教科書

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第7版

参考書

日本人の食事摂取基準（2020年版） 第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
毎回課す課題をすべて提出すること。
原則定期試験100％評価だが、課題を期限内に提出しない場合は1点/回減点する。

課題等に対するフィードバックの方法

課題の解説は次回授業開始時に行う。

履修のポイント

授業内容に連続性があり、習得度に合わせた内容変更の可能性もあるので欠席はしないこと。

オフィス・アワー

月～金曜日 昼休み 研究室9

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C272

講義コード	30450001
講義名	臨床栄養学概論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験に基づき、各疾患の栄養療法について講義を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学の基礎、各疾患別の栄養療法について学ぶ。各疾患の概要を理解し、予防、治療に有効である栄養療法を学び、各疾患に応じた栄養療法を計画、立案、調理、評価するための知識やスキルを学習する
医療機関、施設で適切な栄養管理を行うために栄養ケアプランの作成、実施、評価など総合的なマネジメントを理解する

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的な事柄を理解し、さらにそれら相互作用について理解している。
「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している。

到達目標

医療チームの一員の栄養士として、医療機関、施設で実践活動に対応できるように基礎から応用の知識を習得し、業務遂行の即戦力となる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	中山優子	病院給食について（仕組み、動き、業務の関わり） 臨床栄養管理（栄養ケアの概要）		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第2回	中山優子	１．肥満症 ２．糖尿病 ３．高尿酸血症		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
	中			予習90分：教科書の該

第3回	山優子	1．肝炎（急性肝炎 、慢性肝炎） 2．肝硬変・肝不全 3．脂肪肝		当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第4回	中山優子	1．胆石症 2．膵炎（急性膵炎 ・慢性膵炎 ）		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第5回	中山優子	1．脂質異常症 2．高血圧 3．虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 4．心不全		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第6回	中山優子	1．急性腎臓病 2．慢性腎臓病		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第7回	中山優子	3．ネフローゼ症候群 4．腎不全 5．透析療法		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第8回	中山優子	糖尿病食品交換表の利用、腎臓病食品交換表の利用、糖尿病性腎症の食品交換表の利用	食品交換表による糖尿病食の献立計算、腎臓病食品交換表による腎臓病食の献立計算糖尿病腎症食品交換表による糖尿病腎症食の献立計算	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第9回	中山優子	1．鉄欠乏性貧血 2．骨粗鬆症 3．くる病・骨軟化症		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第10回	中山優子	1．消化不良症 2．小児糖尿病 3．小児肥満 4．小児腎臓病 5．食物アレルギー		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第11回	中山優子	1．胃炎（急性胃炎・慢性胃炎） 2．消化性潰瘍 3．下痢・便秘 4．潰瘍性大腸炎・クローン病		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第12回	中山優子	1．高齢者の身体的特徴と食事ケア 2．摂食・嚥下障害 3．介護食と嚥下食 4．障害に適した食事のポイントと調理 について	動画による摂食嚥下障害の観察と理解	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第13回	中山優子	5．調理形態の工夫と栄養ケアマネジメント 6．褥瘡の栄養ケア	写真による褥瘡の理解と褥瘡時に使用するする食品の試食	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。
第14回	中山優子	1．経口栄養法 2．経腸（経管）栄養法 3．静脈栄養法（中心静脈・末梢静脈）	写真による経腸栄養のの理解と経腸栄養に使用するする食品の試食	予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

第15回	中山優子	1．栄養管理の考え方 2．臨床調理のめざすもの 3．臨床調理の考え方 4．臨床調理の食事プラン		予習90分：教科書の該当箇所を読む。復習90分：配布資料を見直す。

教科書
「新ガイドライン対応・臨床栄養学」 井上修二監修 光生館
参考書
糖尿病食品交換表、糖尿病性腎症の食品交換表、腎臓病食品交換表、臨床栄養学 他
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 筆記試験により評価（授業内20%、期末80%） 提出物は締切厳守
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
各疾患に応じた栄養療法を計画、立案、調理、評価するための基本を学習
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C232

講義コード	30460001
講義名	臨床栄養学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験に基づき、各疾患の献立の理論と技術について実験を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中山 優子	指定なし

授業の概要と教育目標

各疾患の概要を理解し、予防、治療に有効である栄養療法を学び、各疾患別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養療法を計画、立案、調理し、献立内容や量を把握、評価する。献立の理論と技術を習得する。医療機関、施設で適切な臨床栄養管理を行うためのスキルを身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解したうえで、各種の病態に対する予防と治療には、食事と栄養が深くかかわっていることを確認し、栄養士の特性である献立作成のテクニックの向上を図り、「健康・栄養」に係る現場での実践力を学び、多様な問題を解決できる能力を修得させる。

到達目標

栄養士として、医療機関、施設での栄養実践活動に対応し業務遂行の即戦力となる技術の習得

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	中山優子	・各疾患別栄養療法の重要ポイント ・実習に臨む心得と支度 ・病院と施設の給食について（仕組み 動き 業務の関わり)	[課題] 流動食 軟食について調べる(グループワーク)	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
		①流動食の種類・適応 流動食に適した料理 流動食の栄養基準と食品構成		

第2回	中山優子	（普通流動食）：単純流動食と濃厚流動食の比較 ②軟食の種類、軟食の適応、食品の適応と調理 分粥食栄養基準と食品構成	[演習] 軟食献立の立案	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第3回	中山優子	流動食の実習(単純流動食、濃厚流動食）	軟食の種類・軟食の実習 各グループごとに発表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第4回	中山優子	糖尿病の食事療法の実際 （食品交換表を使用した献立作成）	〔課題〕献立表の作成 食品交換表に基づいた献立表の各食に配分された単位を示す 使用本：糖尿病食事療法のための食品交換表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第5回	中山優子	糖尿病基本献立の立案 食品交換表に基づく（1600kcal)	[演習] 献立立案 炭水化物(60%)	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第6回	中山優子	第５回の演習献立を使用する。	次回実験する献立を選択、グループで（1600kcal) 各グループごとに実習作業工程表・発注表を作成	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第7回	中山優子	食品交換表に基づいた基本献立を調理再現する。	第６回、演習献立の評価 各グループごとに発表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第8回	中山優子	たんぱく質制限を伴う糖尿病治療食について 糖尿病性腎症の食事療法について 糖尿病性腎症の食品交換表の使い方 エネルギー調整食品について	食事献立表（1840kcal.たんぱく質50ｇ）の作成と支持単位記入	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第9回	中山優子	腎疾患における食事療法 腎臓病食品交換表 課題献立表を完成 単位配分と献立について（たんぱく質30g・10単位の食事）	[課題] たんぱく質30g・10単位献立表を完成（単位を記入） 使用本：「腎臓病食品交換表」	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第10回	中山優子	腎疾患における食事療法 腎臓病食品交換表 課題献立表を完成 単位配分と献立について（たんぱく質30g・10単位の食事）	慢性腎不全の献立を実習（第９回の演習献立表） 低たんぱく質、食塩、特殊食品の使用例 各グループごとに発表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。

第11回	中山優子	食塩コントロール食（虚血性心疾患・本態性高血圧症） 栄養基準と食品構成、食品の選択、献立及び調理の工夫 ナトリウムの食塩換算、塩分の換算	[演習] 献立立案 （本態性高血圧症）	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第12回	中山優子	グループごとに前回立案した献立を選択 実習作業工程表、発注表を作成	[課題] 食塩制限はどんな病気の時に必要かまとめる	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第13回	中山優子	検査食の要点、第１２回で選択した献立を調理・評価する	各グループごとに発表	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第14回	中山優子	高齢者の身体的特徴と介護食の基本 ①嚥下食ピラミッド ②ユニバーサルデザインフードの区分 障害に適した食事のポイントと調理	[課題] 咀嚼・嚥下障害のある人の食事の工夫をまとめる	予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。
第15回	中山優子	１）膵臓の食事療法、食品、献立、調理 栄養基準・食品構成 ２）貧血の食事療法、食品、献立、調理 栄養基準・食品構成		予習45分：教科書の該当箇所を読む。復習45分：配布資料を見直す。

教科書

「栄養食事療法の実習」 本多佳子編 （医歯薬出版） 「糖尿病食事療法のための食品交換表」(日本糖尿病学会) 「腎臓病食品交換表治療食の基準」 黒川清 (医歯薬出版)

参考書

糖尿病性腎症の食品交換表、食品成分表 他

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 演習、課題提出(30%)・期末テスト(70%)により評価 提出物は締切厳守

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの出来る資料を配布するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

各疾患別に身体状況や栄養状況に応じた、栄養療法を計画、立案、調理し、献立内容や量を把握、評価する
献立の理論と技術を習得する

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C255

講義コード	30470001
講義名	臨床栄養学各論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

疾病者の疾患や栄養状態に基づく適切な栄養ケアマネジメントの実施に必要な、臨床症状や臨床検査データを理解する。
疾患の改善に欠くことのできない栄養療法について、各治療食の献立立案から献立展開を習得する。
医療現場のシステムやチーム医療における栄養士の役割および栄養士の専門性の確立を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間のからだ・食品・栄養に関する学修を総合的に理解し、健康・栄養に係る現場での実践的活用と問題解決能力を修得する。

到達目標

卒後の現場で栄養実践活動に対応し、即戦力になる栄養士としての専門知識と技術を習得できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養アセスメントについて	ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｰﾆﾝｸﾞ：臨床栄養に関するトピックスを集め、意見・情報交換を行う	予習90分（臨床栄養学概論の教科書 関連ページを読む） 復習90分（授業内容をまとめる）
第2回	基本となる検査値の読み方 検査値と各栄養指標からのアセスメント		予習90分（情報発表の下準備） 復習90分（授業内容をまとめる）
			予習90分（臨床栄養学概

第3回	栄養補給法の概要 経口栄養法、経腸栄養法、経静脈栄養法		論の教科書 関連ページを読む） 復習90分（授業内容をまとめる）
第4回	一般・特別治療食、検査食 他		予習90分（臨床栄養学概論の教科書 関連ページを読む） 復習90分（授業内容をまとめる 次回演習の資料準備）
第5回	一般治療食の献立立案 【演習課題】 食事基準に沿った基本献立の立案		予習90分（次回演習の資料準備） 復習90分（演習課題の確認）
第6回	献立展開の意義と基本的な考え方 献立展開の方法 【演習課題】 例問題献立を展開する	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各自が立案した献立を発表し、意見交換・情報提供を行う	予習90分（次回演習の資料準備） 復習90分（演習課題の確認）
第7回	基本献立の展開 ①【演習課題】 塩分コントロール食への展開 エネルギーコントロール食への展開		予習90分（次回演習の資料準備） 復習90分（演習課題の確認）
第8回	基本献立の展開 ②【演習課題】 たんぱく質・塩分コントロール食への展開 脂質コントロール食への展開	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業を受けての感想発表 今後の学習に向けての意見交換を行う	予習90分（次回演習の資料準備） 復習90分（演習課題の確認）

教科書

毎回資料及び演習用プリントを配布使用する。

参考書

最新臨床栄養学 新ガイドライン対応（井上修二 他編著・光生館）
臨床栄養学概論及び実験で使用している教科書および食品交換表
食品成分表（七訂2020版 香川明夫監修・女子栄養大学出版部）

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上.
演習および課題提出（６０％）、小テスト（４０％）により評価する。課題提出は期日厳守のこと。

課題等に対するフィードバックの方法

授業計画書を確認し、主題（授業内容）を予習・復習しておくことが望ましい。演習献立はチェックおよびコメントを入れて返却するので、以後の参考資料にすること。

履修のポイント

臨床栄養学に関わる科目（概論および実験）の内容を復習しておくことを薦める。

演習は献立立案を中心に行うので、日頃から参考書籍を検索して献立のレパートリーを広げておく。 栄養情報やトピックスなどについての情報交換等を授業に織り込んでいく予定なので、人前で発表する等の自主練習を試みておくように。
オフィス・アワー
月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号館３階第８研究室。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C350

講義コード	30480001
講義名	臨床栄養学各論実験
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学各論にて学んだ各疾患の臨床症状、臨床検査データ、治療法などの相互関係、かつ疾患の改善に欠くことのできない栄養療法を演習しながら習得する。
基本献立から各疾患別献立の展開など演習しながら、献立の理論と技術を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間のからだ・食品・栄養に関する学修を総合的に理解し、健康・栄養に係る現場での実践的活用と問題解決能力を修得する。併せて医療現場における栄養士の役割および栄養士の専門性の確立を理解修得する。

到達目標

臨床栄養学各論にて習得したことを基礎として、卒後の現場での栄養実践活動に対応し、即戦力になる栄養士としての専門知識と技術を習得できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	臨床栄養学各論で学習した内容のおさらい 療養食の実際	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：病院や高齢者施設における食事の実際について、身の回りの情報から調べ発表 意見交換を行う。	予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（授業内容のおさらい）
第2回	治療食の種類① 栄養補給方法		予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（授業内容のおさらい）
	治療食の種類②		予習30分（臨床栄養学概論の教科書およ

第3回	目的・形態・栄養コントロールによる区分		び実習書を読む） 復習60分（授業内容のおさらい）
第4回	献立立案の演習① 【演習課題】一般治療食（常食、全粥食）		予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習課題を確認する）
第5回	献立立案の演習② 【演習課題】一般治療食（五分粥、三分粥） キザミ・ミキサー形態への加工		予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習課題を確認する）
第6回	献立立案の演習③ 【演習課題】一般治療食献立の展開	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：作成した献立の展開について発表 意見・情報交換を行う	予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）
第7回	特別治療食献立の演習① 【演習課題】塩分コントロール食		予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習課題を確認する）
第8回	特別治療食献立の演習② 【演習課題】エネルギーコントロール食		予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習課題を確認する）
第9回	特別治療食献立の演習③ 【演習課題】エネルギーコントロール食 （「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて）	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各自が立案した献立を発表 意見・情報交換を行う	予習30分（臨床栄養学概論の教科書および食品交換表を読む） 復習60分（授業内容のおさらい）
第10回	特別治療食献立の演習④ 【演習課題】たんぱく質・塩分コントロール食		予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認する）
第11回	特別治療食献立の演習⑤ 【演習課題】たんぱく質・塩分コントロール食 （「腎臓病食品交換表」を用いて）	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各自が立案した献立を発表 意見・情報交換を行う	予習30分（臨床栄養学概論の教科書および食品交換表を読む） 復習60分（演習記録を確認する）
第12回	特別治療食献立の演習⑥ 【演習課題】脂質	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：各自が立案した献立を発表 意見・情報交換を行う	予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録

	コントロール食		を確認する）
第13回	高齢者の食事について① 食事の在り方、現状 食事提供時の視点		予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（演習記録を確認する）
第14回	高齢者の食事について② 【演習課題】行事食の立案 ※次回授業で発表・意見交換を行う		予習30分（臨床栄養学概論の教科書および実習書を読む） 復習60分（発表内容の確認）
第15回	高齢者の食事について③ 【演習課題】行事食の立案 発表・意見交換 授業のまとめ	ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ：授業で学習した内容まとめを基に、臨床栄養に関する情報交換を行う	予習30分（発表内容の準備確認） 復習60分（演習記録を確認しまとめる）

教科書

栄養士になるための臨床栄養学実習 別冊 食事療法実務実習書（芦川修貳 他編著・学健書院）
その他項目内容によってはプリント配布あり。

参考書

最新臨床栄養学 新ガイドライン対応（井上修二 他編著・光生館）
臨床栄養学概論及び実験にて使用した教科書および食品交換表
食品成分表（七訂2020版 香川明夫監修・女子栄養大学出版部）

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上。
課題・レポート（２０%）、演習（７０%）、記録（１０%）をまとめて提出評価する。課題提出は期限厳守のこと。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業計画書の内容を確認し、実習教科書を予習・復習しておくことが望ましい。演習献立はチェックおよびコメントを入れて返却するので、以後の参考資料にすること。

履修のポイント

臨床栄養学各論で学習した基礎献立の立案～展開を、更に実習書での演習を通して学んでいく。
臨床栄養に関する情報やトピックスを授業内容に織り込んでいくので、日頃からの情報収集を心掛けてほしい。

オフィス・アワー

月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号３階第８研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C370

講義コード	30510001
講義名	給食計画・実務論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食計画・実務論は、病院・学校・福祉施設・事業所等の給食施設における業務での栄養士の役割を認識し、食事計画や栄養管理、給食の運営等について、経営管理理念をもち、いかに適切に遂行することを役目とする。本授業では、具体的に給食施設での栄養管理・大量調理の献立作成、調理作業、衛生管理、安全管理、作業管理、施設管理について理解を深め実務に活かせることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーに則し、社会の要請に応ええる給食業務ができる栄養士の教育・養成を目指す。卒業後は、その施設の特性に対応できる、給食の運営ができる、実践力を身に着けることを目指すものとする。

到達目標

栄養士の様々な業務を認識する
喫食者に対して、実態に適応した安全で良質な給食ができる実践力を身に着ける
社会に出て即実践に働ける知識を身につける

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション、給食の概念、栄養士の役割、給食関係法規と行政指導	グループディスカッション：給食や栄養士という職業にどのようなイメージを持っているか、また業務に対する認知度等について	予習で教科書を読んでおく90分
第2回	特定給食関係法令と行政指導		復習に120分、

			予習 に90分
第3回	給食の栄養・食事管理、献立作成、提供形態、食事評価、栄養管理報告、		復習 に120分、 予習 に90分
第4回	給食の計画・作成・評価		復習 に120分、 予習 に90分
第5回	栄養・食事管理の評価		復習 に120分、 予習 に90分
第6回	給食と栄養指導給食の調理管理、給食食材管理、給食の作業管理、新調理システム		復習 に120分、 予習 に90分
第7回	給食と調理作業管理		復習 に120分、 予習 に90分
第8回	調理管理、安全・衛生管理、ＨＡＣＣＰによる衛生管理、危機管理と災害・事故発生時の対応 大量調理衛生管理マニアルに基づく衛生管理		復習 に120分、 予習 に90分
第9回	給食施設の設備管理（建物の位置、調理機器の用途と保守、採光換気、給排水、電気他）		復習 に120分、 予習 に90分
第10回	給食の組織管理と人事管理、		復習 に120分、 予習 に90分
第11回	給食の原価管理		復習 に120分、 予習 に90分
第12回	給食の事務管理（帳票管理、コンピューターの利用と活用）		復習 に120分、 予習 に90分
第13回	施設別の給食運営（事業所給食）、施設別の給食運営（高齢者福祉施設）、施設別の給食運営（児童福祉施設）、施設別給食の運営（病院給食）、教育・訓練施設別の給食運営（学校給食）も特色について		復習 に120分、 予習 に90分
第14回	施設別の給食運営（事業所給食）、施設別の給食運営（高齢者福祉施設）、施設別の給食運営（児童福祉施設）、施設別給食の運営（病院給食）、教		復習 に120分、 予習

	育・訓練施設別の給食運営（学校給食）の特色について		に90分
第15回	まとめ	各給食施設での栄養士の役割について、グループディスカッションを行い、職場で求められる栄養士とはどのような人なのかグループディスカッションを行い発表する	復習に120分、

教科書
実力養成のための 給食管理論 学研書院
参考書
イラスト給食経営管理論 東京教学社
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 試験90% 課題の取り組み・レポート10%
課題等に対する フィードバックの方法
課題提出後採点して返却するので、本試験の参考にする
履修のポイント
給食計画から実践へ理解を深め、校外実習に活かす 給食施設の目的に適応した給食づくりを理解する
オフィス・アワー
授業終了後適宜受け付ける。9号館2階 第5研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C235

講義コード	30520001
講義名	校外実習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士法が2002年に改正され、栄養士は単に食事を提供するのみではなく、食を通して人をより良い栄養状態に導く健康のプロであることが明言されました。栄養士を目指す学生は、人の健康の担い手であることが求められています。
本授業では、いろいろな問題を見つけみずからの力で解決していくことにより、体験を通して物事を知る「実践の知」につながる実習をおこなう。経験・体験した知識を就職に結びつけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、学修を総合的に理解し、卒業後に栄養士として活躍できるよう実習現場での経験をし、社会人になれるように基本的な事項を身につける、栄養士としての意識を持って望み、問題を解決できる学生の校外実習をめざす。

到達目標

これから求められる栄養士になれるような学習を、実習現場で経験することにより、栄養士の役割を理解し、現場において役立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	実習先の発表と説明、実習に当たっての諸注意 班員の情報確認と共有する		校外実習について理解するために事前学習90分以上
第2回	校外実習についての説明（学校給食、事業所給食） 各実習施設の情報共有	各班ごとに分かれ情報を共有する	各実習場所の特徴について調べるために120分以上

	する		
第3回	事前挨拶等の説明、事前課題 課題発表、提出日時、場所等共有確認する		事前課題等の作成のために90分以上 実習施設への連絡確認のために90分
第4回	実習直前説明会	各班ごとに分かれ情報を共有する（確認事項をまとめるなど)	実習場所の内容について事前学習180分以上
第5回	実習４０時間		事前準備のために120分以上、毎日ノート整理等に60分以上
第6回	課題提出		課題提出のために120分以上
第7回	各実習場所の報告会および反省会	各班の代表者による実習報告を実施し、情報交換等を実施する。	報告会のための準備に120分以上
第8回	第二回実習場所発表 実習先の説明、実習に当たっての諸注意 情報を共有する		第二期校外実習について理解するために事前学習90分以上
第9回	校外実習についての説明（病院給食、社会福祉施設）		各実習場所の特徴について調べるために90分以上
第10回	事前挨拶等の説明、事前課題		事前課題等の作成のために60分以上 実習施設への連絡確認のために120分
第11回	実習直前説明会	各班ごとに分かれ情報を共有する（確認事項をまとめるなど)	実習場所の内容について事前学習120分以上
第12回	実習４０時間		事前準備のために120分以上 毎日ノート整理等に60分以上
第13回	課題提出		課題提出のために120分以上
第14回	報告会及び反省会の準備	各班ごとに班長中心に意見をまとめ、報告会にむけての準備をする。	報告会のための準備に180分以上
第15回	各実習場所の報告会および反省会	各班の代表者による実習報告を実施し、情報交換等を実施する。	報告会のための準備に120分以上 報告会終了後 まとめに60分

教科書

栄養士校外実習ノート （学内作成用）

参考書

管理栄養士･栄養士になるための国語表現 萌文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 校外実習先評価点90％、事前・事後課題10％

課題等に対する フィードバックの方法
実習反省会の資料を作成、発表後、学生へ返却する。
履修のポイント
具体的な栄養士の現場を体験することにより、栄養士の内容を理解する 令和2年度のように緊急事態にも対応できるように、随時対応策の考えながら実施する
オフィス・アワー
月曜日12：30～13：20（お昼休み）または、授業終了後、随時 橋本まさ子：9号館2階 第5研究室 火曜日12：30～13：20（お昼休み）または、授業終了後、随時 井桁千恵子：9号館３階 第8研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C256

講義コード	30530001
講義名	栄養指導論I
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験に基づき、栄養教育について講義を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小野澤 しのぶ	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士が行う栄養教育の意義や目的を理解し，行動変容に関する理論・モデル及びカウンセリングの基本技術を統合した栄養教育を実践できる力を身につける．また、栄養教育マネジメントサイクルを理解し、適切な栄養教育計画を立案・実施できる力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活を取り巻く社会的環境について科学的に理解し、栄養教育に繋げることができる。
様々な現場での実践に活用可能な栄養教育の基礎知識を習得する。

到達目標

栄養士が行う栄養指導の意義や目的、栄養教育に関わる理論・モデル、カウンセリングの基本、栄養教育のマネジメントサイクルについて概説できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	小野澤 しのぶ	ガイダンス、栄養教育概論（教科書Chapter 1)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第2回	小野澤 しのぶ	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用①（教科書Chapter 2）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第3回	小野澤 しのぶ	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用②（教科書Chapter 2）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見

				直す（120分）
第4回	小野澤 しのぶ	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用③（教科書Chapter 2）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第5回	小野澤 しのぶ	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用④（教科書Chapter 2）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第6回	小野澤 しのぶ	栄養教育に関わる理論・モデルとその活用⑤（教科書Chapter 2）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第7回	小野澤 しのぶ	カウンセリングの基本と栄養教育への応用①（教科書Chapter 3）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第8回	小野澤 しのぶ	カウンセリングの基本と栄養教育への応用②（教科書Chapter 3）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第9回	小野澤 しのぶ	カウンセリングの基本と栄養教育への応用③（教科書Chapter 3）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第10回	小野澤 しのぶ	カウンセリングの基本と栄養教育への応用④（教科書Chapter 3）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第11回	小野澤 しのぶ	栄養教育のマネジメントサイクル①（教科書Chapter 4）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第12回	小野澤 しのぶ	栄養教育のマネジメントサイクル②（教科書Chapter 4）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第13回	小野澤 しのぶ	栄養教育のマネジメントサイクル③（教科書Chapter 4）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第14回	小野	栄養教育のマネジメント	学習した内容をレ	予習：教科書の該当箇所を読む（60分）

第　回	澤 しのぶ	サイクル④（教科書Chapter 4）	ポートにまとめグループ内で共有する	復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第15回	小野澤 しのぶ	授業のまとめ、試験		予習：これまでの授業で学んだ内容を見直す（120分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（60分）

教科書

武見ゆかり・赤松理恵 編 栄養教育論 理論と実践（医歯薬出版株式会社）

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
授業内試験60%、レポート課題の提出30%、授業への主体的な参加10%

課題等に対するフィードバックの方法

・レポート課題は採点後返却するので、学習の参考にしてください。
・授業内で毎回小テストを行い、その場で解説します。回収はしません。配布プリントなどと合わせて学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業には主体的には参加してください。講義は質問や議論を交えながら展開します。また講義科目ですが、適宜グループワークやプレゼンテーションを取り入れながら授業を進めます。

オフィス・アワー

質問や相談には、授業開始前および終了後またはリアクションペーパーにて応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C257

講義コード	30540001
講義名	栄養指導論II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院管理栄養士としての臨床経験に基づき、栄養教育について講義を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小野澤 しのぶ	指定なし

授業の概要と教育目標

様々な場における対象者の発達段階や身体・精神的状況，価値観，社会的背景等の特徴を理解し，マネジメントサイクルに基づいた栄養指導を実践できる力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活を取り巻く社会的環境について科学的に理解し、栄養教育に繋げることができる。
様々な現場での実践に活用可能な栄養教育の基礎知識を習得する。

到達目標

・個人・集団を対象とした栄養教育および食環境づくりと栄養教育との関連、発達段階と場に応じた栄養教育の方法について概説できる。
・発達段階と場に応じた栄養教育を実践できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	小野澤 しのぶ	ガイダンス、個人を対象とした栄養教育（教科書Chapter 5)	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第2回	小野澤 しのぶ	集団を対象とした栄養教育（教科書Chapter 6）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第3回	小野澤 しのぶ	食環境づくりと栄養教育（教科書Chapter 8）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見

				直す（120分）
第4回	小野澤 しのぶ	妊婦・授乳婦を対象とする栄養教育象とする（教科書Chapter 7）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第5回	小野澤 しのぶ	幼児期の栄養教育①（教科書Chapter 7）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第6回	小野澤 しのぶ	幼児期の栄養教育②（教科書Chapter 7）	グループで栄養教育計画を作成し発表する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第7回	小野澤 しのぶ	学童期の栄養教育①（教科書Chapter 7）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第8回	小野澤 しのぶ	学童期の栄養教育②（教科書Chapter 7）	グループで栄養教育計画を作成し発表する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第9回	小野澤 しのぶ	思春期・青年期の栄養教育（教科書Chapter 7）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第10回	小野澤 しのぶ	成人期の栄養教育①（教科書Chapter 7）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第11回	小野澤 しのぶ	成人期の栄養教育②（教科書Chapter 7）	グループで栄養教育計画を作成し発表する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第12回	小野澤 しのぶ	高齢期の栄養教育①（教科書Chapter 7）	学習した内容をレポートにまとめグループ内で共有する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第13回	小野澤 しのぶ	高齢期の栄養教育②（教科書Chapter 7）	グループで栄養教育計画を作成し発表する	予習：教科書の該当箇所を読む（60分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
	小野	アスリート・障がい者を	学習した内容をレ	予習：教科書の該当箇所を読む（60分）

第　回	澤 しのぶ	対象とした栄養教育（教科書Chapter 7）	ポートにまとめグループ内で共有する	復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（120分）
第15回	小野澤 しのぶ	授業のまとめ、試験		予習：これまでの授業で学んだ内容を見直す（120分） 復習：教科書の該当箇所および配布プリントを見直す（60分）

教科書

武見ゆかり・赤松理恵 編 栄養教育論 理論と実践（医歯薬出版株式会社）

参考書

適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
授業内試験60%、レポート課題の提出20%、授業への主体的な参加（プレゼンテーション含む）20%

課題等に対する
フィードバックの方法

・レポート課題は採点後返却するので、学習の参考にしてください。
・授業内で小テストを行い、その場で解説します。回収はしません。配布プリントなどと合わせて学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業には主体的には参加してください。講義は質問や議論を交えながら展開します。また講義科目ですが、適宜グループワークやプレゼンテーションを取り入れながら授業を進めます。

オフィス・アワー

質問や相談には、授業開始前および終了後またはリアクションペーパーにて応じます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C277

講義コード	30550001
講義名	学内実習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校給食の給食管理・食に関する指導を行ってきた実践経験を活かし、給食管理の理論と技術の基礎知識を解説する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし
教員	中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

集団給食室（学内）を利用し、学生を対象にした食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理など集団給食の栄養業務・その他の業務すべてを体験する。実習では、食事計画 → 献立作成 → 材料の発注 → 試作 → 給食業務 → 反省会の流れで実習を行う。 食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理など集団給食の栄養業務・その他の業務すべてを体験することで集団給食における栄養士の役割とあり方について学ぶことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、実習を通じて「給食管理」「大量調理」を理解し、その目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事(給食)を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・集団給食における食事計画・大量調理・調理作業の計画・食品管理・衛生管理などを通じてその特性と栄養士業務を理解する。
・学内実習を通してグループ学習の重要性を理解し、校外実習への発展を促す。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野沢弘子	学内実習 授業概要について		予習30分：教科書1章(給食運営・経営管理 実習のてびき)を読む。復習30分：配布資料を見直す。
	野	１．栄養・食事管理業務（１）		予習30分：教科書(給食

第2回	沢弘子	２．献立作成の手順 ３．給与栄養目標量の算出（演習）		運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉1を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第3回	野沢弘子	１．栄養・食事管理業務（２）２．栄養比率の算出（演習）		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉1を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	野沢弘子	１．栄養・食事管理業務（３）２．食品構成表の作成（演習）		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉2・3を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	１．食材の生産管理 ２．発注表の作成（演習）		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉7を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	野沢弘子	食事計画・献立作成(演習)		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉4を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	野沢弘子	学内実習 概要・衛生管理(ＨＡＣＣＰ)		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉4及び教科書(大量調理)1章を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	野沢弘子	１．施設・設備の保守管理について（１）２．実習室説明		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉4を読む。教科書1章を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	野沢弘子	栄養教育媒体等作成	履修者に栄養教育について意見交換をさせ、栄養教育について理解するきっかけを作る。また資料を用いて栄養教育の実践例について解説して理解を深め、再度栄養教育について意見交換する。	予習30分：教科書教科書(給食運営・経営管理実習のてびき)2章〈1〉8を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第10回	野沢弘子	栄養教育媒体等作成	履修者に栄養教育について意見交換をさせ、栄養教育について理解するきっかけを作る。また資料を用いて栄養教育の実践例について解説して理解を深め、再度栄養教育について意見交換する。	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈1〉5を読む。教科書1章を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第11回	野沢弘子	試作実習※詳細については実施献立決定後発表	履修者に実施予定献立について意見交換をさせ、給食管理について理解するきっかけを作る。また資料を用いて実施予定献立について解説して理解を深め、再度意見交換する。	予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。

第12回	野沢弘子	給食管理実習 ※詳細については実施献立決定後発表		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第13回	野沢弘子	給食管理実習 ※詳細については実施献立決定後発表		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。復習30分：実習日誌を記入。
第14回	野沢弘子	詳細については実施献立決定後発表		予習30分：教科書(給食運営・経営管理 実習のてびき)2章〈2〉を読む。。復習30分：実習日誌を記入。
第15回	野沢弘子	学内実習の際に実施したアンケート結果をもとに反省会を行う		予習30分：配布した反省会資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書

給食運営・経営管理実習のてびき第5版（医歯薬出版株式会社）
大量調理（学建書院）

参考書

給食経営管理テキスト 第５版(学建書院)

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 実習実技40% 実習ノート40% 課題20%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。

履修のポイント

この授業では給食運営において栄養士がどのような業務をし、それにはどのような能力が必要なのかを実践の場で習得する実習であるので、研究心、協調性、責任感、積極性、自主性をもって意欲的に実習に取り組み、教科書やプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。

オフィス・アワー

金曜日、12：30～13：20(昼休み) 実習食堂および調理準備室等
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C215

講義コード	30560001
講義名	栄養情報処理演習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし
教員	石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養関係業務では多くの資料を扱うことが多い。そこで栄養管理及び栄養教育の基礎的技術としてコンピュータの利用について演習を行う。授業ではLMSを使用する。栄養士業務のなかでコンピュータを用いた栄養管理及び栄養教育技術への応用について理解し、実際にコンピュータを利用して処理を行える技術を身に付けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「統計学」「情報処理」「プレゼンテーション」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する栄養士の基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・栄養士業務におけるコンピュータの役割について理解し積極的に利用できるようになる
・栄養士業務の中で給与栄養目標量の算出や食品構成表、栄養出納表の作成をExcelを用いて作成できる
・栄養士業務における統計処理の基本的な知識と技術を習得する
・パワーポイントを用いて栄養教育資料を作成しプレゼンテーションを行うことができる

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	中島君恵石	学習目的・講義計画について,文献検索について,PCの習熟度についての確認		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布

	井広二一	献立作成ソフトの操作方法及び演習 担当：中島・石井		資料及びテキストを見直す。
第2回	石井広二	Excelによるデータ処理、度数分布表、平均、標準偏差 担当：石井		予習30分：教科書第1章～第3章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第3回	石井広二一	グラフによるデータのまとめ方、相関と回帰直線 担当：石井		予習30分：教科書第4章～第6章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第4回	石井広二	確率分布 担当：石井		予習30分：教科書第8章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第5回	石井広二一	区間推定（母平均の区間推定など） 仮説検定 担当：石井		予習30分：教科書第9章・第10章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第6回	石井広二	仮説検定 担当：石井		予習30分：教科書第10章・第11章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第7回	石井広二	クロス集計表と検定 課題 担当：石井		予習30分：教科書第7章・第12章を確認 復習30分：理解度の問題を行う
第8回	石井広二	食事摂取基準の考え方 データ分析（1） 課題 担当：石井	実際のデータを用いて、分析を行う 課題に取り組む	予習30分：今までの内容を確認 復習30分：課題に取り組み、理解度を確認する
第9回	中島君恵	Excelを用いて食品構成表を作成する 担当：中島		予習30分：配布資料を読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直

				す。
第10回	中島君恵	Excelを用いて食品構成表を作成する 担当：中島		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを
第11回	中島君恵	パワーポイントの操作方法、インターネットを用いた情報検索と著作権 担当：中島	履修者にどのような栄養に関する情報が必要かについて意見交換をさせ、栄養指導について理解するきっかけを作る。また資料を用いて生活習慣病等に関する栄養情報を用いて解説して理解を深め、再度栄養指導に関する意見交換を行う。	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第12回	中島君恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第13回	中島君恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第14回	中島君恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島	各自で作成した資料をもとに1人ずつプレゼンテーションを行う。	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第15回	中島君恵	発表 担当：中島	各自で作成した資料をもとに1人ずつプレゼンテーションを行う。	予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料及びテキストを見直す。

教科書

Excel統計処理：「よくわかる統計学 介護福祉・栄養管理データ編 第3版」（東京図書）、その他はプリントを配布する。

参考書

「30時間アカデミック情報リテラシー Office2019」
「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」（建帛社）武藤志真子編著

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 課題（食品構成表20%、統計処理40%）、プレゼンテーション（資料・発表40%）を総合して評価
課題等に対する フィードバックの方法
授業内で課題やレポートを課すことがあります。返却しますので、学習の参考にしてください。
履修のポイント
栄養に関する情報に対して科学的な視点を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。 統計処理においては、「くらしと統計」を履修していない学生は特に予習として教科書や資料を熟読しておいてください。その他についても、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読、課題を復習として勧めます。 また、栄養士必修科目のため、欠席（公欠含む）した場合は必ず補講内容について確認してください。
オフィス・アワー
中島：水曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3階第７研究室 石井：火曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3階第11研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C258

講義コード	30570001
講義名	栄養教諭論
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として、制度の背景と役割、学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置づけや学校給食の歴史、食の安全・安心の食育についての理解を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として理論だけでなく、より専門的な知識をもった栄養教諭をめざす。そして将来的には栄養教諭論で学んだことを食の専門家として生かせるようになる。

到達目標

栄養教諭の社会的使命、職務内容を食に関する全体的な指導計画ができるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	学校給食の歴史、栄養教諭制度創設の趣旨と意義、社会・時代的背景、課せられた使命と役割、学校給食法等の関連法律の理解等についての講義内容。	栄養教諭について説明し考えさせ意見交換をする	予習60分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第2回	橋本まさ子	栄養教諭について、免許の取得、学校組織の中での栄養教諭の位置づけ等についての講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第3回	橋本まさ	学校給食における、栄養教諭の職務内容、給食管理と食に関する指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論	栄養教諭の職務につてまとめさせ、発表する。	予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のま

	子	と実践例からの講義。		とめ
第4回	橋本まさ子	「食に関する指導」における進め方及び展開についての講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第5回	橋本まさ子	食に関する個別的な指導方法、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第6回	橋本まさ子	学校給食の指導における年間指導計画の作成、給食時間における指導の実際等、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第7回	橋本まさ子	学校給食の指導における小・中学生の学習の発達と食生活学習についての講義内容。栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第8回	橋本まさ子	食育基本法について。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第9回	橋本まさ子	子どもの健全育成と食育、食物アレルギー等に関する個別支援の仕方について、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第10回	橋本まさ子	食生活のガイドライン「食生活指針」「食事バランスガイド」「日本人の食事摂取基準2020」「日本人の長寿を支える 健康に食事」についての講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第11回	橋本まさ子	生活習慣病予防に関する指導、栄養教諭の実際の役割を踏まえての講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第12回	橋本まさ子	食の安全 安心教育における食の指導、栄養教諭の実際の役割について、主に理論と実践例からの講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
第13回	橋本まさ子	日本の食文化における食に関する指導、栄養教諭の実際の役割についての講義内容。		予習90分：教科書を読んで授業に臨む、復習90分：授業のまとめ
	橋本		各自の課題に沿って、指導案を作成	予習180分：模擬授業の準備及び教材作

第14回	まさ子	模擬授業に向けての指導案の作成、教材作成。個別指導を実施する。	し模擬授業を実施し、意見交換をする。	成、復習180分：模擬授業のための最終確認
第15回	橋本まさ子	模擬授業に向けての指導案の作成、教材作成。個別指導を実施する。模擬授業を行なう。 まとめ。	模擬授業方法について意見交換を実施する。	予習120分：模擬授業の準備、復習60分：授業のまとめ

教科書

よくわかる栄養教諭 －食育の基礎知識－第二版 藤澤良知 編 同文書院

参考書

栄養教諭は何をすべきか ぎょうせい
栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新現代の栄養教育実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 学期末レポート60%、指導案作成20%、課題20%などで評価

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがあるので、返却後学習の参考にすると良い。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になりので、授業への積極的な取り組む態度が後の教育実習を成功させる結果になります。

オフィス・アワー

授業終了後 適宜受け付けます。 9号館2階 第5研究室(橋本)

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C330

講義コード	30580001
講義名	食育論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

国内の食育に関する法律及び施策とその推進体制について理解し、実際の取組み事例から学びを深め、栄養士として食育の実践に必要な基礎知識を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人の体・食品・栄養」に関する学修を基礎とし、「健康・栄養」に係る現場において多様化する社会のニーズに対し、個人または集団を取り巻く社会的環境やライフステージ、生活習慣等を理解し、必要とされる食育を実践できる力を身につける。

到達目標

国内の食育に関する法律及び施策とその推進体制について理解し、様々な取組み事例の内容を説明できることを目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮本雄基	食育白書①（食育推進施策の基本的枠組み、食育推進施策をめぐる状況）	学習した内容をレポートにまとめ、学生間で共有する。	予習：配布資料を読む(90分) 復習：配布資料とノートを見直す(90分)
第2回	宮本雄基	食育白書②（家庭における食育の推進）	学習した内容をレポートにまとめ、学生間で共有する。	予習：配布資料を読む(90分) 復習：配布資料とノートを見直す(90分)
第3回	宮本	食育白書③（学校・保育所等におけ	学習した内容をレポートにまとめ、学生間で	予習：配布資料を読む(90分) 復習：配布資料

	雄基	る食育の推進）	共有する。	とノートを見直す(90分)
第4回	宮本雄基	食育白書④（地域における食育の推進）	学習した内容をレポートにまとめ、学生間で共有する。	予習：配布資料を読む(90分) 復習：配布資料とノートを見直す(90分)
第5回	宮本雄基	食育白書⑤（食育推進運動の展開）	学習した内容をレポートにまとめ、学生間で共有する。	予習：配布資料を読む(90分) 復習：配布資料とノートを見直す(90分)
第6回	宮本雄基	食育白書⑥（生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等）	学習した内容をレポートにまとめ、学生間で共有する。	予習：配布資料を読む(90分) 復習：配布資料とノートを見直す(90分)
第7回	宮本雄基	食育白書⑦（食文化の継承のための活動）	学習した内容をレポートにまとめ、学生間で共有する。	予習：配布資料を読む(90分) 復習：配布資料とノートを見直す(90分)
第8回	宮本雄基	食育白書⑧（食品の安全性・栄養等に関する情報提供の推進） これからの食育施策について 講義のまとめ	学習した内容をレポートにまとめ、学生間で共有する。	予習：配布資料を読む(90分) 復習：配布資料とノートを見直す(90分)

教科書

特に指定はせず、必要に応じて授業内で資料を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
レポート課題の提出80%、授業への主体的な参加20%

課題等に対するフィードバックの方法

課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。

履修のポイント

自ら考え、相互に意見交換を行えることが重要である。主体的かつ積極的に授業へ参加すること。

オフィス・アワー

火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C352

講義コード	30590001
講義名	食育論演習
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

すべてのライフステージおよび食育を必要とする様々な場での食育計画の立案、実施、評価の方法を学び、栄養士として食育が実践できる力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人の体・食品・栄養」に関する学修を基礎とし、「健康・栄養」に係る現場において多様化する社会のニーズに対し、個人または集団を取り巻く社会的環境やライフステージ、生活習慣等を理解し、必要とされる食育を実践できる力を身につける。

到達目標

対象に応じた効果的な食育計画の立案、実施、評価の方法について概説でき、様々な場面で食育を実践することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮本雄基	ガイダンス、ライフステージ別の食育場面と適切な内容		予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第2回	宮本雄基	家庭における食育計画		予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第3回	宮本	学校・保育所等における食		予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分）

	雄基	育計画		復習：配布プリントを見直す（30分）
第4回	宮本雄基	地域における食育計画		予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第5回	宮本雄基	食育推進のための取組		予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第6回	宮本雄基	農林漁業に関する食育計画		予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第7回	宮本雄基	食文化の継承に関する食育計画		予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第8回	宮本雄基	食品の安全性・栄養等に関する情報提供に関わる食育計画		予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第9回	宮本雄基	食育リーフレットの作成―対象に応じた効果的なリーフレットを考える①	小人数のグループでリーフレットを作成する。	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第10回	宮本雄基	食育リーフレットの作成―対象に応じた効果的なリーフレットを考える②	小人数のグループでリーフレットを作成する。	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第11回	宮本雄基	食育リーフレット発表会―リーフレットの評価	作成したリーフレットを各グループごとに発表し、相互に評価を行う。	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第12回	宮本雄基	集団指導における食育媒体の作成―対象に応じた効果的な媒体を考える①	グループで食育媒体を作成する。	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第13回	宮本雄基	集団指導における食育媒体の作成―対象に応じた効果的な媒体を考える②	グループで食育媒体を作成する。	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
				予習：授業内容に関

第14回	宮本雄基	集団指導発表会ー指導内容と媒体の評価①	作成した食育媒体を発表し、相互に評価を行う。	連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）
第15回	宮本雄基	集団指導発表会ー指導内容と媒体の評価②	作成した食育媒体を発表し、相互に評価を行う。	予習：授業内容に関連する事柄を調べておく（15分） 復習：配布プリントを見直す（30分）

教科書
特に指定はせず、必要に応じて授業内で資料を配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上 レポート課題の提出80%、授業への主体的な参加20%
課題等に対する フィードバックの方法
課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。
履修のポイント
自ら考え、相互に意見交換を行えることが重要である。主体的かつ積極的に授業へ参加すること。
オフィス・アワー
火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C372

講義コード	30600001
講義名	フードコーディネート論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

フードコディネートとは、食に関する場において、複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することである。それは食事の歴史、あるいは食文化といった背景、メニュープランニング、食空間コーディネートや食卓のサービス・マナーといった要因が複雑に関係して総合的に構築されるものである。本講義では、食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「おもてなし」にあることを学ぶ上で欠かすことのできない、フードコーディネートの基礎知識を習得すると共に、評価する手法についても併せて学習し、理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「健康・栄養」に係る現場において多様化する社会のニーズに対し、個人を取り巻く社会的環境やライフステージ、生活習慣等を理解し、総合的に判断した上で、適切なメニュープランニング、食空間の提案等ができるよう「フードスペシャリスト」の基盤となる学修を行うことを目指す。

到達目標

・フードコーディネートの基本理念であるおいしさの理論を習得する。
・食事の文化、料理様式についての知識を習得し、メニュープランニングの理論を習得する。
・食卓及び食空間のコーディネート、サービス、マナーについて基本的な知識を習得する。
・フードサービスマネジメントの知識と理論を習得する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	フードコーディネートの基本理念		予習90分：教科書(1章) 復習90分：教科書、ノート

第2回	食事の文化I		予習90分：教科書(2章) 復習90分：教科書、ノート
第3回	食事の文化II	履修者に身の回りの「特別な日(ハレの日)の食事」について発表させることで、身近な食文化等についてより深い理解を促す。	予習90分：教科書(2章) 復習90分：教科書、ノート
第4回	食卓のコーディネートI		予習90分：教科書(3章) 復習90分：教科書、ノート
第5回	食卓のコーディネートII		予習90分：教科書(3章) 復習90分：教科書、ノート
第6回	食卓のサービスとマナーI		予習90分：教科書(4章) 復習90分：教科書、ノート"
第7回	食卓のサービスとマナーII		予習90分：教科書(4章) 復習90分：教科書、ノート
第8回	メニュープランニングI		予習90分：教科書(5章) 復習90分：教科書、ノート
第9回	メニュープランニングII		予習90分：教科書(5章) 復習90分：教科書、ノート
第10回	講義のまとめI		予習90分：教科書(1～5章) 復習90分：教科書、ノート

第11回	食空間のコーディネートI		予習90分：教科書(6章) 復習90分：教科書、ノート
第12回	食空間のコーディネートII		予習90分：教科書(6章) 復習90分：教科書、ノート
第13回	フードサービスマネジメント	これまで学習した知識を基にフードサービスの企業を想定した課題を行う。	予習90分：教科書(7章) 復習90分：教科書、ノート
第14回	食企画の実践コーディネート		予習90分：教科書(8章) 復習90分：教科書、ノート
第15回	講義のまとめII		予習90分：教科書(1〜8章) 復習90分：教科書、ノート

教科書

三訂 フードコーディネート論(建帛社)

参考書

フードスペシャリスト資格認定試験集

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 確認試験60% 小テスト30% 課題10%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

・課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。

履修のポイント

本教科をより深く理解するには、日々の食事や食に関する情報に興味を持ち、積極的に情報を得る、または蓄積することが重要である。また、講義の内容が次の興味への手がかりとなることもあるので、積極的に授業へ参加すること。

オフィス・アワー

火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C353

講義コード	30610001
講義名	フードスペシャリスト論
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

フードスペシャリストの概念、世界及び日本の食、現代日本の食生活、食品産業の役割、品質規格と表示などの食に関する幅広い専門知識について学ぶ。
食に対する総合的・体系的な知識と技術、豊かで安全かつバランスの取れた食を消費者に提案できる力を持つ食の専門職資格の取得を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマ迄多角的に理解することを目指し、食全般の知識を養う。食に関する基本的な事柄やそれらの相互作用、学修の総合的な理解をして、健康・栄養に関わる現場での実践的活用や問題解決能力を習得できるようにする。

到達目標

フードスペシャリスト資格認定試験（毎年１回、本学科では２年次に実施）の合格および認定資格取得を目指す。食の本質がおいしさ・楽しさ・おもてなしにあることを学び、併せてこれらを支える専門知識（食品学、調理学、官能試験・鑑別論）を幅広く理解できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	フードスペシャリストとは フードスペシャリストの概念、業務とその専門性、養成と資格、活躍分野、責務		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
	人類と食物 人類の歩みと食物、	食品加工・保存技術についての意見交換、レポート作成	予習90分（教科書該当ページを読む）

第2回	食品加工・保存技術史	食品加工と保存技術について（伝統的・近代的・現代的）意見交換を行い、レポートにまとめて理解を深める	復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第3回	世界の食I 食作法、食の禁忌と忌避		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第4回	世界の食II 世界各地の食事情	世界の地域ごとの食事情についての意見交換、レポート作成 世界の地域（欧州、アジア、中東、北米、中南米、アフリカ、その他）の食の特徴や食事情について意見交換を行い、レポートにまとめて理解を深める。	予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第5回	日本の食I 日本の食物史（縄文時代～現代）		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第6回	日本の食II 食の地域差（野菜類、調味料、料理、他）		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第7回	現代日本の食生活I 戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活、食生活の変遷と食産業	日本の食生活の変遷についての意見交換、レポート作成 戦後日本の食生活に関わる変化現況について意見交換を行い、レポートにまとめて理解を深める。	予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第8回	現代日本の食生活II 食糧の供給と食料自給率、環境と食		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第9回	食品産業の役割I フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向・目的と特徴		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
			予習90分（教科

第10回	食品産業の役割II 食品卸売業、食品小売業、外食産業		書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第11回	食品の品質規格と表示I 食品の品質規格、表示に関わる法律、JAS法による規格、食品表示法による表示		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第12回	食品の品質規格と表示II 健康や栄養に関する表示制度、その他の法律による表示、コーデックス規格		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第13回	食情報と消費者保護I 食情報の発信と受容、食情報の濫用、食品の情報管理		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第14回	食情報と消費者保護II 食品の安全、消費者保護の制度		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）
第15回	まとめ 授業の振返りを行い理解を深める 資格認定試験過去問題（抜粋）のテスト		予習90分（教科書該当ページを読む） 復習90分（講義内容の理解、教科書の学習箇所を読み直す）

教科書

４訂フードスペシャリスト論（第６版・建帛社）

参考書

フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集（建帛社）

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上
筆記試験９０%、授業への参加度１０%（小テスト、課題提出、まとめ学習）

課題等に対する
フィードバックの方法

学習内容を深めるため、テーマを決めてレポート作成や意見交換の機会を設ける。
また授業内で学習した内容を返却基に小テストを行い返却および解答解説をするので、ファイル

などに保存をして資格試験に備えるようにしておく。
履修のポイント
学内講座の単位習得をふまえて資格認定試験を行うので、積極的な授業への取り組みをしてほしい。 関連する教科や科目の教科書をよく読み理解をする。食に関する新しい情報について敏感であること。
オフィス・アワー
月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号館３階第８研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C310

講義コード	30620001
講義名	基礎ゼミ（井桁）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士の専門知識を深めるためには、食品・栄養に関する事柄に対して多角的に取り組む意識をもってもらいたいと考える。履修授業で習得する内容をふまえた知識や技術の他に、卒後社会に関わる栄養士として必要になる心構え等を理解し、これからの栄養士業務に生かしていける学習内容にしたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品・栄養に関する情報に興味を持ちその内容について幅広く研究学習を行うことで、食品・栄養に関して基本的な事柄とそれら相互作用について理解する。
健康・栄養に係わる卒後の現場での実践的な活用と、問題解決能力を修得する。

到達目標

身近な問題から多角的なテーマまでを幅広く研究し、栄養士として実践を重視したあらゆる現場の分野で活動できる人材像を目指す。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	基礎ゼミの概要説明、計画の立て方		予習30分（研究の希望計画） 復習60分（テーマ決定の準備・検索）
第2回	各自研究テーマを決める 内容・工程の連絡、次回の準備	各研究テーマに対する意見交換を行う 食に関する事柄から内容を広げていき、各自が興味や関心を持ったものをテーマにまとめ、意見交換をして決めていく	予習30分（研究テーマの計画） 復習60分（演習の準備）
	テーマ別に内		予習30分（次回演習の準備）

第3回	容実施、資料の検索		復習60分（演習内容の確認チェック）
第4回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第5回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック、課題レポートの準備）
第6回	テーマ別に内容実施、資料の検索 【課題】中間報告のレポート提出		予習30分（課題レポートの準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第7回	経過報告の発表（検討会）	各研究の進捗状況を発表 意見交換および情報の提示を行う 前回提出し添削された中間報告レポートをもとに、今後の方針（実験や実習形態を伴う場合はその計画案）を再考・立案する	予習30分（中間発表の準備） 復習60分（発表後の内容検討、まとめに向けた準備計画）
第8回	テーマの再検討 期末まとめに向けた準備		予習30分（検討内容の確認） 復習60分（次回演習の準備）
第9回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第10回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第11回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第12回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第13回	テーマ別に内容実施 期末まとめの作成		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（期末まとめの作成内容チェック）
第14回	期末まとめの作成 【課題】期末まとめの提出		予習30分（期末まとめの確認） 復習60分（提出内容の確認、経過発表の準備）
		各研究まとめ状況を発表 意見交換および情	

第15回	基礎ゼミのまとめ（各自経過発表） 提出レポートのチェック（後期に向けて）	報の提示を行う 前回提出の期末まとめを全員で可視化（パワーポポイント若しくは書面）した状態で状況報告を行う。 ゼミ全体で発表ができる機会を得られる際はその方針を出して計画案を検討する（大学祭研究発表）	予習30分（経過発表の準備） 復習60分（発表後の確認、後期に向けての準備）

教科書
特になし
参考書
研究テーマに応じて図書等の検索を行う。
成績評価の方法・基準
単位認定６０点以上。 発表内容７０%、提出物３０%。
課題等に対する フィードバックの方法
基礎ゼミでは年間通して研究するテーマの骨組みを作る作業を主とする。 提出課題（中間および期末まとめの提出）は添削コメントを添えて返却するので、今後の授業と研究方針立案の参考にすること。
履修のポイント
食についての意識を広く持って、積極的に学習してほしい。年間通しての研究結果をまとめるので、日頃からの情報収集や記録（パソコン技能）の技術を身につけること。
オフィス・アワー
月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号館３階第８研究室。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R354

講義コード	30620002
講義名	基礎ゼミ（橋本）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士を目指す人は食に関して必要な知識について興味を持って欲しい。そのために本授業では、食生活・食文化の内容に趣を置きそれぞれの興味のある分野について研究する。また、基礎ゼミでの研究を通して、栄養士として必要な知識、技能、態度、心構えなどを学ぶために行うことを目標にし、社会における食品・栄養の実際を観察し、また体験し、さらに経験や体験を積むことにより、栄養士の必要性についての理解を深め、これからの栄養士業務に生かしていけるような内容のゼミとし、社会で活躍できる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題としてとらえて幅広い観点から食に関する情報に興味を持ってもらえるような内容について学習・研究することにより、栄養士としてのスキルを身につけることをめざす。

到達目標

これから必要とされる栄養士になるためには、どのような内容を知らなければならないのかを判断できるようなることが到達目標である。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	授業の進め方、概要の説明、計画		事前準備(研究題材等を収集する）に90分
第2回	内容、工程の連絡、次回の準備	研究テーマについて意見交換	次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第3回	テーマ別に実施 資料の収集等 テーマについては、個人共同は学生に選ばせる		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
	テーマ別に実施 資料		

第4回	の収集等 個別指導の実施		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第5回	テーマ別に実施 資料の収集等 個別指導の実施		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第6回	テーマ別に実施 資料の収集等 個別指導の実施		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第7回	各内容別に発表、内容検討 審査	それぞれの内容について、意見交換をし、次回の発表の参考にする	次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第8回	発表後 テーマの検討 まとめ準備	情報交換を実施する。	次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第9回	テーマ別に実施 まとめ準備		次回の準備として120分以上、復習に90分以上
第10回	テーマ別に実施 まとめ準備		次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第11回	テーマ別に実施 まとめ準備。		次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第12回	テーマ別に実施。		次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第13回	テーマ別に実施、製作準備。		製次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第14回	実技（製作）。		次回の準備として180分以上、復習に90分以上
第15回	基礎ゼミのまとめ レポートにする。	発表後意見交換	事前準備に180分以上予習が必要である。

教科書

必要に応じて資料配布

参考書

テーマに応じて紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 発表内容70%、提出原稿30%

課題等に対する
フィードバックの方法

ゼミで研究したもの及び作成したものは、学園祭等で発表する。その後各自に返す。

履修のポイント

積極的な学習方法を望む、食品について感心を持ってもぞむこと

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（昼休み）授業終了後、随時 9号館2階第5研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30620003
講義名	基礎ゼミ（中島）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

調理をいう視点から食教育について考え、文献等の資料から 発表 → ディスカッション という流れの中でゼミを進めていく。環境、咀嚼、災害をテーマにエコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキングについても実習を含め学習する。また、大豆製品を利用したレシピコンテストに参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」「調理科学」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・調理を通じて「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深める。
・エコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキングについて学習することで調理の多様性を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	中島君恵	授業概要について		予習30分：環境、咀嚼、災害に関する新記事の収集。復習30分：配布資料を見直す。
第2回	中島	私たちの食生活と環境のかかわり	履修者に調理と環境について意見交換を行い、テーマについて理解するきっかけを作る。また私たちの食生活とと環境について解説して理解	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復

	君恵	について文献等を読む。	を深め、再度エコクッキングについて意見交換する。	習30分：配布資料を見直す。
第3回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	咀嚼と調理について、文献等を読む。	履修者に調理と咀嚼について意見交換を行い、テーマについて理解するきっかけを作る。また私たちの食生活とと環境について解説して理解を深め、再度カムカムクッキングについて意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第10回	中島君恵	災害と調理について、文献等を読む。	履修者に調理と環境、調理と咀嚼、調理と災害について意見交換をさせて、環境問題について理解するきっかけを作る。また私たちの食生活とと環境について解説して理解を深め、再度ポリクッキングについて意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第11回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第12回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
				30

第13回	中島君恵	咀嚼と調理についてまとめる。		予習　分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第14回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第15回	中島君恵	まとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書
教科書は使用せず、プリントを配布する予定
参考書
環境がわかる絵本
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上 レポート80% プレゼンテーション（発表）20%
課題等に対する フィードバックの方法
全般に対する講評と重要項目についての解説を記述したプリントを配布するので、活用すること。
履修のポイント
食と環境の視点を持ち、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。
オフィス・アワー
水曜日、12：30〜13：20(昼休み)、９号館３階第７研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R354

講義コード	30620004
講義名	基礎ゼミ（橋爪）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

四季折々の食材を実際に手にしたり、調理したり、ときには栽培してみたりして「旬」の味を学ぶ。季節ごとの野菜や果物を使い、昔ながらの保存食や乾物づくりを行う。春から夏にかけて各種の果物や野菜を使い保存食を作る。同時に、簡単な野菜栽培にもチャレンジする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

季節ごとに収穫できたり、収穫されたりする食材を知り、自分で調べた活用方法等をゼミノートにまとめて提出する。生活科学科のディプロマポリシーとの関連について、「食品」「栄養」に関する基礎的な知識を習得し、「健康」「栄養」「食」に関係する現場で実践的に活用し、問題解決できる能力を養う。

到達目標

春から夏にかけて旬を迎えるさまざまな食材を知り、その活用法を実践的に身につける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	植物や花を育てる際の基本的な手順を学ぶ。終了後、学習内容と作業内容を、レポートにまとめて提出する（以下同じ）。		復習としてゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（180分）。
第2回	橋爪博幸	春夏野菜のひとつインゲンやチャイルドリーフの栽培方法、調理方法をしらべ、まとめる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
	橋			予習として事前配布したプリントから大事なところをノー

第3回	爪博幸	キュウリ、ナス、バジルなど夏野菜の育て方、調理活用方法を調べ、まとめる。		トに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第4回	橋爪博幸	夏野菜の代表格であるトマト、ピーマンの育て方、多様な調理方法を調べてまとめる。	トマトやピーマンの栽培方法を調べ、それらの苗を受けつける。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第5回	橋爪博幸	トマト、キュウリ等のつる植物について支柱への誘引、摘心などの栽培方法を知る。この時期に旬を迎えるソラマメについて収穫方法、調理方法を学ぶ	キュウリの栽培方法を調べ、じっさいに苗を植えつける。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（45分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（45分）。
第6回	橋爪博幸	タケノコを活用した炒め物や保存食づくりを学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（45分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（45分）。
第7回	橋爪博幸	小梅の塩漬け、そして「梅ジャム」など梅を活用した保存食づくりの方法を学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第8回	橋爪博幸	甘酢漬けラッキョウ、新ショウガの甘酢漬けなど香味野菜を使った保存食づくりを学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第9回	橋爪博幸	ニンニクや玉ねぎなど、この時期に収穫期を迎えるユリ科植物の活用事例を学ぶ。	玉ねぎやニンニクの収穫作業とそれらの活用方法を図書館で調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第10回	橋爪博幸	キュウリのピクルスまど、キュウリを使った保存食にはどのようなものがあるかを調べる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第11回	橋爪博幸	６月から７月に収穫されるサンショウの実の活用方法を学ぶ。ちりめんサンショウなど、サンショウの実を使ったピリリとしたさわやかなお惣菜の作り方を調べる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
				予習として事前配布したプリ

第12回	橋爪博幸	夏野菜をふんだんに使った保存食を知る。		ントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第13回	橋爪博幸	バジルの活用事例を学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第14回	橋爪博幸	トマトの栽培方法を振り返り、トマトソースなど保存食づくりの方法を学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第15回	橋爪博幸	前期に触れた野菜や果物について振り返り、調理方法を一覧表にまとめる。全員で前期の作業内容を振り返る。秋以降に収穫される野菜にはどのようなものがあるか調査する。	ゼミノートを各自で完成させ、提出する。	復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（180分）。

教科書

ゼミの授業のなかで適宜、プリントを配布する。

参考書

『家仕事ごよみ』（地球丸、２０１２年）

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 授業レポート（50%）、授業への取り組み（50%）をもとに評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

ゼミの実施後にノートを回収し、こちらでコメントや補足説明を書いて戻す。

履修のポイント

休まず出席すること。さまざまな食材について、新聞等で授業に関係する記事を探し読んでおく。適宜、ゼミノートに追記していくことを勧める。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第６研究室に来ること。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30620005
講義名	基礎ゼミ（石井）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミでは、栄養士として研究を進めていくうえで必要なリサーチリテラシーについて、課題発見や情報の収集・整理、読解そして分析について、学習しながら、実際に各自でテーマを探して進めていけるようになることを目標とする。
テーマとしては、主にインターネット上にある、食に関わる情報を中心に設定するが、それ以外でも各自の興味に応じて可能な範囲で対応をしていく。例えば、インターネット上の食に関わる情報にはどのようなものがあるか調べ、文献を収集し、同時にそれらの分析を行うには、どのような手法があるか検討していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のDP「家庭生活に対して、大きな影響を与える社会のさまざまな現象を科学的に理解するため、衣食住に関する基本的なことがらを学修し、さらにそれを取り巻く社会的環境 について科学的に学修」に関連し、食と情報をテーマに学習する。

到達目標

リサーチリテラシーについて理解し、各自でテーマを設定して、情報の収集・整理が行える。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス		予習30分：普段インターネットで利用している食の情報について調べる 復習30分：資料の見直し
第2回	課題の発見（1）		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第3回	課題の発見（2）	前回の内容をもとに、各自でインターネットなどを活用して調べ、大まかな課題を設定する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
	情報の収集		予習30分：資料を読む

第4回	（1）		復習30分：資料の見直し
第5回	情報の収集（2）	インターネットや図書館などを利用して情報を収集する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第6回	情報の整理（1）		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第7回	情報の整理（2）	収集した情報を、PC上で整理し管理する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第8回	情報の整理（3）	収集した情報を、PC上で整理し管理する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第9回	読解（1）		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第10回	読解（2）		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第11回	データ分析（1）		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第12回	データ分析（2）		予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第13回	研究計画書の作成（1）	今までの内容をもとに、各自で研究計画書を作成する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第14回	研究計画書の作成（2）	今までの内容をもとに、各自で研究計画書を作成する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し
第15回	研究計画書の発表と基礎ゼミのまとめ	それぞれの研究計画書を発表し、討議する	予習30分：資料を読む 復習30分：資料の見直し

教科書

特になし

参考書

「アカデミック・スキルズ」（佐藤望編著）慶應義塾大学出版会
「大学生のためのリサーチリテラシー入門」（山田剛史・林創著）ミネルヴァ書房
他、適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上（レポート：60%、発表：30%、討議：10%）

課題等に対するフィードバックの方法

授業中にコメントする

履修のポイント

各自で進められるテーマを設定することが大切です。

オフィス・アワー

火曜日昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30620006
講義名	基礎ゼミ（宮本）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

「食は常に安心・安全なものでなければならない」これをテーマにゼミを行います。そこで、基礎ゼミでは食品衛生の観点から、過去に起きた食中毒事件に学び、その後どのような対策がなされているのかについて調べ、理解を深めます。食品衛生にかかわる知識を学び、予防と対処について理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品衛生(特に過去の事例)を学ぶことは、「人間のからだ」と「食品」に関する相互作用についても併せて理解を深めることとなる。また、広範に渡り影響を与えた事例となると生活を取り巻く社会的環境についても理解することになる。そして、解決に向けたプロセスなどを学習することで、その学びが現場で実践的に活用され、問題を解決できる能力となる。

到達目標

過去の食中毒等の食に関する事例に学び、その後行われた法整備等について理解する。また、それらの背景を深く理解することで、自身がそのような場面に遭遇した際の対処方法を検討できるスキルを身につけることを到達目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮本 雄基	授業の進め方と概要の説明、計画作成		予習：30分 復習：30分
第2回	宮本 雄基	導入講義 テーマの設定及び意見交換(個人またはチーム)	設定したテーマについて、理由等を意見交換する。	予習：30分 復習：30分
第3回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第4回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分

第5回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第6回	宮本 雄基	プレゼンテーション準備		予習：60分 復習：60分
第7回	宮本 雄基	プレゼンテーション準備		予習：60分 復習：60分
第8回	宮本 雄基	プレゼンテーション1	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第9回	宮本 雄基	プレゼンテーション2	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第10回	宮本 雄基	中間まとめ テーマの検討		予習：60分 復習：60分
第11回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第12回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第13回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第14回	宮本 雄基	プレゼンテーション3	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第15回	宮本 雄基	基礎ゼミのまとめ 衛生試験法について講義		予習：60分

教科書

教科書は指定せず、必要に応じて印刷物を配布予定

参考書

食品衛生学 田﨑達明ほか 羊土社
その他必要に応じて連絡する

成績評価の方法・基準

プレゼンテーション：20%、レポート：80%で評価する。単位認定は60点以上とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題実施後その都度。また、全体でのディスカッションの場を通して、教員を含め相互に講評ができる環境としたい。

履修のポイント

食を学修する者として、基本となることを学びます。好奇心をもち、主体的に取り組むことを望みます。

オフィス・アワー

火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R354

講義コード	30630001
講義名	専門ゼミ（井桁）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士の専門知識を深めるためには、食品・栄養に関する事柄に対して多角的に取り組む意識をもってもらいたいと考える。履修授業で習得する内容をふまえた知識や技術の他に、卒後社会に関わる栄養士として必要になる心構え等を理解し、これからの栄養士業務に生かしていける学習内容にしたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品・栄養に関する情報に興味を持ちその内容について幅広く研究学習を行うことで、食品・栄養に関して基本的な事柄とそれら相互作用について理解する。
健康・栄養に係わる卒後の現場での実践的な活用と、問題解決能力を修得する。

到達目標

身近な問題から多角的なテーマまで幅広く研究し、栄養士として実践を重視したあらゆる現場の分野で活動できる人材像を目指す。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	専門ゼミの概要説明、計画の立て方	研究発表（大学祭）の希望計画・構成の意見情報交換を行う 基礎ゼミ最終回にて検討・計画立案した内容（大学祭研究発表）を検討し、詳細立案の形にしていく	予習30分（基礎ゼミの実施内容確認） 復習60分（次回演習の準備）
第2回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第3回	テーマ別に内容実施、		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の

	資料の検索		確認チェック）
第4回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第5回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第6回	テーマ別に内容実施、資料の検索 【課題】中間報告のレポート提出		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック、課題レポートの準備）
第7回	経過報告の発表（検討会）	各研究の進捗状況を発表 意見交換および情報の提示を行う 前回提出添削を受けた報告レポートを元に完成形（論文の形式に則った文章）を構成できるようにする 併せてパワーポイントを使用した発表会の予告も行う	予習30分（中間発表の準備） 復習60分（発表後の内容検討、まとめに向けた準備計画）
第8回	検討会後の内容確認 期末まとめに向けた準備		予習30分（検討内容の確認） 復習60分（次回演習の準備）
第9回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第10回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第11回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第12回	テーマ別に内容実施、資料の検索まとめ冊子の作成		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第13回	テーマ別に内容実施、資料の検索まとめ冊子の作成		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第14回	【課題】まとめ冊子の作成・提出 発表会の準		予習30分（提出冊子の確認） 復習60分（発表会の準

	備		備）
第15回	報告会 専門ゼミのまとめ	各研究の報告発表 質疑応答および意見交換を行う パワーポイントを使用した報告会（時間設定を課した口頭発表、質疑応答）を行い、１年間のゼミ全体活動を振り返る	予習30分（発表内容の確認） 復習60分（年間通してのゼミ研究結果記録を整理まとめ）

教科書

特になし

参考書

研究テーマに応じて図書等の検索を行う。

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上。
発表内容７０%、提出物３０%。

課題等に対する
フィードバックの方法

基礎ゼミで決めた研究テーマの骨組みを基に、専門ゼミでは実践（大学祭での発表）を目指す。
また最終報告として各自の内容をテーマ別に発表し講評を行う。
提出課題（中間およびまとめの提出）は添削コメントを添えて返却するので、授業学習のまとめの参照にすること。

履修のポイント

食についての意識を広く持って、積極的に学習してほしい。年間通しての研究結果をまとめるので、日頃からの情報収集や記録（パソコン技能）の技術を身につけること。

オフィス・アワー

月・火曜日、１２：３０～１３：２０、９号館３階第８研究室。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R374

講義コード	30630002
講義名	専門ゼミ（橋本）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミでは、食に関する事柄（食生活・食文化等）について、研究・体験することにより知識を深め、社会における食品・栄養について経験や体験さらには観察等を実施した。専門ゼミでは、継続を実施し、さらに内容については深める学習を行い、これからの食の専門家として社会で活躍できる学生の育成が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーに関連として、生活を取り巻く環境について科学的に理解できるよ基礎ゼミで研究したことをさらに深めて研究し、栄養士としての知識を身につけて、資格取得をする。

到達目標

これから必要となる栄養士になるためには、どのような内容を知らなければならないのかを考えられるように、常に食情報には関心を持った学習内容とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	概要の説明、計画 基礎ゼミのテーマを引き継ぐ	基礎ゼミの内容について振り返り、意見交換をする。	事前準備のために各90分以上
第2回	テーマ別に実施 資料の収集等 今後の取り組みについて個別指導		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第3回	テーマ別に実施 資料の収集等		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第4回	テーマ別に実施 資料の収集等		事前準備のために60分以上、復習に120分以上

第5回	テーマ別に実施 資料の収集等	学園祭に向けてテーマを決めるための意見交換をする。	事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第6回	各内容別に発表、内容検討 審査 学園祭で発表するものの準備（共同作業）		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第7回	発表：学園祭に発表するものについて 情報共有する		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第8回	発表後 テーマの検討 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第9回	テーマ別に実施 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第10回	テーマ別に実施 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第11回	テーマ別に実施 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第12回	テーマ別に実施 まとめ準備		事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第13回	まとめ		事事前準備のために60分以上、復習に120分以上
第14回	冊子にまとめる	報告会への準備のための意見交換会	事前準備のために120分以上、復習に120分以上
第15回	報告会		事前準備のために180分以上

教科書
各テーマ別に使用する
参考書
テーマ別に準備する
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上 発表内容40％、提出原稿60％
課題等に対する フィードバックの方法
提出後採点して返す
履修のポイント
積極的な学習方法を望む、食品について感心を持ってのぞむこと、まとめをしっかりすること
オフィス・アワー
月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または授業終了後、随時 9号館2階 第5研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R374

講義コード	30630003
講義名	専門ゼミ（中島）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミで学習した環境、咀嚼、災害をテーマにエコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキングについてさらに学習を進める。また、最近増加する食物アレルギー対応食についても学習を行う。文献等の資料収集から、発表 → ディスカッション という流れの中で理解を深め、ゼミを進めていく。またテーマを設定して実習を行う。
栄養士という視点から健康、環境、咀嚼、災害とについての理解を深め、実際にメニュー考案し調理する技術を身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・「健康・栄養」に係る調理を中心にした生活を科学的に理解を深める。
・エコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキング、食物アレルギー食の料理を考案する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	中島君恵	授業概要についてエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングについて		予習30分：環境、咀嚼、災害に関する新聞記事を収集する。復習30分：配布資料を見直す。

第2回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングについて	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングを実施しての意見交換をさせてまとめ、理解を深める。咀嚼の効果について意見交換をさせ、咀嚼について理解するきっかけを作る。また咀嚼と脳の発達について解説して理解を深め、再度咀嚼について意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第3回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング(実習I)		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング(実習I)		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング 実習Iまとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング 実習まとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてま		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直

		とめる。		す。
第10回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第11回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第12回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングの中からテーマを選び、パワーポイントを用いてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第13回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング(実習II)		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第14回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキング(実習II)	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングを実施しての意見交換及びまとめを行い、理解を深める。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第15回	中島君恵	まとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書
教科書は使用せず、プリントを配布する予定
参考書
脳を豊かにする「食脳学」
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上 レポート80% プレゼンテーション（発表）20%
課題等に対する フィードバックの方法

提出されたレポートは返却しない。全般に対する講評と重要項目についての解説を記述したプリントを配布するので、活用すること。
履修のポイント
食と健康の視点を持ち、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。
オフィス・アワー
水曜日、12：30～13：20(昼休み)、９号館３階第７研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R374

講義コード	30630004
講義名	専門ゼミ（橋爪）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

前期の基礎ゼミに引き続いて、季節ごとの食材をテーマに、実践を交えて活用方法を学ぶ。また専門ゼミでは各自でテーマを決めて、１０枚のレポートを仕上げて、提出する。後期のゼミでは、秋から冬にかけて収穫時期を迎える野菜や果物を使い、保存食や乾物、漬物づくりを行う。四季折々の食材を手にし、調理し、ときには栽培して「旬」を学び、一年間の自然食材のサイクルを追う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

秋から冬にかけて実りの時期を迎える野菜や果物といった食材の利用方法を知る。どのようなものが実り、いかに加工できるかを知る。それらの食材をじっさいに味わい、一年間にわたる食材の収穫サイクルを知り、卒業後も季節ごとの食材をタイムリーに活用できるようにする。生活科学科のディプロマポリシーとの関連について、「食品」「栄養」に関する基礎的な知識を習得し、「健康」「栄養」「食」に関係する現場で実践的に活用し、問題解決できる能力を養う。

到達目標

専門ゼミでみていく食材について知識を深め、またそれらの活用方法を実践活動を通じて身につける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	後期の専門ゼミの予定を確認する。秋野菜にはどのようなものがあるかを調べる。	秋野菜の種まきを行う。栽培の注意点をコンピュータ演習室などでしらべゼミノートにまとめる。レポート課題を各自で設定し、調査を開始する。	復習としてゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（180分）。
				自己学習として１０枚

第2回	橋爪博幸	白菜、キャベツの栽培方法、調理方法について調べる。		レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第3回	橋爪博幸	ブロッコリー、カリフラワーの生育方法、調理方法を調べる。	秋野菜の栽培方法についてコンピュータ室などで調べる。	自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第4回	橋爪博幸	大根の種類や、そのさまざまな加工用途を調べ、まとめ発表する。		自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第5回	橋爪博幸	秋の味覚のひとつ栗の活用方法を知る。栗の甘煮の作り方を学ぶ。		自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第6回	橋爪博幸	秋から冬にかけての晴天の天日を利用してできる乾物の保存食に適した食材を調べる。干しイモ、干し大根の作り方を知る。		自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第7回	橋爪博幸	たくあん漬け、ダイコンのゆず漬けなど、漬物の仕込み方法を学ぶ。		自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第8回	橋爪博幸	キウイのジャム、リンゴのコンポートやジャムなど、秋冬に収穫された果物の活用方法を知る。		自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第9回	橋爪博幸	秋に収穫時期を迎える、ラッカセイを使ったレシピを調べる。	落花生の収穫作業を行い、落花生の活用方法を調べる。	自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。

第10回	橋爪博幸	秋冬に収穫されるサツマイモなど、イモ類を使ったレシピを調べ、まとめる。	サツマイモの収穫作業を行い、貯蔵の方法について図書館やコンピュータ演習室で調べる。	自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第11回	橋爪博幸	白菜づけ、白菜キムチなど、白菜を使った保存食にはどのようなものがあるかを調べる。		自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第12回	橋爪博幸	ショウガを活用した保存食にどのようなものがあるかを調べ、まとめる。		自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第13回	橋爪博幸	冬野菜の代表格であるホウレンソウの活用事例を学ぶ。	ホウレンソウを収穫し、調理実習で活用する。	自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第14回	橋爪博幸	多くの野菜を活用した福神漬けの作り方を調べる。		自己学習として１０枚レポートの一部を作成する（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。
第15回	橋爪博幸	これまでの一年間にわたって学んできた保存食から学んだことを振り返り、一枚の用紙にまとめる。＜アクティブラーニング＞調査したレポートを各自でまとめて発表する。	ゼミノート、およびレポートを完成させ、提出する。	復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（180分）。

教科書

随時、プリントを配布する。

参考書

『家仕事ごよみ』（地球丸、２０１２年）、『秋・冬の野菜 (旬の食材)』（講談社、２００４年）など。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 ノートやレポート（50%）、授業への取り組み（50%）をもとに評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

ゼミの実施後にノートを回収し、こちらでコメントや補足説明を書いて戻す。後期の専門ゼミでは、各自で調査テーマを決めてA4用紙10枚のレポートを作成する。授業時間だけでは足りない場合は、専門ゼミ以外の時間でも、調査レポートの作成にとりくむこと。レポートはこちらでコメントを書き入れ、返却する。
履修のポイント
専門ゼミの最終回に、調査レポート（A4用紙１０枚）を提出すること。休まず出席すること。
オフィス・アワー
水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第６研究室に来ること。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R374

講義コード	30630005
講義名	専門ゼミ（石井）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

専門ゼミでは、基礎ゼミで取り組んできた基礎的な内容と、そこで設定したテーマについて、各自で研究を進める。そして研究の内容をまとめて発表し、討議をしながら、最終的なレポートとしてまとめ上げる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のDP「家庭生活に対して、大きな影響を与える社会のさまざまな現象を科学的に理解するため、衣食住に関する基本的なことがらを学修し、さらにそれを取り巻く社会的環境 について科学的に学修」に関連し、食と情報をテーマに学習する。

到達目標

リサーチリテラシーについて理解し、各自のテーマに従って研究を進めることができる。
研究の内容をレポートとしてまとめることができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス 専門ゼミの進め方		予習30分：基礎ゼミの復習 復習30分：資料の見直しと振り返り
第2回	研究データの収集（1）	各自で必要なデータを収集する	予習30分：収集するデータを確認する 復習30分：課題点を確認する
第3回	研究データの収集（2）	各自で必要なデータを収集する	予習30分：収集するデータを確認する 復習30分：課題点を確認する
第4回	研究データの収集（3）	各自で必要なデータを収集する	予習30分：収集するデータを確認する 復習30分：課題点を確認する
	研究データの分析	収集したデータの分	予習30分：収集したデータの分析方

第5回	（1）	析をする	法を確認する 復習30分：課題点を確認する
第6回	研究データの分析（2）	収集したデータの分析をする	予習30分：収集したデータの分析方法を確認する 復習30分：課題点を確認する
第7回	研究データの分析（3） 中間まとめの資料作成	収集したデータの分析をする	予習30分：収集したデータの分析方法を確認する 復習30分：課題点を確認する
第8回	中間まとめの発表		予習30分：ここまでの内容をまとめる 復習30分：課題点を確認する
第9回	研究レポートの作成（1）		予習30分：今までの資料を確認する 復習30分：課題点を確認する
第10回	研究レポートの作成（2）	各自でレポートの作成を進める	予習30分：前回までの内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第11回	研究レポートの作成（3）	各自でレポートの作成を進める	予習30分：前回までの内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第12回	研究レポートの作成（4）	各自でレポートの作成を進める	予習30分：前回までの内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第13回	研究レポートの発表準備（1）	発表用資料を作成する	予習30分：レポートとしてまとめた内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第14回	研究レポートの発表準備（2）	発表用資料を作成する	予習30分：前回までの内容を確認する 復習30分：課題点を確認する
第15回	研究の発表とまとめ		予習30分：まとめた資料を確認する 復習30分：全体を通して振り返りをおこなう

教科書

特になし

参考書

「アカデミック・スキルズ」（佐藤望編著）慶應義塾大学出版会
「大学生のためのリサーチリテラシー入門」（山田剛史・林創著）ミネルヴァ書房
他、適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上（レポート：60%、発表：30%、討議：10%）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業中にコメントする

履修のポイント

最終的に形にすることが重要です

オフィス・アワー

火曜日昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-R374

講義コード	30630006
講義名	専門ゼミ（宮本）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

「食は常に安心・安全なものでなければならない」これをテーマにゼミを行います。
そこで、専門ゼミでは、基礎ゼミで学んだ過去の事例及びその後の対策などから各個人が興味を持ったテーマについて、衛生試験手法を実験的に学びを深め、食品衛生にかかわる知識について一層理解を深めることを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだ」と「食品」に関する相互作用について、専門ゼミでは実験等を含めて理解を深めていただきます。そして、実験を通して物質または微生物等について学習し、その学びが危害防止という意味で実践的に活用される知識・能力となります。

到達目標

実験を通して、食品衛生に関与する事象を深く理解してもらいます。そして、食品衛生に関する予防的視点を身につけることを到達目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮本 雄基	授業の進め方と概要の説明、計画作成		予習：60分 復習：60分
第2回	宮本 雄基	導入講義 テーマの設定及び意見交換(個人またはチーム)	設定したテーマについて、理由等を意見交換する。	予習：60分 復習：60分
第3回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第4回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第5回	宮本	実験研究		予習：60分

	雄基	個別指導		復習：60分
第6回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第7回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第8回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第9回	宮本 雄基	中間報告会	互いの状況を報告し、意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第10回	宮本 雄基	プレゼンテーション準備 資料作成		予習：60分 復習：60分
第11回	宮本 雄基	プレゼンテーション準備 資料作成		予習：60分 復習：60分
第12回	宮本 雄基	研究報告	互いの発表について、意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第13回	宮本 雄基	まとめレポート作成		予習：60分 復習：60分
第14回	宮本 雄基	まとめレポート作成		予習：60分 復習：60分
第15回	宮本 雄基	専門ゼミのまとめ 今後必要となる食品衛生に関する基礎事項の講義		予習：60分 復習：60分

教科書

教科書は指定せず、必要に応じて印刷物を配布予定

参考書

食品衛生学 田﨑達明ほか 羊土社
その他必要に応じて連絡する

成績評価の方法・基準

プレゼンテーション：30%、レポート：70%で評価する。単位認定は60点以上とする。

課題等に対するフィードバックの方法

課題実施後その都度。また、全体でのディスカッションの場を通して、教員を含め相互に講評ができる環境としたい。

履修のポイント

食を学修する者として、基本となることを学びます。好奇心をもち、主体的に取り組むことを望みます。

オフィス・アワー

火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-R374

講義コード	30640001
講義名	オフィスワーク
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

オフィスワークでは、職場での勤務の実際を学習する。この講座では、主に企業経営・実務に関する業務の知識について、また現実の日常業務に関する基礎知識および技術について、学習する。原則として、一般企業におけるオフィスワークを想定しているが、あらわる職場に通用する知識・技術について、数多く学習する予定である。また、医療現場で働く人にとって、最低限のマナー・知識について習得できるような学習も行っていく。
本講座により、社会人として職場で働くために必要な共通の最低限度の知識を修得し、また医療現場の事務職として働くために必要不可欠な知識を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

家庭生活に対して大きな影響のある社会のさまざまな現象、及びそれを取り巻く社会的環境について科学的に学修することを目的とする。

到達目標

１．職場において共通する基本的知識および職場における最低限のマナーを理解する。
２．文書のまとめ方、言葉づかいの基礎について学習する。
３．医療秘書資格取得に必要な知識を修得する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	授業の方針・方法の説明をした後、ビジネスにおける心構え、また医療現場で働く人の心構えを学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分： シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウトに記載してある内容を読んで、復習する。
			予習90分： ハンドアウト

第2回	ビジネスの現場での言葉づかいや医療現場での言葉づかいについて、具体的に学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		第2回を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載して内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第3回	ビジネスマナーとして、訪問時のマナー、会社内で執務する際のマナーについて学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分： ハンドアウト第3回を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第4回	ビジネスマナーとして、電話のかけ方や受け方、電話での話し方、会社の窓口での来客応対方法、話し方・聞き方を学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分： ハンドアウト第4回を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第5回	仕事において、必要とされるスケジュール管理，出張，ファイリング，情報管理，慶弔などについてのビジネス実務の知識を学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分： ハンドアウト第5回を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第6回	労働環境として、給与・報酬・手当などがどのような体系となっているのか、また給与から差し引かれる税金・社会保険について、学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分： ハンドアウト第6回を読む。 復習90分：ハンドアウト第6回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第7回	労働者保護のしくみとして、法令で定められている具体的内容、会社による福利厚生の具体例について学習する。また、主な労使間の具体的なトラブルについて、学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。	調べてきた労使間の具体的トラブルを発表する。	予習120分： ハンドアウト第9回を読む。労使間の具体的トラブルを調査しておく。 復習60分：ハンドアウト第9回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第8回	ビジネスの現場で使われる文書の様式について学習し、ビジネス文書はどのようにまとめたらいいのかについて、学習する。ここで学習した知識・技術を使って、ビジネス文書を作ってみる演習を行う。		予習90分： ハンドアウト第8回を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第9回	作成されたビジネス文書例を検討する。 まとめのテスト(40分)を実施する。	前回作成したビジネス文書例を発表	予習90分： ハンドアウト第9回を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある内容を読んで、復習する。返却

		する。	されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第10回	医療秘書実務に関するルールを学習する。		予習90分：事前に配布された課題をやってくる。 復習90分：返却されたまとめのテストについて、誤りを復習する。第10回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤りを復習する。
第11回	まとめのテストの解答の提示および解説を行う。 医療秘書実務問題演習(1)医療及び医療保険等に関わる法令に関する問題演習を行う。		予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第11回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第12回	医療秘書実務問題演習(2)医療保険等に関わる法令に関する問題演習を行う。		予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第12回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第13回	医療秘書実務問題演習(3)診療報酬請求に関する実務について問題演習を行う。		予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第13回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第14回	医療秘書実務問題演習(4)診療報酬請求に関する実務について問題演習を行う。		予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第14回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第15回	医療秘書実務問題演習(5)診療報酬請求に関する実務について引き続き問題演習を行う。 医療秘書実務において、重要な部分を復習する。		予習120分： 事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第15回の行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。

教科書

医療秘書関係科目の教科書(『メディカルシステム論』『診療報酬請求の実務』『医科診療報酬点数表』、等)

参考書

武田秀子・他『秘書・オフィス実務』(早稲田教育出版)

成績評価の方法・基準

平常点（授業への参加度・学習態度・等）［15%］、チェックテスト・課題等［35%］、まとめのテスト(第9回)［30%］、医療秘書実務理解度［20%］を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業時間でチェックテスト等を実施し、授業終了時に提出してもらったものについては、原則として次回授業で採点済答案を返却して、チェックテスト等の解説を行う。まとめのテストについては、第11回に答案を返却し、解答の提示と解説を行う。
履修のポイント
医療管理秘書士、医事管理士等の医療事務関係資格取得希望者は、単位修得する必要がある。
オフィス・アワー
月・水・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館３階研究室11
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C152

講義コード	30650001
講義名	医療経営学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医療機関の医事課で9年の実務経験があり、実際の医療機関の話を織り交ぜながら必要な知識を伝える。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 尾崎 好子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療機関を訪れる患者様に、安心・信頼・満足を感じて頂くための必要な専門知識を学び、医療秘書としてふさわしい教養、接遇対応を身につけ、医療機関での仕事について理解できる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解することを目指し、社会で実践的に活用できる人材を育成するための科目である。

到達目標

・患者様や患者様の家族と接するので不安等を解消する質問や疑問にも適切に答えられるようになる。
・診療報酬だけでなく医療関係法規や医療用語など幅広い専門的な知識と医療の方向性を理解できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	尾崎好子	医療と社会	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第2回	尾崎好子	近代の病院の社会的機能	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第3回	尾崎好子	病院組織と経営	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第4回	尾崎好子	医療を支える職種	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

第5回	尾崎好子	医療の場の特殊性	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第6回	尾崎好子	医療はサービス業	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第7回	尾崎好子	医療関連法規①医療法	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第8回	尾崎好子	医療関連法規②医師法	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第9回	尾崎好子	医療関連法規③薬剤師法	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第10回	尾崎好子	医療関連法規④医療保険制度	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第11回	尾崎好子	医療関連法規⑤二重指定制度	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第12回	尾崎好子	保健・医療・福祉の連携	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第13回	尾崎好子	医療と情報	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第14回	尾崎好子	まとめ（1）	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第15回	尾崎好子	まとめ（2）	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

教科書

『医学一般』一般社団法人医療教育協会
『メディカルシステム論』一般社団法人医療教育協会

参考書

特に指定しない。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
授業への取り組み姿勢（20%）
課題・レポート・提出物（20%）
定期試験（60%）

課題等に対するフィードバックの方法

提出された課題および質問に対しては個別に対応し、授業時に全体に向け回答・説明する。

履修のポイント

遅刻をせず、忘れに気を付け、真剣に課題に取り組むこと。
医療管理秘書士資格取得に必要な科目です。

オフィス・アワー
集中講義期間内の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C131

講義コード	30660001
講義名	社会福祉論
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	社会福祉士として福祉施設に勤務し、主に高齢者支援にあたる。その経験を本講義の学習内容に活かしていく。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 服部 弘	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、わが国における社会福祉の理念、制度やそのしくみについて基本的な理解をする。さらには、現代における社会的な背景や暮らし方の変化などについての学習を通じて、食の暮らしをサポートする専門職が社会福祉分野でどのような役割があるかを理解し、そのために必要な実務などを検討し学んでいく。
食を支える専門職としての視点をもって、社会福祉のしくみやそのあり方について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会福祉という側面から、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指すものとする。

到達目標

１．社会福祉の理念やその成り立ちについて説明できる。
２．社会福祉における制度等を学び、その根拠を説明できる。
３．現代における社会福祉と食についての関係や今後のあり方について説明できる。
４．社会福祉分野での職種間連携の重要性と社会福祉専門職との連携について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	服部弘	ガイダンス・生活を支える「食」と「社会福祉」・社会福祉の意味と対象 ～授業の進め方、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的、社会福祉とは誰のためにあるか～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第2回	服部弘	私たちの生活と社会保障① ～生活を支える社会保障の体系と社会保険～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す

第3回	服部弘	私たちの生活と社会保障② ～生活を支える社会保障の体系と社会保険～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第4回	服部弘	公的扶助 ～最低限度の生活保障～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第5回	服部弘	高齢者の福祉① ～高齢者の生活と介護～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第6回	服部弘	高齢者の福祉② ～高齢者の生活と介護～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第7回	服部弘	児童家庭福祉① ～子どもと子育て家庭の生活～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第8回	服部弘	児童家庭福祉② ～子どもと子育て家庭の生活～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第9回	服部弘	障害者の福祉① ～地域でみんなとともに暮らすために～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第10回	服部弘	障害者の福祉② ～地域でみんなとともに暮らすために～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第11回	服部弘	地域福祉① ～地域で安心して暮らし続けるために～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第12回	服部弘	地域福祉② ～地域で安心して暮らし続けるために～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第13回	服部弘	社会福祉基礎構造改革と権利擁護 ～利用者本位の社会福祉の構築～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第14回	服部弘	社会福祉における援助の方法・社会福祉実践の場と専門職 ～専門的援助の実践体系としてのソーシャルワーク、社会福祉の実施機関・施設、社会福祉の専門資格と専門職種～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す
第15回	服部弘	これまでの講義まとめ ～栄養士として必要とされる社会福祉の基礎知識～	予習９０分：教科書を読む 復習９０分：配付資料を見直す

教科書
岩松珠美・三谷嘉明編 「六訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」 株式会社みらい
参考書
適宜紹介をする。
成績評価の方法・基準
単位認定６０点以上 筆記試験８０％ レポート２０％ ※授業態度を加味する。
課題等に対する フィードバックの方法
授業のおさらいを実施するので、配布資料等を参考にし、理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。
オフィス・アワー
講義終了前後などに、適宜受け付けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C114

講義コード	30670001
講義名	家庭の医学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	山﨑：内科医（42年）の勤務経験を活かし、実学実践の授業を展開する。 高橋：保健師として、対象者への健康教育、健康増進支援を行った経験を通して、家庭で必要となる看護・介護について講義や実践を行う。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 髙橋 美砂子	指定なし
教員	山﨑 純一	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士あるいは医療事務従事者として社会で働く場合や家庭生活において、種々の疾病に接することがある。このため、日常生活において自分自身や周りの人々がかかりやすい病気や外傷について基本的な知識や対応法を理解することは必要である。また、我が国でも生活習慣病の患者数は増加していることから、代表的な生活習慣病について学修し、自ら健康を守るためのセルフケア力（りょく）を高めるとともに援助を必要としている対象に適切な支援ができる知識と技術の習得を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として「人体の構造・機能」「健康と栄養」「疾病の成り立ち」についての幅広い知識・技能の習得とともに豊かな人間性が養われていること。

到達目標

１．かかりやすい病気とその症状、治療方法について理解できる
２．自分自身の身体と健康について理解できる
３．病気や怪我の初期対応について基本的技術を習得する
４．人間の発達段階と健康との関連について理解できる
５．身近に接する対象として小児、高齢者の健康支援について理解できる

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	山﨑純	薬局で購入できる医療品： 医薬品は病気の「治療」を目的とした薬で、厚生労働省より配合されている有効成分の効果が認められたものである。医薬品は医療用医薬品、要指導医薬、一般用医薬	日常、市販薬として服用している一般医薬品名を挙げ、効果や服用時の注意などについ	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本

	一	品の３種に分類されるが、薬局での購入方法が異なる。さらに一般医薬品は第1類から第３類まで分類される。	ても基本的な知識の習得に努める。	日学んだことのノート整理をする。
第2回	山崎純一	臨床検査とは： 健康診断などでも用いられる一般検査、血液検査、生化学検査の診断的意義を理解する。	各種疾患において検査結果に異常値が認められるが、臨床検査にて得られ た検査結果の意味について基本的な知識の習得に努める。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第3回	髙橋美砂子	セルフケアとは 自分自身の健康管理：ライフサイクルと病気：女性ホルモンと月経の異常、子宮内膜症、子宮がん、乳がん、性感染症）自己検診方法	乳がんの自己検診方法を行い、指導できるようにする。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第4回	山崎純一	生理機能検査： 広く用いられている心電図、呼吸機能検査を中心に、生理機能検査を行う意義や得られた検査結果の意味を理解する。	主要な疾患の臨床検査結果と健常者の所見を比較し、生理機能検査の基本的な知識の習得に努める。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第5回	山崎純一	高血圧： 内容：「高血圧」の発症には塩分摂取過多と動脈硬化、つまり体液量増多と末梢血管抵抗の２因子が関与する。「高血圧」の合併症に狭心症や腎機能障害などの心・血管病変があり、治療として生活習慣の改善や食事療法、薬物療法がある。	「高血圧」の発症機序や合併症、治療など基本的な知識を習得するとともに食事 療法について知識を深める。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第6回	山崎純一	糖尿病： 内容：「糖尿病」の発症には不規則な生活習慣（過食や運動不足）と遺伝的要因が関与する。生活習慣病の代表的疾患である「糖尿病」の合併症には心・血管病変がある。	「糖尿病」の発症機序や合併症、治療など基本的な知識を習得するとともに食事療法について知識を深める。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第7回	山崎純一	脂質異常症： 内容：脂質異常症とは血液中のコレステロールや中性脂肪などの脂質が高値を呈する。動脈硬化の原因となり、心筋梗塞や脳卒中などのリスクが高くなることから、予防として生活習慣（過食や運動不足）の改善が重要である。	「脂質異常」の発症機序や合併症、治療など基本的な知識を習得するとともに食事療法について知識を深める。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
	山	脳卒中： 内容：「脳卒中」とは、脳の血管が突然つ	「脳梗塞」と「脳	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明

第8回	崎純一	まったり破れて出血したりする脳血管疾患である。「脳卒中」には主に脳の血管がつまる「脳梗塞」、脳の血管が破れる「脳出血」、脳の血管にできた脳動脈瘤が破裂する「くも膜下出血」がある。	出血」の発生機序や合併症、治療など基本的な知識を習得する。	確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第9回	髙橋美砂子	加齢による身体的・精神的変化 高齢者の病気：認知症とその予防 認知症の対応方法	認知症の特徴を理解したうえで対応のロールプレイする。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第10回	髙橋美砂子	高齢者の運動機能：フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームとその予防（転倒防止） 〈高齢者体験〉 機能低下予防のための運動	加齢による機能低下の体験と状態に合わせた運動について考える。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第11回	髙橋美砂子	〈車いす体験〉 車いすの種類と扱い方 坂道や段差があるときの移動方法	２人組になって、車いすに乗る、押す、の体験をし、車いすでの移動時の注意点や配慮することを再確認する。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第12回	髙橋美砂子	子どもに多い病気・事故とその対応 〈救急法〉 家庭にあるものを使っての応急手当 救急車を呼ぶタイミングと呼び方 医療機関（病院やクリニック）のかかり方	応急手当（止血法、傷の消毒と安静、三角巾法）を実施し、終了後に振り返りを行う。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第13回	髙橋美砂子	〈心肺蘇生法〉の実際 心臓マッサージとAEDの使い方 移送法：傷病者の動かし方	数名のグループになって心肺蘇生法の実技を行い、実施後の振り返りを行う。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理をする。
第14回	髙橋美砂子	心の健康 ストレスと睡眠 ストレスチェックの方法とその回避対策 学習のまとめ レポート課題について	実際行っているストレス解消方法について、意見交換する。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習:９０分 本日学んだことのノート整理する。これまでの学習か内

				容からレポート課題を作成する。
第15回	山﨑純一	医療事務とは： 内容：医療事務に携わる場合、我が国の医療制度について基本的となる知識について理解する。	国民皆保険制度に診療所（クリニック・医院）と病院の違い、地域医療支援病院の承認条件、ついて基本的知識を習得する。	予習：９０分 本日行う学ぶべきことを明確する。 復習：９０分 本日学んだことのノート整理をする

教科書
新医療秘書医学シリーズ（5）検査・薬理学 建帛社 責任編集 井上 肇
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 課題60%、授業への参加度40%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。授業での講義内容を配布するので、授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待する。予習：当日の講義の概要を教科書で確認する。復習：配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読する（90分）。
オフィス・アワー
講義終了後に適宜受け付ける。その他、火・木・金曜日に適宜受け付けるので、教務課に依頼し予約すること。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C153

講義コード	30680001
講義名	医療保険実務
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	3
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医療機関の医事課で9年の実務経験があり、実際の医療機関の話を織り交ぜながら必要な知識を伝える。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 尾崎 好子	指定なし

授業の概要と教育目標

医師が診療中に記録した診療録（カルテ）を読むための基本的な医学の知識を身につけ、医師が行った診療行為を料金化するための算定方法を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解することを目指し、社会で実践的に活用できる人材を育成するための科目である。

到達目標

診療録（カルテ）より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第2回	医療保険制度		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第3回	初診料 再診料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
			予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料

第4回	入院料		を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第5回	投薬料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第6回	注射料	注射料の算定ルール。	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第7回	レセプト作成及びレポート提出		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第8回	処置料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第9回	検査料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第10回	手術料 麻酔料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第11回	画像診断料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第12回	リハビリテーション料 精神科専門療法料 放射線治療料 病理診断料		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第13回	レセプト作成およびレポート提出		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第14回	レセプト作成およびレポート提出		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第15回	まとめ		予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

教科書

『診療報酬請求の実務診療報酬請求演習』（一般社団法人 医療教育協会発行）
『医科診療報酬点数表』（一般社団法人 医療教育協会発行）

参考書
特に指定しない。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 授業への取り組み姿勢（20%） 課題・レポート・提出物（20%） 定期試験（60%）
課題等に対する フィードバックの方法
提出された課題および質問に対しては個別に対応し、授業時に全体に向け回答・説明する。
履修のポイント
遅刻をせず、忘れに気を付け、真剣に課題に取り組むこと。 医療管理秘書士資格取得に必要な科目です。
オフィス・アワー
集中講義期間内の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
医療事務科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C550

講義コード	30690001
講義名	教師論（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験を活かし、教師という仕事の魅力を伝えるとともに学校をめぐるさまざまな問題を解決できる「教師」としての資質・能力を身に付けられる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簑輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障を含む）について理解するとともにこれからの教師に求められる役割とそれに応えるために必要な資質・能力の具体を述べたり、主要な教育法規の規定に基づいて教員としての職務遂行上に生じる諸問題への対応を述べたり、教職を目指すための進路の具体を説明したりすることができるようになる。「教育は人なり」という言葉が示すように、教育の成否は教師にかかっているといっても過言ではない。教職は児童生徒の人格形成に深く関わる仕事であるから、その責務をしっかり果たす必要がある。

本授業の教育目標は、
１．教職の意義及び教員の役割について理解し、具体的な実践場面における教員の在り方を述べるられるようになる。
２．教員の職務内容を理解し、その根拠となる教育法規等を具体的に説明することができる。
３．進路選択に資する各種機会の情報を得て、自らの進路を構想することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住、さらに生活を取り巻く社会的環境を視野に入れながら学修し、教師として、社会人としての資質・能力を養う。

到達目標

本授業の到達目標は、
１．教職の意義及び教員の役割について理解し、具体的な実践場面における教員の在り方を述べることができる。
２．教員の職務内容を理解し、その根拠となる教育法規等を具体的に説明することができる。
３．進路選択に資する各種機会の情報を得て、自らの進路を構想することができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
			予習90分：教師という職業について各自が考えてく

第1回	教職に就くということ	教師という職業について各自の考えを発表する	る。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第2回	学校教育の意義	学校で行われている教育について各自の経験を元に考えを発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第3回	教師の魅力	教師の魅力とは何か各自が今まで出会った教師から考えて発表をする。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第4回	教師をめぐる現状と課題	教師という仕事はブラックだと言われたりすることもあることから教師の現状について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第5回	教師の地位と育成システム	教師は他の職業と違い子ども達に与える影響も大きくその立場の保証、育成について考えを発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第6回	保護者・地域との連携と教師の役割	学校は地域や保護者との連携が何故必要なのかを考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第7回	教員の身分と服務及び倫理と校務分掌	教師には研修の義務が課されている事の意義と服務上の倫理について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第8回	子どもの権利条約と教師の使命・人権教育	教育において子どもの人権はどのように扱われているのか、保証すべきかについて各自の意見を発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
			予習90分：この回のテー

第9回	教師のライフワークバランスとメンタルバランス	教師の働き方改革が進められようとしていることと教師の生活について考える。	マについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第10回	カリキュラムを創る、授業をデザインする	教師が行う授業とその根拠となるカリキュラムについて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第11回	放課後における子どもの教育活動との連携	放課後の児童クラブ、寺子屋といわれる放課後の子どもの育成活動との連携について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第12回	生徒理解とチーム学校について	生徒を理解するとはどういうことかを各自の今までの学校生活を踏まえて意見を発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第13回	新しい時代における教師の役割と責務	Society5.0という時代を迎えるに当たって教育の変化と教師の役割の変化について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第14回	教師としての発達とその支援	子どもの発達を促す教師も日々成長していかなければならないことについて小中高の教育経験から考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第15回	授業の振り返り	授業で学んだことは何か、教師とは何かについて各自の考えを発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、授業内容の理解を深め、まとめる。

教科書

宮田 進、片山世紀推す 著 実務・事例を重視した『教職入門」（教育出版）

参考書

講義中に適宜紹介する。

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 定期試験 50%、授業への取り組み姿勢（リフレクション、口頭発表等）20% レポート30%
課題等に対する フィードバックの方法
講義中に適宜行う。
履修のポイント
教職の意義、教員の役割とその職務内容、チーム学校等にポイントをおき、学修を進める。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CM-C430

講義コード	30700002
講義名	教育原論・教育課程論（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験、とりわけ教務主任としての経験を活かし、学校の教育活動や教育課程が果たす役割についての知識を深めていく授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簑輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

本授業では、教育課程・カリキュラムの意義と類型を理解した上で、基準となる学習指導要領の改訂の流れとその位置づけ、学習指導要領の構成、特徴と現代的課題について考察するとともに①わが国の教育を成り立たせている思想や制度について、歴史的な展開も踏まえて学ぶことで、教育について学問的知識に裏打ちされた議論を行う基礎を築くと共に、②学生同士の意見交換や議論を行うことによって、教育に関する各人の考えを深めていくことを目指す。教育に関しては、自らの被教育経験などを通じて、ある一定の考えをすでに持っている人も多いと考えられるが、教育学の知見や他者の意見に学ぶことで、そうした考え方を批判的に問いつつ、教育を論ずる上での土台を構築することを目指す。授業では毎回のテーマに関わる様々な問いについて考えながら、教育の理念や歴史・思想についての理解を深めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住、さらに生活を取り巻く社会環境を視野に入れながら学修し、教師として、社会人としての資質・能力を養う。

到達目標

1)教育の基本的な概念や教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係を理解する
2)教育の歴史や思想に関する基本的な知識を身につける
3)自らの教育観（教育とはどのようなもので、どうあるべきかについての考え）を述べることができる

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教育観を考える～自身の受けてきた教育について振り返りを通して～	今までの学校での教育について各自の体験を元に発表する	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：配付資料を見直し、内容の理解を

			深める。
第2回	日本の教育の歴史 ①～大正自由教育～	明治から大正へと時代の変化とともに大正時代での教育の特徴について理解する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第3回	日本の教育の歴史 ②～国家主義教育と戦後教育改革～	戦争前も戦争中の教育と戦後の教育の変化について理解する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第4回	日本の教育の歴史 ③～産業化社会とポスト産業化社会～	１９６０年代、７０年代の教育とそれ以降の９０年代の教育違いについて発表ができる。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第5回	学校を考える ① 近代公教育制度の成立とその理念	公教育制度の成立とその理念について理解する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第6回	学校を考える ② 学校化社会	学校化社会」とは何を表しているのか自らの生活を元に考え発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第7回	学校を考える ③ 現代の公教育を考える	現代における公教育の役割について自ら受けてきた教育を振り返りながら考えたことを発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第8回	教育課程をどう編成するか ～ 教育課程編成の構成要件～	教育課程とは何か、どうして編成しなければならないのかを考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を

			見直し、内容の理解を深める。
第9回	教育課程をどう評価するか	教育課程を作成と実践とは切手も切り離せないこととその評価について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第10回	教育課程をめぐる問題 ① 教科横断的な教育課題「言語活動の充実」	「言語活動の充実」とは何か、教科横断的とは何かをグループに分かれて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第11回	教育課程をめぐる問題 ② 教科横断的な教育課題「活用を図る学習活動」	「活用を図る学習活動」と教科横断的とのつながりについてグループに分かれて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第12回	教育課程をめぐる問題 ③ 教科横断的な教育課題「学習スキルの育成」	身に付けなければならない「学習スキル」について教科横断的な学修との関係つについてグループに分かれて考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第13回	小学校と中学校の教育課程の違いと接続	小学校、中学校のつながりと中１ギップを防ぐ方法について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第14回	ICTとカリキュラム	学校教育においてＩＣＴが与える影響と教育効果について考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第15回	まとめ ～改めて教育観を考える ～	授業を受け手最初に持っていた「教育観」がどのように変化した	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該

		のか発表する	当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。

教科書
田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著『やさしい教育原理』（有斐閣） 田中 耕治・水原 克敏 著 『新しい時代の教育課程(第３版)』 （有斐閣アルマ） 『中学校学習指導要領』 文部科学省
参考書
講義中に適宜示す。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 定期試験 50%、授業への取り組み姿勢（リフレクション、口頭発表など）20% レポート 30%
課題等に対する フィードバックの方法
提出されたリフレクションペーパー等はコメントを加筆して、次時の授業時に各自に返却する。
履修のポイント
教職科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べることだけでなく、自分以外の他の学生たちの意見、考えを理解する姿勢で授業に臨むことが大切である。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CM-C410

講義コード	30710001
講義名	教育学（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験を活かし、教育の可能性を伝えるとともに学校をめぐるさまざまな問題を解決するためにも「教育」の知識を深めていく授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簑輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

「いじめ」や「虐待」など、教育に関わる問題はとどまるところを知らない。このような状況の中で、保護者や社会から学校教員への期待や不安は増すばかりであり、教員は従来とはまた違った知識やスキルも身につけなければならなくなっている。本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などを考える。教育という営みの本質的性格、現代の学校教育が果たしている役割とその問題点などについて理解し、教育改革の方向性についての考え深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住、さらに生活を取り巻く社会環境を視野に入れながら学修し、教師として、社会人としての資質・能力を養う。

到達目標

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。
１．教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
２．人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
３．近代の教育を支える思想について理解するとともに、それと現代との関係を理解できる。
４．現代社会における教育の問題点を把握し、それについての見解を整理して発表できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション―教育とは何か	各自の今まで受けてきた中高での教育について発表する。	予習に90分:教科書を熟読する。 復習に90分:各自で本時の授業内容をまとめる。
第2回	教育の歴史	教育は人類の歴史と共に様々変化していることに気づくことと自分なりにま	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、

	と思想	とめる。	教科書の該当ページを熟読する。
第3回	日本の近代化と教育制度	日本における教育制度の変化について理解する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第4回	家庭教育としつけ	家庭教育のあり方、「しつけ」と「虐待」は何が違うのかを各自が考えて発表する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第5回	学校文化とは	「学校文化」とは何か各自の小中高の学校体験を基にして発表する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第6回	異文化理解教育	社会のグローバル化に伴いいろんな文化圏の子ども達が日本で教育を受けている事についての理解をする。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第7回	障害児教育とインクルージョン	「インクルージョン」とは何かを考えるとともに生涯を持つ子どもの教育を受ける権利について理解を深める。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。
第8回	現代の教育問題	日本を含めて教育でどのような事が課題としてあげられているのか各自の小中高の教育を基にして考えを発表する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリント、教科書の該当ページを熟読する。

教科書

岡田昭人 編著『教育学入門』（ミネルヴァ書房）

参考書

講義中に適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 定期試験50%、授業への取り組み姿勢（リフレクション、口頭発表など）20%、レポート30%

課題等に対するフィードバックの方法

提出されたリフレクションペーパー等はコメントを加筆して次時の授業時に返却する。

履修のポイント

教職科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べることだけでなく、自分以外の他の学生たちの意見、考えを理解する姿勢で授業に臨むことが大切である。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C411

講義コード	30720001
講義名	教育心理学（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育機関での心理臨床活動やスクールカウンセラーの経験を基にして、より具体的な児童生徒理解に関する授業を行う
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達的にどのような状況におかれてるのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、学生による「模擬授業」を実施する。なお、青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解すること、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的な展望としては、心身の発達理論を理解しつつ、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解するという発達の側面、そして知識を収めていく学習の側面、発達課題に直面した際の課題未達成からくる適応の問題の側面から、教職実践の基盤となる学修を目指すものとする。

到達目標

１．教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解できる。
２．青年期までの人の発達過程とその特徴について理解できる。
３．学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解できる。
４．「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシュミレーションする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
			予習90分：

第1回	オリエンテーション 教育心理学の概要	教育心理学で取り扱う内容について、その概要（発達・学習・教授）を取り上げる。よい授業とは何かについて、心理学における教育心理学の位置づけについて考える。	教科書pp.12-21を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	発達の基本原理と人生初期の発達 発達の基本的な原理、発達の最近接領域、の発達について取り上げる。	発達を促進する要因について、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.22-25、31-39 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	発達段階の特徴 乳児期から成人期までの発達の特徴について取り上げる。	発達の特徴を前提に学校教育の意義について、考究する。	予習90分：教科書pp.25-31を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	さまざまな学習理論① 刺激と反応の結びつきを重視する学習の連合理論と認知の変容を重視する学習の認知理論を中心に、学習のしくみを取り上げる。	学習理論から生まれたソーシャル・スキルトレーニングを体験 し、12・13・14回目で行う模擬授業の展開の仕方について理解する。	予習90分：教科書41-54を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	さまざまな学習理論② 記憶、思考を取り上げる。	記憶のメカニズムを理解することで、どのように教授するのがよいのかについて、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.55-70を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	学習の規定因① 学習の規定因としての動機づけ理論と、動機づけ向上に必要な事項について取り上げる。	やる気を高めたり維持するためには何が必要なのかについて、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.72-88を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	学習の規定因② 学習を規定する要因としてのパーソナリティの理論、知能の構造、測定方法を取り上げる。	自己に関する理解について、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.89-102を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	人間関係と社会性 子どもは人間関係の中でどのように成長するのかについて取り上げる。	愛着が発達に及ぼす意義について、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.104-119を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
			90

第9回	学級集団 集団形成や教師のリーダーシップやバイアス等について取り上げる。発達を促す集団の力は教師の働きかけによるところが大きいことを理解する。	望ましい学級集団を形成するために教師が気を付けるべきことについて、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習　分：教科書pp.124-139を読む。 復習90分：配布資料を見直す
第10回	学校不適応および障がいの理解 学校における適応と不適応、さらに発達障がいの種類や特徴の理解について取り上げる。	児童生徒のつまずきやすさについて、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.141-171を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	学習指導と教育評価 学習方法や評価の種類について取り上げる。	学習指導方法や教育評価の目的・方法について考究する。	予習90分：教科書pp.175-192を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	模擬授業①	授業づくりの留意点を押さえて、「教えること」をシュミレートする模擬授業を行う。ほかの履修者は、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第13回	模擬授業②	授業づくりの留意点を押さえて、「教えること」をシュミレートする模擬授業を行う。ほかの履修者は、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第14回	模擬授業③	授業づくりの留意点を押さえて、「教えること」をシュミレートする模擬授業を行う。ほかの履修者は、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第15回	授業のまとめ 確認テスト	まとめ及び学校で活かす臨床心理学	予習90分：これまでの小テストを見返す。 復習90分：模擬授業の振り返りを生かした授業案を作成してみる。

教科書
櫻井茂男監修 『実践につながる教育心理学』 北樹出版
参考書
適宜紹介する。

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）もしくは小論文40%、 レポート・課題30%、 模擬授業・授業への参加度30% を総合して評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。授業時間外の学習として、主に配布資料・ノートのまとめを勧めます。 なお、「教育心理学（共通）」の（共通）とは、生活科学科の中学2種（家庭）と栄養教諭2種の双方の教職に共通する科目、ということを示します。
オフィス・アワー
水曜日・木曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。 ※講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CM-C412

講義コード	30730001
講義名	家庭科教育法（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校での家庭科教員歴35年の経験と知見を活かし、家庭科という教科が社会で生きていく上での「力」としてどういう役割を果たすか、という視点からダイナミックに講義を展開していきたい。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 神子澤 修	指定なし

授業の概要と教育目標

中学校「技術・家庭」の教員免許の取得を目指す学生を対象に開設された科目である。そのため、以下の3観点を教育目標としたい。
⑴生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
⑵生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
⑶よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーと関連させ、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、理解と認識を深める。そのことを通じて、さらに生活を取り巻く社会的環境についての知見を深める。

到達目標

⑴家庭科教員として、家庭科教育の目標と内容についてよく理解し、そのうえで説明・解説ができる。
⑵家庭科教員として、授業の題材にあわせた的確な教材研究ができる。
⑶家庭科教員として、学習指導案が作成でき、なおかつその指導案の検討を行い、さらに工夫や改善についての意見を発表することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	神子澤	授業の概略の説明、学校教育における家庭科教育の	ダイアモンドランキング法を用いて家庭科教育の特徴を学ぶ。	予習90分:学習指導要領解説「技術・家庭」編 学校教育法施行規則を読む。 復習90分:授業プリントを

	修	意義について		見直す。
第2回	神子澤修	日本における家庭科教育の変遷について	家庭科教育と歴史的な背景についての関連を検証する。	予習90分:学習指導要領解説「技術・家庭」編第1章を読む。 復習90分:授業プリントを見直す。
第3回	神子澤修	小・中・高等学校の学習指導要領における目標と指導内容について	学習指導要領における目標と指導内容について事例検討を行う。	予習90分:学習指導要領技術・家庭編第2章を読む。 復習90分:授業プリントを見直す。
第4回	神子澤修	教材研究の視点と内容(家族と家庭生活分野)について	現代社会が抱えている様々な家族と家庭生活についての諸問題、諸課題について発表と意見交換をする。	予習90分:学習指導要領技術・家庭編第2章並びに中学校「家庭分野」の教科書を読む。 復習90分:授業プリントを見直す。
第5回	神子澤修	教材研究の視点と内容(衣食住の生活分野)について	現代社会が抱えている衣食住の分野に関する諸問題や諸課題について発表と意見交換をする。	予習90分:学習指導要領技術・家庭編第２章並びに中学校「家庭分野」の教科書を読む。 復習90分:授業プリントを見直す。
第6回	神子澤修	教材研究の視点と内容(消費生活・環境分野)について	現代社会が抱えている消費生活と環境分野についての諸問題や諸課題について発表と意見交換をする。	予習90分:学習指導要領技術・家庭編第２章並びに中学校「家庭分野」の教科書を読む。 復習90分:授業プリントを見直す。
第7回	神子澤修	学習評価の観点と評価方法について	意思決定についてアロー表を使って実習する。	予習90分:学習指導要領技術・家庭編第3章を読む。 復習90分:授業プリントを見直す。
第8回	神子澤修	学習指導要領に基づく学習指導計画について		予習90分:学習指導要領技術・家庭編第3章並びに中学校「家庭分野」の教科書を読む。 復習90分:授業プリントを見直す。
第9回	神子澤修	学習指導案の考え方と書き方の基本について		予習90分:学習指導案の事例を探す。 復習90分:学習指導案の書き方の要点を復習する。
第10回	神子澤修	学習指導案の作成 ① 学習指導案を1部作成し提出	自らのテーマに沿って、指導案①を作成する。	予習90分:学習指導案の題材を考える。 復習90分:題材に沿った指導案を完成する。
第11回	神子澤修	学習指導案に基づく模擬授業の実施 学習指導案の検討と評価	模擬授業を実施する。評価表を書き、改善点を把握する。	予習90分:模擬授業の準備をする。 復習90分:模擬授業の評価と課題を明確にする。
第12回	神子澤	学習指導案の作成 ② 学習指導案 1	①の改善点をもとに指導案②を作成する。	予習90分:２つ目の学習指導案作りの準備。 復習90分:一つ目の指導案

	修	を 部作成し提出		との比較、改善。
第13回	神子澤修	学習指導案に基づく模擬授業の実施学習指導案の検討と評価	模擬授業を実施する。評価表を書き、改善点を把握する。	予習90分:2回目の模擬授業の準備。 復習90分:2回目の模擬授業の評価と課題の検討。
第14回	神子澤修	学習指導案に基づく学習指導の相互評価及び改善	それぞれの模擬授業について比較検討し、長所並びに改善点について意見交換する。	予習90分:各自の学習指導案の要点の整理。 復習90分:指導案評価のポイントの振り返り。
第15回	神子澤修	教育実習に向けての授業のまとめ	本授業についての自己評価とこれからの家庭科教育について意見をまとめ、発表する。	予習90分:教育実習指導分野の確認を行う。 復習90分:授業プリントの見直し。

教科書

中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(文部科学省)
中学校 技術家庭 家庭分野の教科書(開隆堂)

参考書

講義内容に応じて、適切な資料等を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定は60点以上とする。学習指導案40%、毎時間のワークシート40%、授業への参加意欲・態度20%を総合して評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

課題や提出物は、評価後、必要に応じて問題点や修正すべき点などについて個別に学生に伝達し、返却する。

履修のポイント

講義に能動的に参加することが必須条件である。そのうえで、学習指導案を2部作成し提出する。合わせて毎時間のワークシート等を提出する。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C431

講義コード	30740002
講義名	道徳理論・指導法（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校の教員として数年間にわたり勤務し、クラス担任を担当した経験がある。その経験を活かし生徒同士あるいは家族の絆を強めたり、問題解決の方法を自ら見つけたりする能力を開発する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

道徳教育の歴史、その意義と役割を理解しつつ、学習指導案作りを実践する。他の教科との連携を踏まえ、教育実習の場でしっかりと道徳の授業ができる教育力を養うものである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目で、生活科学科のディプロマポリシーにある「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを踏まえつつ、自分から進んで多面的な授業テーマを探り、小・中学校の道徳の授業で、それを生かせるようにする。

到達目標

小・中学校において実施される道徳教育の位置づけや意義、教育目標、内容について理解し、説明することができる。指導方法や評価方法について理解し、説明できる。これら２点を教育目標として掲げる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	道徳教育の定義と、人格の完成に欠かせない道徳教育の意義を理解する。		復習９０分。最近の道徳についての記事を調べる。
第2回	橋爪博幸	道徳教育の歴史を知る。	今日の日本や国際社会での道徳教育の課題について考える。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
	橋	成長の各段階における人間の道徳性の発達と開花		予習９０分。復習９０分。事前に

第3回	爪博幸	（学年に適した教材に関する考察を含む）のプロセスをたどる。		配布された資料を読み込む。学習指導要領を事前に読んでおく。
第4回	橋爪博幸	学習指導要領に記された道徳教育の内容と教育目標（多様な指導方法の理解を含む）を知る。		予習１２０分。復習１２０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第5回	橋爪博幸	学習指導計画と、教育活動全体のなかでの道徳教育の位置づけを理解する。		予習１２０分。復習１２０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表の大筋を決める。
第6回	橋爪博幸	道徳の授業の指導案を作成する。	道徳の授業目標の設定し、授業プログラム案（学習指導案）の作成と発表を行う。	予習１２０分。復習１２０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表資料づくりを行う。
第7回	橋爪博幸	個々の児童・生徒における道徳教科の評価方法を知る。		予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。最近の道徳についての記事を調べ記事と概要と感想を書いてレポートにまとめ提出する。
第8回	橋爪博幸	学生による模擬授業の実施と、そのふり返り（学生による自己評価を含む）を行う。		復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。作成した各自の指導案、発表資料等を提出する。

教科書

「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）
「小学校学習指導要領解説」「中学校学習指導要領解説」にある「特別の教科道徳」（平成29年6・7月告示 文部科学省）

参考書

小寺正一・藤永芳純『三訂道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年

成績評価の方法・基準

１００点満点中、６０点以上で単位を認定する。道徳教育に関するレポート（６０点）、各時間のふり返りシート（２０点）、模擬授業の発表（２０点）の合計点をもとに、総合的に評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

課題のレポートに、コメントを入れて後日、返却する。補足説明があるときは、授業内で提示し、または印刷して配布してフィードバックとする。

履修のポイント

授業回数が８回のみであるから、休まず出席すること。なお授業時間以外に、模擬授業のアクティブラーニングを実施する場合がある。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーの時間とする。質問等を受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C432

講義コード	30741001
講義名	特別支援教育論（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験を活かして実践力を育成する授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小林 徹	指定なし

授業の概要と教育目標

担当者の中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。
１．特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。
２．特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。
３．さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。
４．障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。
５．特別支援教育の実際について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連としては、さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもについて学ぶことで人間生活の多角的な理解を目ざす。
また、特別支援教育の理解を通して、得た知識を職業人として各職場で実践的に活用し、問題解決能力の修得を目ざす。

到達目標

１．履修学生が特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状について説明できる。
２．履修学生が障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画を作成し、評価することができる。
３．履修学生がさまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	小林	「特別支援教育の考え方、制度と仕組み」障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念、特別支援教育と障がい児		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏

	徹	福祉の制度とその仕組みについて学習する。		まえてまとめと質問シートを作成する。
第2回	小林徹	「障がいとの出合いと子育て、保護者支援」保護者と障がいとの出合いと保護者支援、障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第3回	小林徹	「障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい」映像を通して発達障がい、知的障がい、情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第4回	小林徹	「障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい」肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第5回	小林徹	「障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・その他の特別な教育的ニーズ」病弱・重複障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。また、障がいはないが、特別な教育的ニーズをもつ子どもについて学び、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第6回	小林徹	「他機関との連携、幼保小中高の接続」障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。また、幼保小中高の接続を含めたさまざまな機関との連携について学習する。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第7回	小林徹	「個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用」子どもの有する特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成を通して学習する。また、作成した計画をもとにして具体的な支援を考察する。	特別な教育的ニーズを有する児童の個別の指導計画を作成し、発表する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第8回	小林徹	「特別支援教育のこれまでとこれから」特別支援教育の歴史的変遷について学習する。そして、今後のインクルーシブ教育システムの構築に向けた考察を行う。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

教科書

小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。

レポート試験（50%）、毎回提出する小レポート（30%）、小テスト（20%）
課題等に対する フィードバックの方法
毎回提出する小レポートや小テストを参考にして、期末のレポート試験を受けること。
履修のポイント
障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CM-C450

講義コード	30750002
講義名	教育方法・特別活動の指導法（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校での教員経験を活かし、理論と実践について幅広く知識を深めていく授業を展開する
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

限られた時間内に教育が行われる学校では、指導上の効果を高めるため、教育方法について理解し研究することがとりわけ肝要である。被教育者の知識・技術の習得をより効果的なものにし、さらに生徒の自主的・創造的な学習を発展させるうえで、教員を目指す者にとって教育方法の学習は、以前にも増して重要性が高まっている。この授業では、教授ないし学習指導と呼ばれている事柄を中心に取り扱う。また、コンピュータを中心とした教育機器の利用法や教育評価についても、教育方法にとって不可欠な分野として、取り上げる。
一方で、特別活動は、構成の異なる集団での活動を通して学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動である。
そこで、この授業では、学校教育の中で行われる、指導の効果を高めるための方法について理解し研究することを目標とし、学習指導要領に則しながら、特別活動の各活動の内容や指導方法など事例を通して検討していく。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学科のDPとは別に、教員免許状取得のために必要な学校教育法施行規則に定める科目「教育方法及び技術（情報機器および教材の活用を含む。）」と「特別活動の指導法」に該当している

到達目標

・教育方法の基礎理論、方法、技術について理解する
・コンピュータなどの機器の教育における利用方法を理解し、活用できる
・教育評価の理論と応用について理解する
・学習指導要領における特別活動の意義を理解する
・特別活動の指導の在り方を理解する

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	求められる学力とは何かを検討し、学校教育と学習指導要領の基本理念について		予習90分：教科書第1章を熟読する

第1回	考える 課題：指導案（細案）の作成とその意図の発表		こと 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題の作成
第2回	教育方法の基礎理論について		予習90分：教科書第2～4章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題の相互評価
第3回	具体的な指導技術の問題点を確認し、代表的な方法と留意点をみる 学習者が意欲的に学ぶにはどのような工夫が必要か考える	各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう （受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります）	予習90分：教科書第5～9章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第4回	学習における評価の意味について考える	各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう （受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります）	予習90分：教科書第12章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第5回	メディア教材の利用と、ICT機器を利用する意味とその理論について学び、ICTを利用した授業の展開について考える 課題レポート：授業におけるICT機器の活用について	各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう （受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります）	予習90分：教科書第10章・11章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題レポートの作成
第6回	学習指導要領における特別活動の意義と内容について検討する		予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題レポートの作成
第7回	学級活動・生徒会活動・学校行事の目標とその内容について事例を通して考える（小学校・高等学校との違いを踏まえながら）	グループワーク：特別活動の指導案	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第8回	特別活動における指導方法および評価について検討する	グループ発表：特別活動の指導案の発表	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載

教科書

『新しい教職教育講座 教職教育編 教育の方法と技術』（篠原正典・荒木寿友 編著）ミネルヴァ書房
中学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月）文部科学省

参考書

「教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン」稲垣忠（北大路書房）「教育工学への招待」赤堀侃司（ジャストシステム）、「「教えて考えさせる授業を」を創る」市川伸一（図書文化）、「学習評価の新潮流」植野真臣他（朝倉書店）など

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。毎回の課題とその取組（40%）、指導案発表（30%）、課題レポート（30%）を総合的に評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業では課題を課します。それらは相互に評価することがあり、その結果をMoodleを通して、個別もしくは全体にコメントしますので、参考にしてください。

履修のポイント

授業日程についてはしっかり確認し、遅刻・欠席がないように注意してください。
また、受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります。
授業の回数が少ないため、各自で教科書を熟読し理解を深めてください。
欠席（公欠含む）した場合は、後日内容の確認をしてください。
課題は必ず提出すること。

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C451

講義コード	30751001
講義名	総合的な学習の時間の指導法（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 櫻井 歓	指定なし

授業の概要と教育目標

授業の概要と目標：「総合的な学習の時間」の概要や指導方法について扱う。探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う「総合的な学習の時間」の意義、目標および内容を理解するとともに、その指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることを到達目標とする。「学習指導要領」や具体的な教育実践例の研究などを通じて、今日的な教育課題を踏まえた創造的な教育実践を可能とする指導法の基礎を養う。
授業の方法：担当教員による講義と、アクティブ・ラーニングとしての小グループによる意見交換、レポート発表などを有機的に組み合わせ、効果的に授業を行う。授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介しコメントする。
準備学習の内容：本科目では、授業への参加は言うまでもなく、授業外での準備学習が重要となる。各回の授業の復習のほか、配布プリントの予習、さらにレポート作成の課題などについては、受講者各自による授業外での主体的な取り組みが求められる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

以下に掲げる本学生活科学科のディプロマ・ポリシーのもと培われる生活科学分野の専門性と、教職課程で培われる教職の専門性をあわせ持って、学生の個性・適性に応じて社会で活躍することのできる専門家・市民の育成を目指す。
【生活科学科】
1. 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している。
2. 生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している。
3. 「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解している。
4. 「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している。

到達目標

上記「授業の概要と教育目標」欄に記載した内容のうち、次のことが到達目標となる。「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う「総合的な学習の時間」の意義、目標および内容を理解するとともに、その指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動

の評価に関する知識・技能を身に付けること」。このことを学生視点の到達目標として簡潔に表現すれば以下の通りである。
(1)「総合的な学習の時間」の意義・目標・内容について説明することができる。
(2)「総合的な学習の時間」の指導・評価に関するレポートを作成し、効果的なレポート発表とそのふり返りができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	櫻井歓	授業内容：開講にあたって（ガイダンス、受講者の「総合的な学習の時間」体験のふり返り） 方法：講義とアクティブラーニング 課題：本科目の授業について見通しをもつとともに、学生自身の「総合的な学習の時間」についてふり返る	小グループによる「総合的な学習の時間」体験のふり返り、小レポートの作成	復習：授業プリント・ノートの読み直し、時事的な教育問題の情報収集（新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを活用）（予習・復習を含めて180分程度）
第2回	櫻井歓	授業内容：教育課程における総合的な学習の時間の意義と役割 方法：講義とアクティブラーニング 課題：総合的な学習の時間の意義と役割について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集（新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを活用） 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第3回	櫻井歓	授業内容：「学習指導要領」にみる総合的な学習の時間 方法：講義とアクティブラーニング 課題：「学習指導要領」にみる総合的な学習の時間に関する記述について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、中間レポートの作成準備 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第4回	櫻井歓	授業内容：総合的な学習の時間の指導（１）主体的・対話的で深い学び 方法：講義とアクティブラーニング 課題：近年の教育改革のキーワードとされている「主体的・対話的で深い学び」について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、中間レポートの作成・提出準備 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第5回	櫻井	授業内容：総合的な学習の時間の指導（２）各教科などとの発展的な関連性 方法：講義とアクティブラーニング	小グループによる意見交換、小レ	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集 復習：授業プリント・ノートの読み

	歓	課題：(a)総合的な学習の時間と各教科などとの関連性について知識を得る、(b)中間レポートを提出する	ポートの作成とフィードバック	直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第6回	櫻井歓	授業内容：総合的な学習の時間の指導（３）年間指導計画と単元計画 方法：講義とアクティブラーニング 課題：総合的な学習の時間の年間指導計画と単元計画について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第7回	櫻井歓	授業内容：総合的な学習の時間の指導（４）教育実践例の研究 方法：講義とアクティブラーニング 課題：(a)総合的な学習の時間の教育実践例について知る、(b)中間レポートを発表する	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック、中間レポートの発表	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、中間レポートの発表準備 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第8回	櫻井歓	授業内容：総合的な学習の時間の評価、授業のまとめと筆記試験 方法：講義とアクティブラーニング 課題：(a)総合的な学習の時間の評価について知識を得る、(b)最終回の授業時間の一部で筆記試験を受験する	小レポートのフィードバック、小グループでの感想交流	予習・復習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、これまでの授業内容を復習して筆記試験への準備を行う（予習・復習を含めて180分程度）

教科書

特に指定しない。

参考書

「中学校学習指導要領」（文部科学省、平成29年3月）
「高等学校学習指導要領」（文部科学省、平成30年3月）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。授業への出席を前提条件として、中間レポート（30%）と筆記試験（70%）により評価する。なお、授業への積極的な取り組み（レポート発表など）を加味する場合がある。

課題等に対するフィードバックの方法

(a) 授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介しコメントする。
(b) 中間レポートを書いてもらい、受講生の選抜メンバーによる中間レポート発表会を行う。担当教員より中間レポートに関する総括的な講評を行う。

履修のポイント

専門職としての教職の資格取得のための科目であるため、単位認定は厳格に行う。学生諸君には

教員免許状取得に向けての意欲と覚悟を持って受講していただきたい。
オフィス・アワー
授業終了後に教室にて質問・相談などを受け付ける。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CM-C470

講義コード	30760001
講義名	教育課程及び教育方法論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での教員経験、とりわけ教務主任としての経験を活かし、学校の教育活動、教育方法、教育課程についての知識を深めていく授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 簑輪 欣房	指定なし

授業の概要と教育目標

学校教育における教育課程を学習指導要領の変遷を中心に概観し，新学習指導要領の内容とねらいを解説する。
カリキュラム編成に関する代表的な考え方を提示し，新学習指導要領のねらいを踏まえたカリキュラム編成のあり方を解説する。
教育方法の代表的な理論を解説するとともに，具体的な実践事例を検討しながら，これからの学校教育に求められる教育方法について考える。
授業の内容をふまえた指導案を作成し，発表と検討を通して自ら教育課程を編成する能力を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科の基礎となる衣食住、さらに生活を取り巻く社会的環境を視野に入れながら学修し、教師として、社会人としての資質・能力を養う。

到達目標

1. 教育課程を歴史・思想・政策・実践との関連から捉え，その意義と役割を理解する。
2. これからの学校教育における教育課程を自ら編成するための基礎的な能力を身につける。
3. 教育の方法及び技術に関する基礎的な理論を理解し，それを活用した実践を行うための基盤を作る。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教育目標とカリキュラム	自らが受けてきた学校の教育の教育目標を思い出して発表する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深め

			る。
第2回	教育課程の基本原理	教育課程とは何かをグループで考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第3回	学習指導要領と授業	小学校、中学校、高等学校は学習指導要領基に日本全国で一定以上のレベルの教育が行われていることを知る。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第4回	カリキュラムマネージメントの現代的意義と課題	各学校でカリキュラムを編成することは教師の役割であることを理解する。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第5回	教育方法の理念	教育目標は同じでも教育方法にはいろいろとあることを知る。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第6回	教材と学習環境	授業を構成するための教材は教師の授業研究、教材研究によるところが大きいことを知る。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第7回	授業におけるＩＣＴの活用	授業方法、教材・教具においてＩＣＴの活用がこれからは求められていることと自らもＩＣＴ活用を考える。	予習90分：この回のテーマについてあらかじめ調べ、内容の概要を把握する。 復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。
第8回	授業分析・教育評価	授業をしたら必ずその授業の評価、分析をすることでよりよい授業が行われることを知る。	復習90分：教科書の該当ページ、配付資料を見直し、内容の理解を深める。

教科書
・実践に活かす 教育課程・教育方法と技術論 樋口直宏・林尚示 編著 学事出版 2020 ・中学校学習指導要領 文部科学省
参考書
・中学校学習指導要領解説 文部科学省. ・田中耕治・水原克敏 他 著『新しい時代の教育課程（第3版）』有斐閣
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 定期試験 50%、授業への取り組み姿勢（リフレクション、口頭発表等）20% レポート30%
課題等に対する フィードバックの方法
提出されたリフレクションペーパー等に不足する部分の解説、コメント加筆して次時の授業時に返却する。
履修のポイント
教職科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べることだけでなく、自分以外の他の学生たちの意見、考えを理解する姿勢で授業に臨むことが大切である。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C433

講義コード	30770002
講義名	道徳理論・特別活動論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校の教員として数年間にわたり勤務し、クラス担任を担当した経験がある。その経験を活かし生徒同士あるいは家族の絆を強めたり、問題解決の方法を自ら見つけたりする能力を開発する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

道徳教育の歴史、その意義と役割を理解しつつ、学習指導案作りを実践する。他の教科との連携を踏まえ、教育実習の場でしっかりと道徳の授業ができる教育力を養うものである。また、特別活動の意義やその内容、今日における諸問題を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目で、生活科学科のディプロマポリシーにある「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを踏まえつつ、自分から進んで多面的な授業テーマを探り、それを実際に、小・中学校の道徳の授業のなかで、生かせるようにする。

到達目標

小・中学校において実施される道徳教育の位置づけや意義、教育目標、内容について理解し、説明することができる。指導方法や評価方法について理解し、説明できる。これら２点を教育目標として掲げる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	道徳教育の定義と、人格の完成に欠かせない道徳教育や特別活動の意義を理解する。		復習９０分。最近の道徳についての記事を調べる。
第2回	橋爪博幸	道徳教育の歴史を知る。	今日の日本や国際社会での道徳教育の課題について考える。	予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
		成長の各段階における人		

第3回	橋爪博幸	間の道徳性の発達と開花（学年に適した教材に関する考察を含む）のプロセスをたどる。		予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導要領を事前に読んでおく。
第4回	橋爪博幸	学習指導要領に記された道徳教育の内容と教育目標（多様な指導方法の理解を含む）を知る。		予習１２０分。復習１２０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第5回	橋爪博幸	学習指導計画と、教育活動全体のなかでの道徳教育の位置づけを理解する。		予習１２０分。復習１２０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表の大筋を決める。
第6回	橋爪博幸	道徳の授業の指導案を作成する。	道徳の授業目標の設定し、授業プログラム案（学習指導案）の作成と発表を行う。	予習１２０分。復習１２０分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表資料づくりを行う。
第7回	橋爪博幸	個々の児童・生徒における道徳教科の評価方法を知る。		予習９０分。復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。最近の道徳についての記事を調べ記事と概要と感想を書いてレポートにまとめ提出する。
第8回	橋爪博幸	学生による模擬授業の実施と、そのふり返り（学生による自己評価を含む）を行う。		復習９０分。事前に配布された資料を読み込む。作成した各自の指導案、発表資料等を提出する。

教科書

「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）
「小学校学習指導要領解説」「中学校学習指導要領解説」にある「特別の教科道徳」（平成29年6・7月告示 文部科学省）

参考書

小寺正一・藤永芳純『三訂道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年

成績評価の方法・基準

単位認定は６０点以上（１００点満点中で）。道徳教育に関するレポート（６０点）、各時間のふり返りシート（２０点）、模擬授業の発表（２０点）の合計点をもとに、総合的に評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

課題のレポートに、コメントを入れて後日、返却する。補足説明があるときは、授業内で提示し、または印刷して配布してフィードバックとする。

履修のポイント

授業回数が８回のみであるから、休まず出席すること。なお授業時間以外に、模擬授業のアクティブラーニングを実施する場合がある。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーの時間とする。質問等を受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C471

講義コード	30780002
講義名	生徒指導・進路指導論（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

子どもたちを取り巻く情況は、社会の変化に呼応するかのように多様な問題を内包している。不登校・いじめ（いじめ自殺）・ネットトラブル・引きこもり、将来の不透明さなどがあげられる。これらに対応することを前提として、①生徒指導とはなにか、②生徒指導が担うべき役割はなにか、③生徒指導において教師が備え持つべき資質はなにか、について考える。そして、具体的問題を取り上げながら、これらへの対応について共同で考える。
進路指導は、キャリア教育の観点に立ち、①進路指導の意義と指導の方法は何か、②生徒が抱える個別の課題に即しながら「自分を生かす進路選択」とは何かについて共同で考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、日常的な生活空間そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、社会的資質や行動力を高めることを目指し、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。
進路指導は、児童及び生徒が、将来の進路を選択し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸張するように、組織的・継続的に指導・支援する教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。この進路指導・キャリア教育に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教育課程における生徒指導の位置付		予習90分：教育に関する事象について調べる。復

	けについて理解する。		習90分：配付資料を見直す。
第2回	生徒指導について集団指導と個別指導の実態を踏まえ、その方法原理を理解する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第3回	基礎的な生活習慣の必要性と規範意識が培われる指導について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	校則の実態を学びながら、なぜ校則が存在し、なぜ必要であるかについて考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	体罰の実態を学びながら、体罰禁止の根拠と懲戒について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	いじめ（いじめ自殺）についての視聴覚教材を用いて、いじめについて考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）についてディスカッションを行う。	いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）についてディスカッションを行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。	不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第9回	生徒を取り巻くインターネットや性に関する問題について考える。	生徒を取り巻くインターネットや性に関する問題について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第10回	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けについて学ぶ。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第11回	進路指導の歴史及びキャリア教育の概念を学び、その発展の方向性を確認する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：教育に

第12回	職業についての体験活動を中心に、進路指導・キャリア教育の意義を学ぶ。		関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第13回	中学校段階における進路指導・キャリア教育の考え方とポートフォリオ作成。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第14回	第１３回で作成したポートフォリオを発表し、相互検討を行う。	第１３回で作成したポートフォリオを発表し、相互検討を行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第15回	高校時代までに経験してきた生徒指導・進路指導と本授業を通して学んだ内容を比較検討し、改めて生徒指導・進路指導のあり方について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『生徒指導提要』（平成23年）『小学校学習指導要領』（平成29年）
『中学校学習指導要領』（平成29年）
岩城孝次・森嶋昭伸『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房
適宜、資料を配付する。

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）
単位認定基準60%以上

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C434

講義コード	30790001
講義名	生徒指導論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

①教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解すると同時に、教育課程全般のなかでの生徒指導の位置づけを理解する。
②集団指導・個別指導また「個人と集団」という概念のもとで、生徒指導について考える。
③子どもの成長発達の段階を踏まえながら、基礎的生活習慣や規範意識の重要性について考える（栄養教諭の立場から）。
④学校教育における体罰、いじめ、不登校、インターネットや性、また児童虐待に関する問題などを具体的に取り上げながら、これらへの対応について考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、身近な生活からグローバルなテーマ、そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	教育課程における生徒指導の位置付けについて理解する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：教育

第2回	生徒指導について集団指導と個別指導の実態を踏まえ、その方法原理を理解する。		に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第3回	・校則の実態を学びながら、なぜ校則が存在し、なぜ必要であるかについて考える。 ・体罰の実態を学びながら、体罰禁止の根拠と懲戒の実施について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第4回	いじめ（いじめ自殺）についての視聴覚教材を用いて、いじめについて考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第5回	・いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）について考える。 ・不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第6回	栄養教諭を前提として、基礎的生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。― 朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に ―	栄養教諭を前提として、基礎的生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。― 朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に ―	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第7回	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第8回	第７回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。まとめ。	第７回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。まとめ。	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『生徒指導提要』（平成22年）『小学校学習指導要領』（平成29年）
『中学校学習指導要領』（平成29年）
岩城孝次・森嶋昭伸『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房
適宜、資料を配付する。

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）
単位認定基準60%以上

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室 ※授業終了後も、適宜受け付けます。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C452

講義コード	30800001
講義名	教育相談（共通）
(副題)	【教職必修（共通）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育センター教育相談部やスクールカウンセラーの経験を活かし、教育相談に臨むにあたって必要な姿勢や在り方を解説する
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

児童・生徒の発達の状況等一般的理解の意義と手法を学びながら、個々の心理的特質や教育的課題を捉える個別的理解ついて学習する。その際、教育相談の技術として、カウンセリングに関する基礎的事柄についても、体験的な学びを交えながら理解を深めていく。また、教育相談の組織的な取組や連携についても、職種や分掌を意識した校内体制の在り方を理解するとともに、保護者に対する教育相談や、必要に応じた地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義を理解していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学校教育やそれを囲む社会との関係で、教育相談の必要性を理解し、基礎的知識を得るとともに、ディプロマポリシーで重視する実践する際の基礎力を身に付けます。

到達目標

１）学校における教育相談の意義と理論を理解する。
２）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。
３）教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	大澤靖彦	オリエンテーション 日本における教育相談の歴史を踏まえ、教育相談とは何か（目的、開発的・予防的・治療的側面）について理解する。	教育相談がどのように行われているのかについて、グループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：教科書を準備し、授業に備える。 復習90分：教科書p2～7と配布資料を熟読し、教育相談の意義と役割についてノートに整理する。
				予習90分：教科

第2回	大澤靖彦	教育相談の実際（教育相談と近接概念、教師の強みと限界） 教師の行う相談活動について、学校現場の様子を理解しながら、教師だからこそできる相談について考究する。	教師の強みとは何かについてグループで話し合い自分の考えを深める。	書pp.176～185を読み、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：カウンセラーではなく、教師だからこそできる相談の長所・短所をノートに整理するとともにレポートに着手する。
第3回	大澤靖彦	アセスメント（情報収集の方法、援助シート、心理検査） 子どもの援助のためにはアセスメントは重要である。アセスメントの一部である心理テストについても理解する。	児童生徒の支援にはどのような情報が必要なのかについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：教科書p90～100を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：さまざまなテストの特徴について覚え、過去問を解く。
第4回	大澤靖彦	カウンセリングに学ぶ相談の基本姿勢１（来談者中心療法） 教育相談における受容と共感がなぜ大切なのか、叱ることの意味について考究し、カウンセリングマインドとは何かについて理解する。	児童生徒が相談しやすくするために教師はどのような配慮が必要かについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：教科書pp.13～21を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：学校カウンセリングのベースとなるロジャーズの考え方をおさえたうえで、カウンセリングマインドについて理解する。
第5回	大澤靖彦	カウンセリングに学ぶ相談の基本姿勢２（精神分析、行動療法） 学習理論に基づく人間の行動の理解と行動変容の考え方を理解する。	児童生徒理解のために心理療法や理論の知恵をどう活かすかについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：1年時の「心理学」で学んだ「学習」についてポイントを整理しておく。 復習90分：日常生活の中にある学習した困ったことについてどのようなものがあるか考え、ノートに書き出す。
第6回	大澤靖彦	カウンセリングに学ぶ相談の基本姿勢３（認知行動療法、家族へのアプローチ、日本で生まれた心理療法）	児童生徒理解のために心理療法や理論の知恵をどう活かすかについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：1年時の「心理学」で学んだ「学習」についてポイントを整理しておく。 復習90分：日常生活の中にある学習した困ったことについてどのようなものがあるか考え、ノートに書き出す。
第7回	大澤靖彦	面接技法（受容、繰り返し、明確化、支持、沈黙、質問） 面接における基本的な技法を習得することを目指すが、日常の会話や授業でも使えるようにする。	児童生徒が安心して話ができるように教師が配慮すべきことについて、グループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：自分にとって、安心して話ができる場面とはどのような場面か考え、ノートにまとめてくる。 復習90分：面接の基本的技法を日常生活で使用して、改善点や感想を書き出す。
				予習90分：前回の授業のプリントを参考に面接の

第8回	大澤靖彦	ロールプレイ 基本的な応答を使ったロールプレイを行い、面接の基本を習得する。	ロールプレイを通して、面接の基本的技法を習得する。	ロールプレイができるように準備してくる。 復習90分：日常生活で学んだことを試してみて、自分の応答のクセや改善点について考える。
第9回	大澤靖彦	発達段階の理解（発達段階、発達課題、愛着との関連） 発達段階とその段階に特徴的にみられる問題について理解する。		予習90分：1年時の「心理学」で学んだ「発達」についてポイントを押さえておく。 復習90分：発達にかかわるさまざまな問題についてノートにまとめる。
第10回	大澤靖彦	障害の理解（発達障害、不安障害等） 勉強についていけない子、友だちとうまくやれない子の背景について考えるとともに、その顕著な例としての発達障害について理解を深める。	学習障害の疑似体験を通して、児童生徒理解を深める。	予習90分：教科書p69～78を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：発達障害の特徴について整理してノートにまとめる。
第11回	大澤靖彦	不登校の理解と対応 学校へ行けない子の背景について考えるとともに、不登校への対応について考える。	不登校という現象を通して児童生徒理解を深める。	予習90分：教科書p112～124を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：不登校を予防するために教師はどのような配慮をすればよいのかについてノートにまとめる。
第12回	大澤靖彦	非行の理解と対応 非行にはしる子の背景について理解を深め、学校としてどのようなことができるかについて考える。さらに学級崩壊の背景を知ることで子ども理解を深める	なぜ非行に走るのかについてグループで話し合い児童生徒理解をを深める。	予習90分：教科書p126～148を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：新聞等で少年犯罪についてのトピックスを拾い出し、考究し、ノートにまとめる。
第13回	大澤靖彦	いじめの理解と対応 ／ 教育相談における保護者への支援 いじめのメカニズムを理解することで現代の子どもの理解を深めるとともにその対応について考究する。	いじめがおこる背景についてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：教科書pp.149～162を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：いじめを予防するためには教師はどのような配慮すればよいのかについてノートにまとめる。
第14回	大澤靖彦	被虐待児の理解と対応 ／ チーム支援 被虐待児の特徴を理解し、点（一人の教師）ではなく面（チーム）で支えることについて考究する。	なぜ虐待が起こるのかについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：なぜ虐待が起こるのか自分なりに仮説を立ててみる。 復習90分：攻撃性のコントロールができない被虐待児への対応について整理する。
				予習90分：14回までの小テストに目を通して確

第15回	大澤靖彦	まとめ ／ 教師のメンタルヘルス		認テストの準備をする。 復習90分：教師のメンタルヘルスを維持し向上させるためには何が必要なのかについてノートに整理する。

教科書

石川正一郎・藤井泰 編 『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房 2010年

参考書

文部科学省『生徒指導提要』2010年

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
授業への積極的参加30%、レポート課題30%、試験40%の割合で総合評価

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業で資料を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。予習として各回の主題に該当する教科書の章に目を通すこと、復習として配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C453

講義コード	30810001
講義名	教職実践演習（中）（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で数年間にわたり、教員として働いた経験がある。その経験を生かして、生徒を巻き込む実践授業ができるよう、学生自身が主体的に企画した創作活動等を取り入れる。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の実施を踏まえて、学校教育のさまざまな場面で、教育者として対応できる実践力を養う。具体的には、栄養学、生活科学、芸術学の各教科の壁を取り払ったうえで、①食とパッケージデザイン作品づくり、②自己表現の表現方法の学び、③特別支援教育やキャリア教育など教科以外の指導の資質向上に関し議論する。履修カルテにより、教員としての実践的な能力を個別に把握し、個々の学生の教育指導力を高めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この演習では教育職という専門性の高い仕事について理解を深める。また家庭科教諭になるための、実践的な指導能力を養う。教職科目のひとつであるが、生活科学科の教育目的・目標にある「実践を重視し、『健康』『栄養』の分野で活躍できる人材を育成する」点にもかかわる。みずから進んで、課題解決に努力し、他の学生と協調してレシピや作品づくりに取り組み、グループ内でアイデアを出し合い、それを発表できるまでのプロセスをたどる。

到達目標

実際の教育現場で、児童や生徒と向きあい、教科指導や生活指導、進路指導など多岐にわたる教員の仕事を理解し、一人の教員として自信をもって教壇にたつ心構えを持つことを目標とする。教職課程のいくつかの教科の中で総まとめの科目に相当するので、２年間にわたる教職課程の講義や実習を総合的に振り返り、小中学校における教育の理念や、各教科の教育方法について学んだことをまとめる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	橋爪			

第1回	博幸田口和人橋本まさ子	教職実践演習のガイダンス。演習内容を理解し、小・中学校での教育理念について理解する。		復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第2回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	履修カルテの確認と作成①	１年次から手掛けている履修カルテの作成意義を理解し、これまでの授業を振り返り、カルテを記入する。	履修カルテの見直しに90分、履修カルテの完成に向けての記入に90分を充てる。
第3回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	小・中学校におけるキャリア教育	自身の体験を振り返り、小・中学生に仕事や働くことの意義をいかに説くかを考え発表し、他の学生と意見交換する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第4回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	履修カルテの確認と作成②	履修カルテの記入を完了し、自己評価表に数値記入し、自己評価グラフを作成する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
	橋爪博幸田口		生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生をグループ分けし、企画を練る。生活科学科	予習に90分、復習

第5回	和人橋本まさ子	短大教職学生の共同企画①	の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、カロリー控えめのお菓子とそのパッケージをデザインする。	に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第6回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	短大教職学生の共同企画②	企画を固める。２回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決める。作品のタイトルを決め、仕上げまでの計画をたてる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第7回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	短大教職学生の共同企画③	お菓子やパッケージ作成の準備に取りかかる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第8回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	短大教職学生の共同企画④	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生がそれぞれお菓子作りやパッケージづくりに取り組む。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第9回	橋爪博幸田口和人橋	短大教職学生の共同企画⑤	グループごとに作品をもちより、作品の 発表と意見交換を行う。	事前準備に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

	本まさ子			
第10回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	オリジナルビジョンボード①作成	オリジナルビジョンボードの作り方を説明し、事前に写真やイラストなどを準備する。模造紙に自分の未来像を描く。	オリジナルビジョンボードの発表準備（180分）。振り返りに90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第11回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	オリジナルビジョンボード②発表	学生自身のオリジナルビジョンボードを作成し、他の学生を前にそて口頭で説明する。	「オリジナルビジョンボード」作成の補足作業を行う（180分）。
第12回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	学校現場の声を聴く	現役の先生から、これからの教育現場で求められる教員の資質について講話を聴く。いつつかの質問を投げかける。	現代の教育問題について事前に調査する（180分）。
第13回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	特別支援教育の在り方について考える	『みんなの学校』を通して学んだ特別支援教育についてレポートにまとめる。	映画『みんなの学校』について事前学習をしておく（120分）。特別支援教育の予習に60分、授業の復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

第14回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	現代日本社会にみられる隠れた貧困問題を理解する	隠れた貧困の実態を知る。学校教育の現場で隠れた貧困に苦しむ子どもたちにできる援助を考える。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第15回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	教育にかかわる授業や演習をふり返り、教育実習や演習の授業等を通じて学びや気づき、教育者としての振る舞いに必要なことをまとめる。	実践演習で学んだことや、２年間の教職課程を振り返って反省点や改善点等についてまとめ発表する。	復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

教科書

必要な時に提示する。

参考書

授業内で、必要な時に提示する。

成績評価の方法・基準

100点満点で、60 点 以上で単位認定する。完成した作品だけでなく、授業への取り組み状況（50点）、内容のある口頭発表（50点）を評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートは確認後、補足説明やコメントを付して返却する。口頭発表やグループ討議の結果発表を行い、演習の中で随時、教員からコメント等を伝える。この返答をもってフィードバックとみなす。

履修のポイント

演習科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べること、他の学生たちと協力する姿勢で授業に臨むことが大切である。

オフィス・アワー

月曜日の昼休みをオフィスアワーとします。９号館3階 第6研究室に来てください。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C472

講義コード	30820001
講義名	教職実践演習（栄養教諭）（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で数年間にわたり、教員として働いた経験がある。その経験を生かして、生徒を巻き込む実践授業ができるよう、学生自身が主体的に企画した創作活動等を取り入れる。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の実施を踏まえて、学校教育のさまざまな場面で、教育者として対応できる実践力を養う。具体的には、栄養学、生活科学、芸術学の各教科の壁を取り払ったうえで、①食とパッケージデザイン作品づくり、②自己表現の表現方法の学び、③特別支援教育やキャリア教育など教科以外の指導の資質向上に関し議論する。履修カルテにより、教員としての実践的な能力を個別に把握し、個々の学生の教育指導力を高めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この演習では教育職という専門性の高い仕事について理解を深める。また栄養教諭になるための、実践的な指導能力を養う。教職科目のひとつであるが、生活科学科の教育目的・目標にある「実践を重視し、『健康』『栄養』の分野で活躍できる人材を育成する」点にもかかわる。みずから進んで、課題解決に努力し、他の学生と協調してレシピや作品づくりに取り組み、グループ内でアイデアを出し合い、それを発表できるまでのプロセスをたどる。

到達目標

実際の教育現場で、児童や生徒と向きあい、教科指導や生活指導、進路指導など多岐にわたる教員の仕事を理解し、一人の教員として自信をもって教壇にたつ心構えを持つことを目標とする。教職課程のいくつかの教科の中で総まとめの科目に相当するので、２年間にわたる教職課程の講義や実習を総合的に振り返り、小中学校における教育の理念や、各教科の教育方法について学んだことをまとめる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
	橋爪			

第1回	博幸田口和人橋本まさ子	教職実践演習のガイダンス。演習内容を理解し、小・中学校での教育理念について理解する。		復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第2回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	履修カルテの確認と作成①	１年次から手掛けている履修カルテの作成意義を理解し、これまでの授業を振り返り、カルテを記入する。	履修カルテの見直しに90分、履修カルテの完成に向けての記入に90分を充てる。
第3回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	小・中学校におけるキャリア教育	自身の体験を振り返り、小・中学生に仕事や働くことの意義をいかに説くかを考え発表し、他の学生と意見交換する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第4回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	履修カルテの確認と作成②	履修カルテの記入を完了し、自己評価表に数値記入し、自己評価グラフを作成する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
	橋爪博幸田口		生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生をグループ分けし、企画を練る。生活科学科	予習に90分、復習

第5回	和人橋本まさ子	短大教職学生の共同企画①	の学生とアート・デザイン学科の学生が協力して、カロリー控えめのお菓子とそのパッケージをデザインする。	に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第6回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	短大教職学生の共同企画②	企画を固める。２回目は、具体的なレシピとパッケージの形を決める。作品のタイトルを決め、仕上げまでの計画をたてる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第7回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	短大教職学生の共同企画③	お菓子やパッケージ作成の準備に取りかかる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第8回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	短大教職学生の共同企画④	生活科学科の学生とアート・デザイン学科の学生がそれぞれお菓子作りやパッケージづくりに取り組む。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第9回	橋爪博幸田口和人橋	短大教職学生の共同企画⑤	グループごとに作品をもちより、作品の 発表と意見交換を行う。	事前準備に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

	本まさ子			
第10回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	オリジナルビジョンボード①作成	オリジナルビジョンボードの作り方を説明し、事前に写真やイラストなどを準備する。模造紙に自分の未来像を描く。	オリジナルビジョンボードの発表準備（180分）。振り返りに90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第11回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	オリジナルビジョンボード②発表	学生自身のオリジナルビジョンボードを作成し、他の学生を前にそて口頭で説明する。	「オリジナルビジョンボード」作成の補足作業を行う（180分）。
第12回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	学校現場の声を聴く	現役の先生から、これからの教育現場で求められる教員の資質について講話を聴く。いつつかの質問を投げかける。	現代の教育問題について事前に調査する（180分）。
第13回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	特別支援教育の在り方について考える	『みんなの学校』を通して学んだ特別支援教育についてレポートにまとめる。	映画『みんなの学校』について事前学習をしておく（120分）。特別支援教育の予習に60分、授業の復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

第14回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	現代日本社会にみられる隠れた貧困問題を理解する	隠れた貧困の実態を知る。学校教育の現場で隠れた貧困に苦しむ子どもたちにできる援助を考える。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第15回	橋爪博幸田口和人橋本まさ子	教育にかかわる授業や演習をふり返り、教育実習や演習の授業等を通じて学びや気づき、教育者としての振る舞いに必要なことをまとめる。	実践演習で学んだことや、２年間の教職課程を振り返って反省点や改善点等についてまとめ発表する。	復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。

教科書

必要な時に提示する。

参考書

授業内で、必要な時に提示する。

成績評価の方法・基準

100点満点で、60 点 以上で単位認定する。完成した作品だけでなく、授業への取り組み状況（50点）、内容のある口頭発表（50点）を評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートは確認後、補足説明やコメントを付して返却する。口頭発表やグループ討議の結果発表を行い、演習の中で随時、教員からコメント等を伝える。この返答をもってフィードバックとみなす。

履修のポイント

演習科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べること、他の学生たちと協力する姿勢で授業に臨むことが大切である。

オフィス・アワー

月曜日の昼休みをオフィスアワーとします。９号館3階 第6研究室に来てください。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C472

講義コード	30830001
講義名	事前・事後指導（家庭）（R3入学生）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		予習（教育実習に向けて準備）に90分
第2回	橋爪博幸	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化		復習に120分、予習に60分以上
	橋本	教材研究の方法		予習（授業内容について理

第3回	まさ子	基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		解しておく、ノートにまとめ）に180分以上
第4回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り アクティブラーニング：学習指導案に関する個別指導等を実施する。		予習（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第5回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導、礼状の書き方	お世話になった学校にあててお礼状を書く。	予習（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第6回	橋本まさ子	教育実習体験の発表準備 教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備	各自の教育実習報告を実施し、報告会にむけて準備する。	予習（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	各自の教育実習報告を実施する。	予習（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第8回	橋爪博幸	１，２年生合同 教育実習報告会		復習まとめ（教育実習ノート等の整理）に180分

教科書

必要に応じて資料で対応する

参考書

小学校 学習指導要領の展開 明治図書
家庭科教育法 高陵社書店

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート・課題等100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。
授業への積極的な取り組む態度が 後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。 9号館3階 第６研究室に来てください。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C413

講義コード	30830003
講義名	事前・事後指導（家庭）（R2入学生）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等での授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		予習（教育実習に向けて準備）に90分
第2回	橋爪博幸	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化		復習に120分、予習に60分以上
	橋本	教材研究の方法		予習（授業内容について理

第3回	まさ子	基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		解しておく、ノートにまとめ）に180分以上
第4回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り アクティブラーニング：学習指導案に関する個別指導等を実施する。		予習（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第5回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導、礼状の書き方	お世話になった学校へ向けてお礼状を書く。	予習（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第6回	橋本まさ子	教育実習体験の発表準備 教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備	各自の教育実習報告を実施し、報告会にむけて準備する。	予習（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	各自の教育実習報告を実施する。	予習（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第8回	橋爪博幸	１，２年生合同 教育実習報告会		復習まとめ（教育実習ノート等の整理）に180分

教科書

必要に応じて資料で対応する

参考書

小学校 学習指導要領の展開 明治図書
家庭科教育法 高陵社書店

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート・課題等100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。
授業への積極的な取り組む態度が 後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。 9号館3階 第６研究室にきてください。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C413

講義コード	30840001
講義名	教育実習（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で家庭科の授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科とは、家庭生活を中心とする人間の生活に必要な諸事項のうち、学校において計画的に指導する必要のあるものを系統的に編集した教科ともいえる。そこで、教育実習では、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、家庭科教諭としての使命や職務内容の重要性を理解させ、学校において「人間生活に関する指導」が学校教育活動の中で実施できるように試みる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、科学的に理解する。そこで教育実習に向けて、積極的な取り組みを望み、教員としての自覚を身に着けることをめざす。

到達目標

家庭科教諭として、児童・生徒の体験・経験を踏まえた授業内容を実践できるような知識、技術を習得する

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	授業計画、評価方法 教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 実習に臨むにあたっての不安と期待 各自の実習予定と個別指導時間の調整		復習120分以上：教育実習準備
第2回	橋本ま	教育実習日誌の記録方法	より良い教育実習記録日誌を作成するための工夫についての情	予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育

	さ子		報交換をする。	実習準備
第3回	橋本まさ子	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、指名、机間巡視、ノート指導）		予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第4回	橋本まさ子	模擬授業 学習指導案に関する個別指導		予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第5回	橋本まさ子	教育実習への準備 礼状の書き方		予習60分：資料を読んでおく、復習120分以上：教育実習準備
第6回	橋本まさ子	3週間の教育実習		教育実習ノートの記入
第7回	橋本まさ子	教育実習体験の発表準備	各自の教育実習報告を実施し、反省会にむけての資料の参考にするための情報交換を実施する。	予習60分：教育実習ノートまとめ、復習120分：発表会（報告会）の準備
第8回	橋本まさ子	教育実習体験の発表 他者評価と自己反省		予習120分以上：発表会の準備 復習60分：総まとめ

教科書

随時資料の配布

参考書

家庭科教育法 高陵社書店
家庭科の指導 建帛社
新しい家族関係 建帛社
衣生活概論 井上書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 課題30%、模擬事業評価30%、レポート40%

課題等に対する
フィードバックの方法

実習ノートは提出後、コメント等を入れて返却する。教育実習に活用できる教材等はノートに添付しておくと良い。

履修のポイント

教育実習を成功させる

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）授業終了後、随時 9号館2階 第5研究室

科目区分

教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C454

講義コード	30850001
講義名	栄養教育実習事前・事後指導（栄養）R3入
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解し、教育実習を成功させる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		教育実習に向けて準備に180分
第2回	橋爪博	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化 実習前の不安と期待	教育実習の心構え等について問題定義して話し合いを行う	前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく180分

	幸	の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化		以上
第3回	橋本まさ子	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく180分以上
第4回	橋爪博幸	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導	それぞれの模擬授業を聞いて情報交換を行う	学習指導案、教材準備等に180分以上
第5回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導 礼状の書き方	お世話になる学校にあてて お礼状を作成する。	学習指導案、教材準備等に180分以上
第6回	橋本まさ子	教育実習体験の発表準備 教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備		教育実習体験の発表準備のために180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	各自の教育実習報告を実施し、より良い用報告会のための準備のための情報交換を実施する。	事前準備のために180分以上
第8回	橋爪博幸	１，２年生合同 教育実習報告会	まとめ（教育実習ノート等の整理）	事前準備のために180分以上

教科書

栄養教諭論 理論と実際 建帛社
必要に応じて資料で対応する

参考書

栄養教諭はなにをすべきか ぎょうせい
栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新時代の栄養教諭実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート・課題等100％

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却後学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。
授業への積極的な取り組む態度が 後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。 9号館2階 第６研究室にきてください。

科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C414

講義コード	30850003
講義名	栄養教育実習事前・事後指導（栄養）R2入
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋爪 博幸	指定なし
教員	橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身に着ける。教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術・授業の技術を身に着けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。児童生徒とのかかわり方を理解し、教育実習を成功させる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		教育実習に向けて準備に180分
第2回	橋爪博幸	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化		前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく180分以上
	橋	教材研究の方法		

第3回	本まさ子	基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		前回の授業内容について理解しておく、ノートにまとめておく180分以上
第4回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導		学習指導案、教材準備等に180分以上
第5回	橋本まさ子	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導 礼状の書き方	学校に宛ててお礼状を作成する。	学習指導案、教材準備等に180分以上
第6回	橋爪博幸	教育実習体験の発表準備		教育実習体験の発表準備のために180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	各自の教育実習報告を実施し、より良い用報告会のための準備のための情報交換を実施する。	教育実習体験の発表準備のために90分以上 次回の合同報告会の準備のために90分以上
第8回	橋爪博幸	１，２年生合同 教育実習報告会		まとめ（教育実習ノート等の整理）180分以上

教科書

栄養教諭論 理論と実際 建帛社
必要に応じて資料で対応する

参考書

栄養教諭はなにをすべきか ぎょうせい
栄養教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新時代の栄養教諭実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート・課題等100％

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却後学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。
授業への積極的な取り組む態度が 後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30〜13：20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。 9号館2階 第６研究室にきてください。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CS-C414

講義コード	30860001
講義名	栄養教育実習（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橋本 まさ子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身につけ、人間の生活に必要な諸事項のうち、学校において計画的に指導する必要のあるものを系統的に実施する。そこで、教育実習では、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、栄養教諭としての使命や職務内容の重要性を理解させ、学校において「人間生活に関する指導」が学校教育活動の中で実施できるように試みる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる事柄について、現場で実践的に活用し、問題を解決できる能力を修得する。将来的には食の専門家として社会で生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身につける。児童・生徒の体験・経験を踏まえた授業内容を実践できるような知識、技術を習得する。
児童生徒との関わりを方を理解し、教育実習を成功させることを目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橋本まさ子	○授業計画、評価方法 ○教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 ○実習に臨むにあたっての不安と期待 ○各自の実習予定と個別指導時間の調整		復習120分以上：教育実習準備
	橋			

第2回	本まさ子	○教育実習日誌の記録方法	より良い教育実習日誌の書き方について情報交換をする。	予習60分(資料を読んでおく)、復習120分以上
第3回	橋本まさ子	○教材研究の方法 ○基本技術（板書、話し方、発問、指名、机間巡視、ノート指導）		予習60分、復習120分以上
第4回	橋本まさ子	○模擬授業 ○学習指導案に関する個別指導		予習60分、復習120分以上
第5回	橋本まさ子	○教育実習への準備 ○礼状の書き方		予習60分、復習120分以上
第6回	橋本まさ子	1週間（5日間）の教育実習		復習、教育実習ノートの記入のために、1日120分以上
第7回	橋本まさ子	○教育実習体験の発表準備	各自の教育実習報告をする。またより良い報告会のための準備としての意見交換を実施する。	予習60分、復習120分
第8回	橋本まさ子	○教育実習体験の発表 ○他者評価と自己反省		予習180分以上

教科書

随時資料の配布

参考書

栄養教諭は何をすべきか ぎょうせい
栄耀教諭 養成における 実習の手引き 東山書房
新時代の栄養教育実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 課題・レポート等で100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあるので、返却後、学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対応につながるので積極的な取り組む姿勢が教育実習を成功させるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（昼休み）または授業終了後、随時 9号館2階 第5研究室

科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
CS-C474

講義コード	30870001
講義名	介護等体験実習（家庭）（R3入）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での特別支援学級担任などの教員経験を活かし、 障がい者，高齢者、支援を必要とする児童生徒との交流等から学ぶ姿勢を身に付け、深められる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

教職免許を取得するにあたり、「社会福祉施設等において障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験」が義務づけられています。この主旨は、教員を志望する者が介護等の体験を通じて、「個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めること」により、教員としての資質の向上を図ろうとするところにあります。この主旨を十分に理解して、「体験実習」に望むこと。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

社会的弱者の存在や生活を認識・了解した教員像をめざすにあたり、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	田口和人 橋爪博幸	社会福祉施設等での障害者・高齢者の実情を踏まえ、介護や介助、交流等について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第2回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第3回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。

第4回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第5回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第6回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第7回	田口和人 橋爪博幸	5日間の体験実習について報告する。	報告の準備をする。他の報告者の話を聞く。
第8回	田口和人 橋爪博幸	特別支援学校での児童・生徒の学習や生活について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第9回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第10回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第11回	田口和人 橋爪博幸	2日間の体験実習についてレポートを提出する。	体験実習をよく振り返ること。

教科書

事前指導においては、資料を配付します。

参考書

『新版・よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編

成績評価の方法・基準

体験実習先の評価による。

課題等に対する
フィードバックの方法

実習ノートを返却するので、それをもとに体験実習を振り返る。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C435

講義コード	30870002
講義名	介護等体験実習（家庭）（R2入）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での特別支援学級担任などの教員経験を活かし、 障がい者，高齢者、支援を必要とする児童生徒との交流等から学ぶ姿勢を身に付け、深められる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

教職免許を取得するにあたり、「社会福祉施設等において障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験」が義務づけられています。この主旨は、教員を志望する者が介護等の体験を通じて、「個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めること」により、教員としての資質の向上を図ろうとするところにあります。この主旨を十分に理解して、「体験実習」に望むこと。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

社会的弱者の存在や生活を認識・了解した教員像をめざすにあたり、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	田口和人 橋爪博幸	社会福祉施設等での障害者・高齢者の実情を踏まえ、介護や介助、交流等について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第2回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第3回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。

第4回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第5回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第6回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第7回	田口和人 橋爪博幸	5日間の体験実習について報告する。	報告の準備をする。他の報告者の話を聞く。
第8回	田口和人 橋爪博幸	特別支援学校での児童・生徒の学習や生活について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第9回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第10回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第11回	田口和人 橋爪博幸	2日間の体験実習についてレポートを提出する。	体験実習をよく振り返ること。

教科書

事前指導においては、資料を配付します。

参考書

『新版・よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編

成績評価の方法・基準

体験実習先の評価による。

課題等に対する
フィードバックの方法

実習ノートを返却するので、それをもとに体験実習を振り返る。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

CM-C435